

豊川市
地域福祉に関する市民アンケート
調査結果報告書

平成 29 年 3 月

豊 川 市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	2
2	調査対象.....	2
3	調査期間.....	2
4	調査方法.....	2
5	回収状況.....	2
6	調査結果の表示及び記述方法.....	2
II	調査結果.....	3
1	回答者属性.....	4
問1	性別.....	4
問2	年齢.....	4
問3 (1)	世帯人数.....	6
問3 (2)	家族構成.....	6
問4	職業.....	8
問5-1	在住地域(中学校区).....	10
問5-2	町内会加入の有無.....	12
問6	在住年数.....	14
問7	経済的な暮らし向き.....	16
2	地域との関わりや地域に対する意識について.....	18
問8	住みやすさ.....	18
問9	近所付き合いの程度.....	20
問10	近所の人との相談・助け合いの必要性.....	22
問11-1	ここ5年間の地域の行事や活動への参加状況.....	24
問11-2	地域の行事や活動へ参加したことがない理由.....	26

3	地域での支え合いや福祉への関心について	28
問 12	地域で関心のある支えあい活動	28
問 13	何らかの支援を必要としている人に手伝いたいこと	30
問 14 (1)	近所で困っている人がいた場合、「手助けできること」	32
問 14 (2)	自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」	34
問 15	住みやすい地域を実現していくうえでの問題	36
問 16	誰もが安心して暮らすために必要なこと	38
問 17	社会福祉協議会の認知度	42
問 18	民生委員・児童委員の認知度	44
4	ボランティア・地域活動について	46
問 19-1	ボランティア・地域活動について	46
(1)	これまでに参加したことがあるボランティア・地域活動	46
(2)	今後(も)参加してみたいボランティア・地域活動	48
問 19-2	ボランティア・地域活動をしたことがない理由	50
問 20	ボランティア・地域活動が活発になるために必要なこと	52
5	暮らしの中での不安やその相談相手などについて	56
問 21	暮らしの中での悩みや不安	56
問 22	悩みや不安についての相談相手	58
問 23	福祉サービスに関する情報の入手方法	60
問 24	福祉サービスに関する情報の入手状況	62
6	これからの地域福祉について	64
問 25	行政と地域住民の関係について	64
問 26	地域における防犯に関する取り組み	66
問 27	地域における災害時の備え	68

Ⅲ 自由意見.....	71
(1) 福祉観.....	72
(2) 近所付き合い.....	74
(3) 町内会.....	76
(4) 地域交流・地域活動.....	78
(5) ボランティア.....	81
(6) 民生委員.....	83
(7) 高齢者ニーズ.....	84
(8) 子育てニーズ.....	86
(9) 障害者サービス.....	87
(10) 交通・交通マナー.....	88
(11) 情報提供.....	92
(12) 生活安全（防犯・防災）.....	97
(13) 公共施設.....	99
(14) 行政ニーズ.....	101
(15) その他.....	103
参考資料 アンケート調査票.....	105

I 調査の概要

1 調査の目的

社会福祉法第107条に基づく第3次豊川市地域福祉計画（平成30年度から平成34年度）の策定に向けて、市民の地域福祉に関する意識や意見、地域の実状を計画に反映させるため、調査を実施します。

2 調査対象

豊川市在住の20歳以上2,000人を無作為抽出

3 調査期間

平成29年1月13日から平成29年1月31日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	回収数	回答率
2,000人	902人	45.1%

6 調査結果の表示及び記述方法

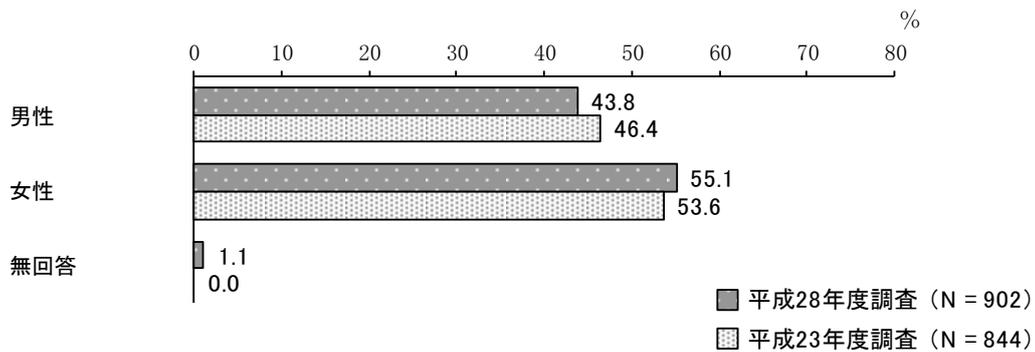
- ・回答は各質問の有効回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・一人の回答者が複数回答をすることができる設問では、各選択肢の回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・回答者属性（性別、年齢等）ごとの表中の「N」または「有効回答数」の値は、各質問に対する「無回答」「わからない」の回答者数を除いた集計対象総数です。
- ・「平成23年度調査」とは、平成24年3月に取りまとめた「地域福祉に関する市民アンケート調査結果報告書」のことです。
- ・表において、回答の割合が最も高い項目については濃い網掛け（例：40.0）、次いで2番目に高い項目については薄い網掛け（例：30.0）で表示しています。

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

問1 性別

「男性」の割合が43.8%、「女性」の割合が55.1%となっています。

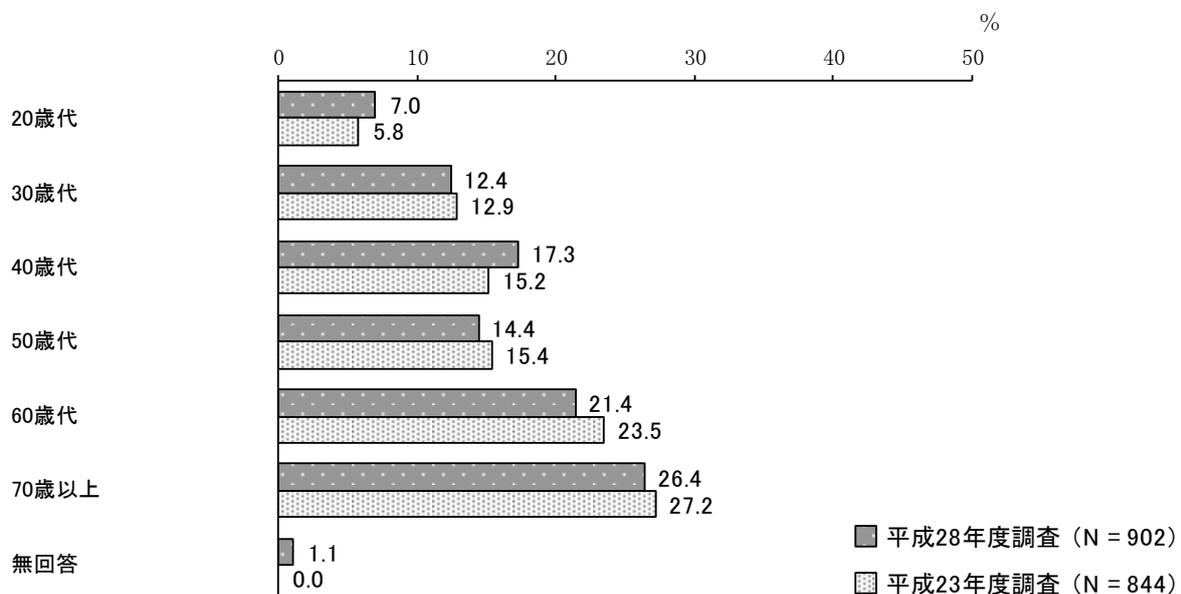


問2 年齢

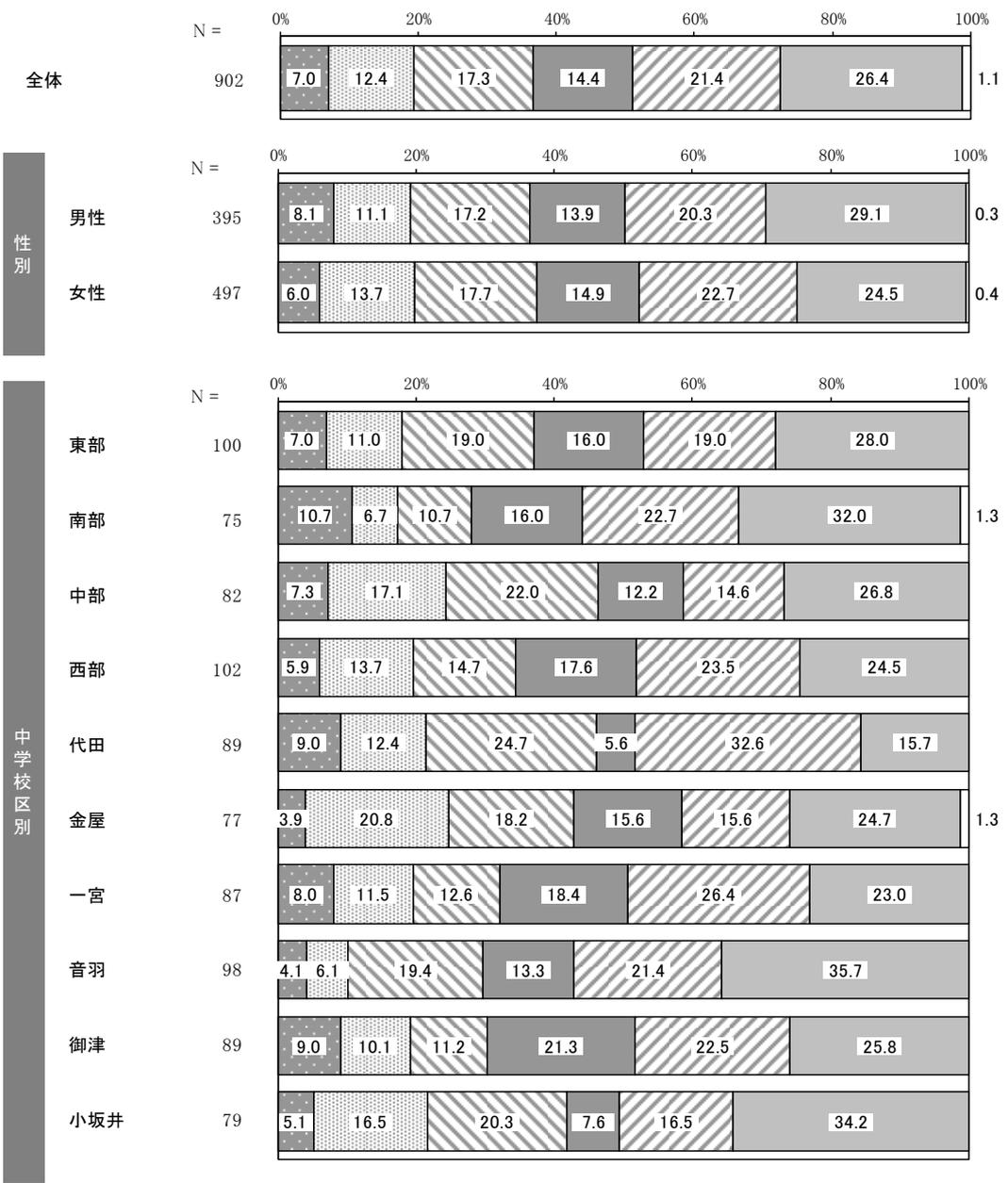
全体では、「70歳以上」の割合が26.4%と最も高く、次いで「60歳代」が21.4%、「40歳代」が17.3%となっており、60歳以上の割合が5割弱となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

中学校区別では、音羽中学校区、南部中学校区、小坂井中学校区で60歳以上の割合が50%を超えています。



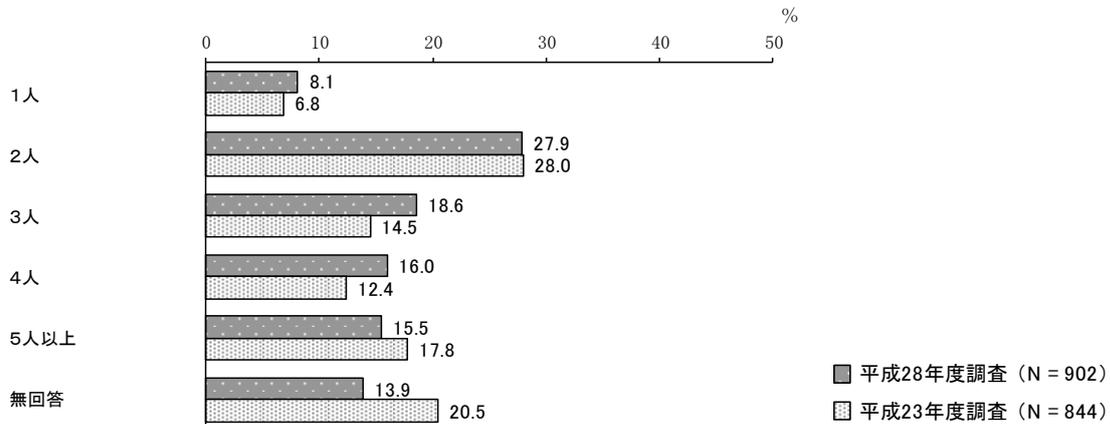
■ 20歳代 □ 30歳代 ▨ 40歳代 ■ 50歳代 ▩ 60歳代 ▪ 70歳以上 □ 無回答



問3 (1) 世帯人数

全体では、「2人」の割合が27.9%と最も高く、次いで「3人」が18.6%、「4人」が16.0%となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。



問3 (2) 家族構成

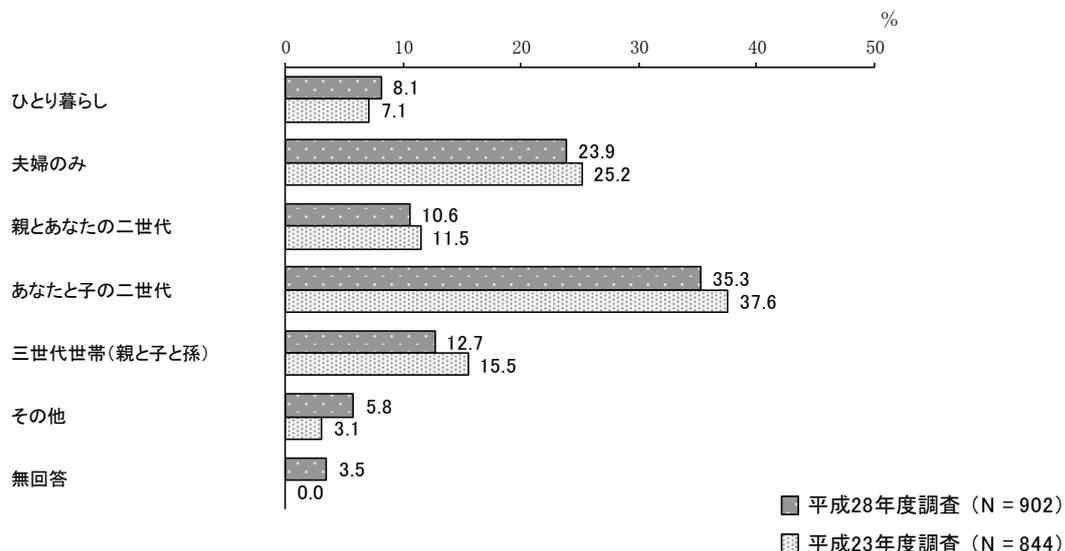
全体では、「あなたと子の二世帯」の割合が35.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が23.9%、「三世帯世帯（親と子と孫）」が12.7%となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

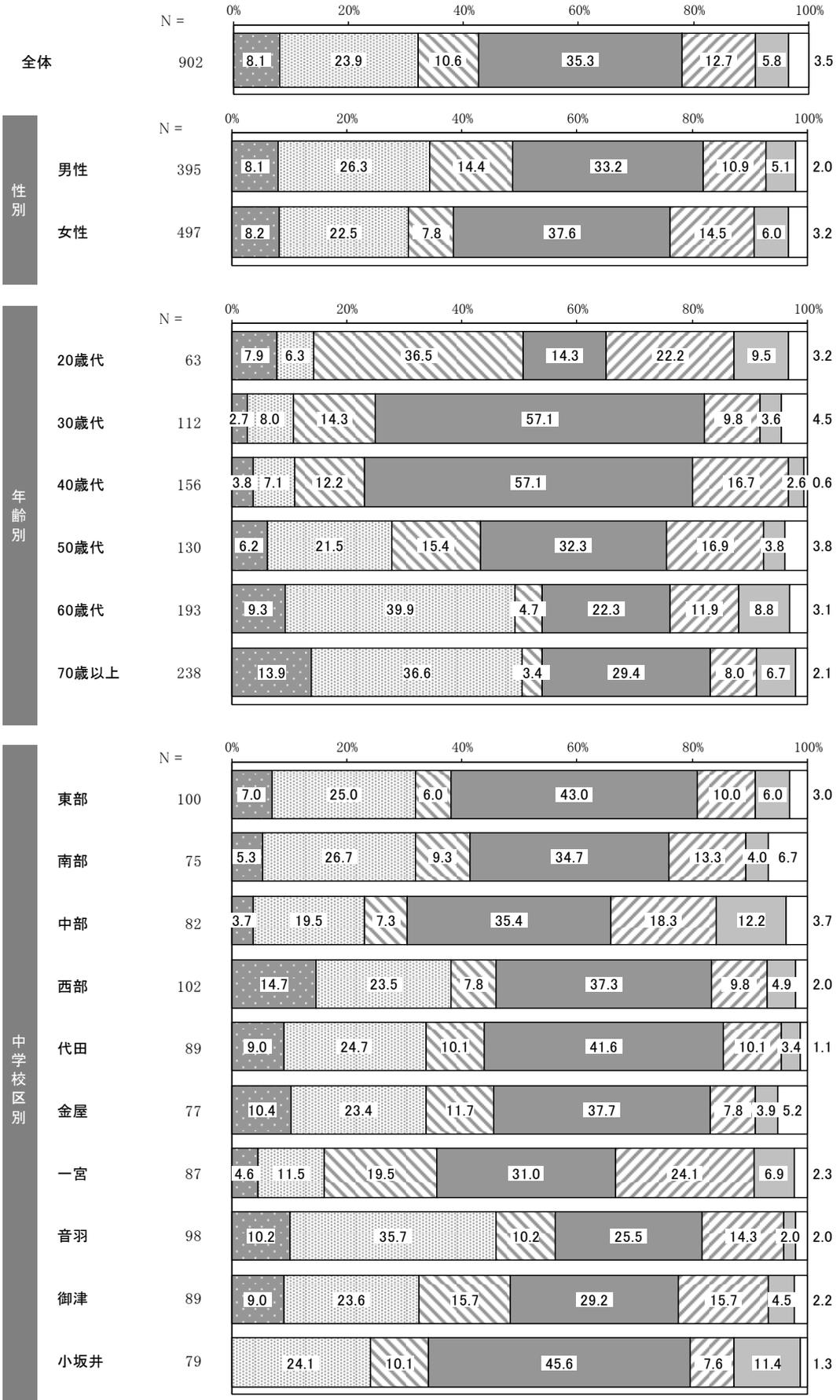
性別では、女性に比べ、男性で「親とあなたの二世帯」の割合が高くなっています。

年齢別では、70歳以上で「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。また、30歳代、40歳代で「あなたと子の二世帯」、60歳代、70歳以上で「夫婦のみ」の割合が高くなっています。

中学校区別では、一宮中学校区で「三世帯世帯（親と子と孫）」の割合が、音羽中学校区で「夫婦のみ」の割合が特に高くなっています。



■ ひとり暮らし ■ 夫婦のみ ■ 親とあなたの二世帯
 ■ あなたと子の二世帯 ■ 三世帯世帯(親と子と孫) ■ その他
 □ 無回答

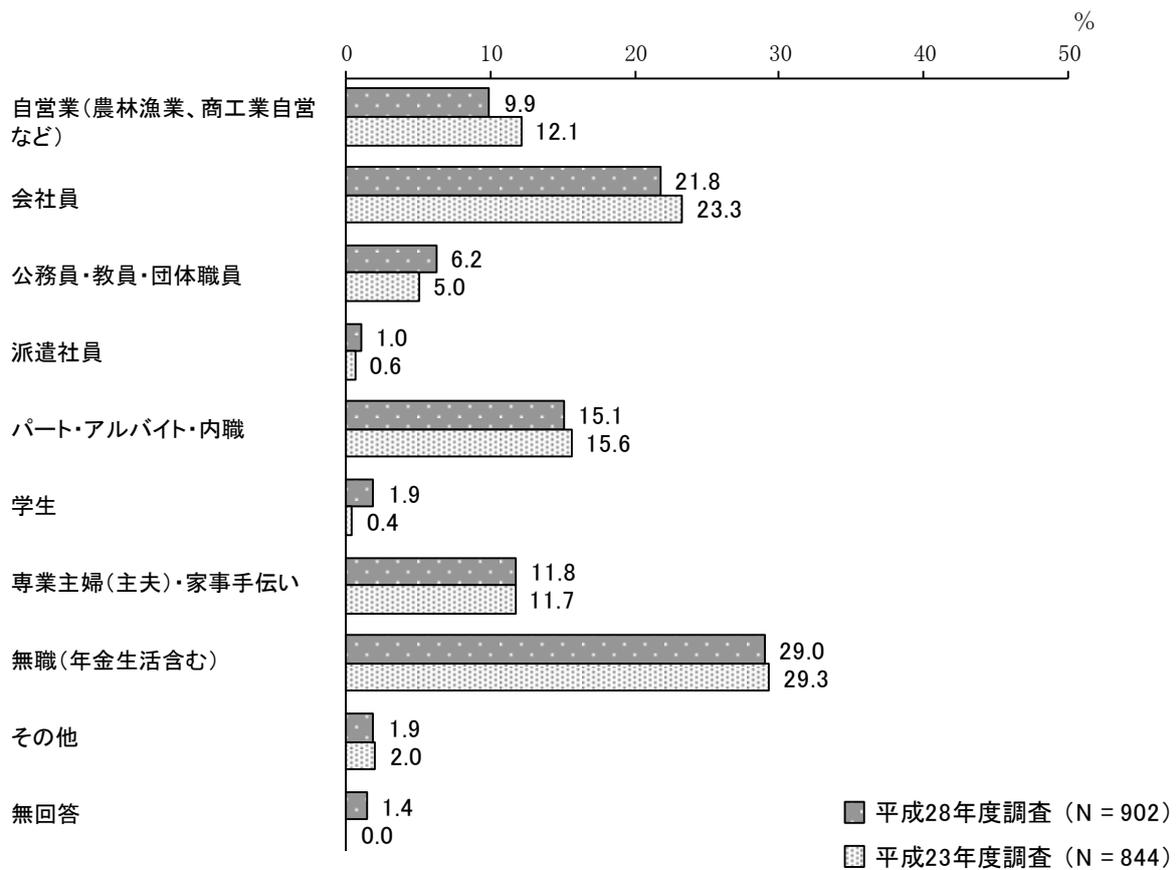


問4 職業

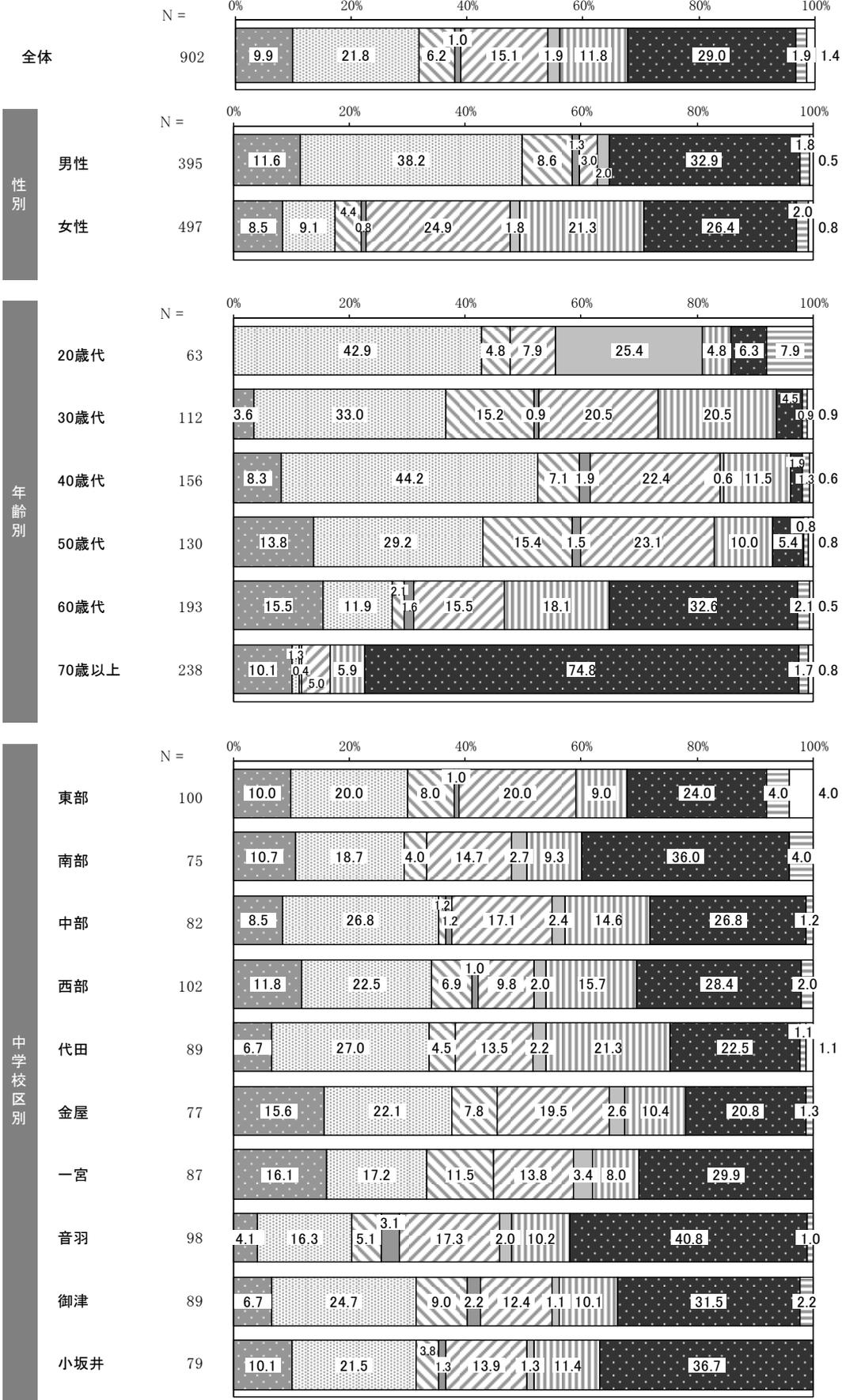
全体では、「無職（年金生活含む）」の割合が29.0%と最も高く、次いで「会社員」が21.8%、「パート・アルバイト・内職」が15.1%となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

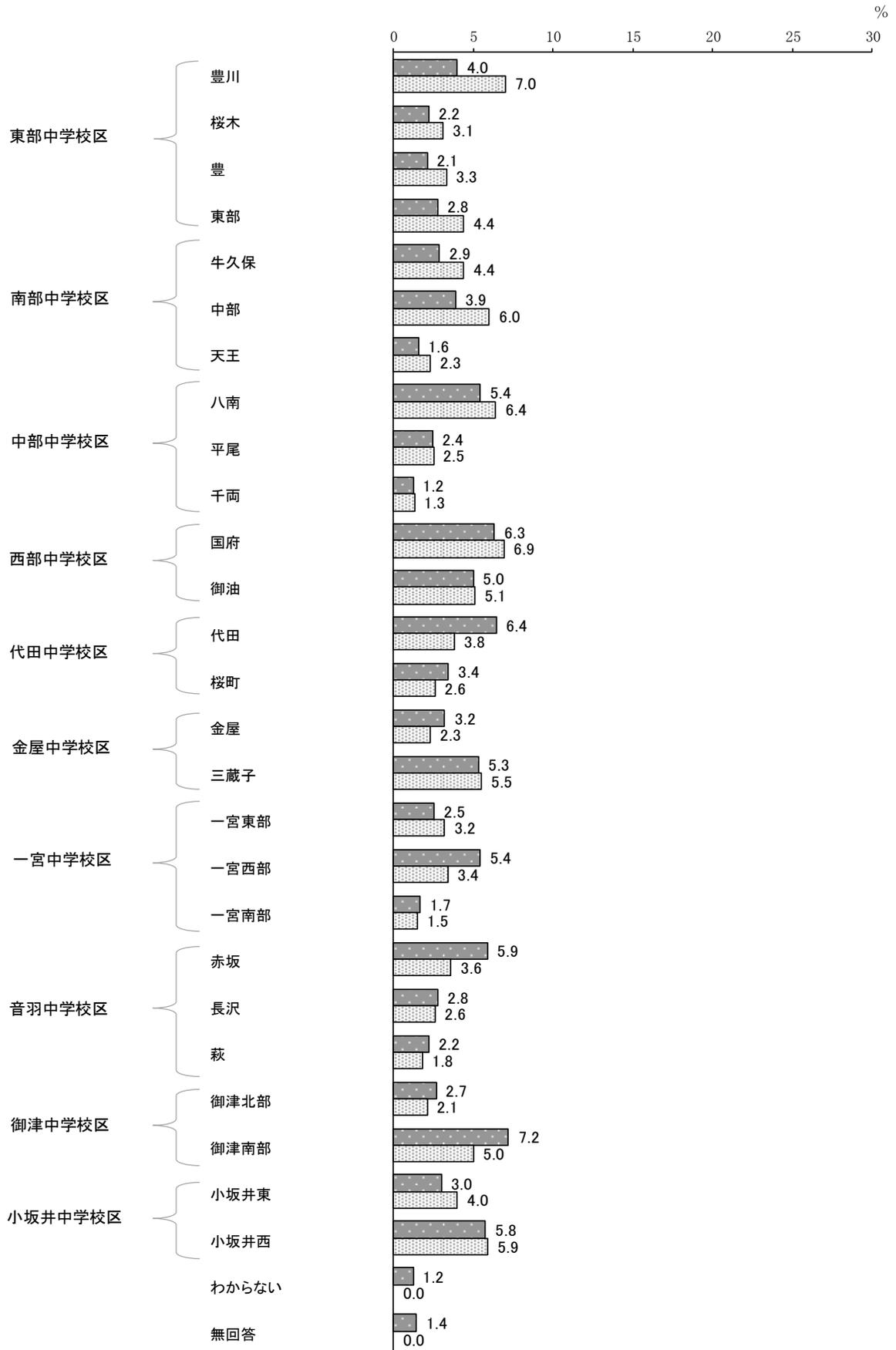
性別では、男性で「会社員」の割合が最も高く、女性は「無職（年金生活含む）」の割合が最も高く、次いで「パート・アルバイト・内職」が高くなっています。



- 自営業(農林漁業、商工業自営など)
- 公務員・教員・団体職員
- ▨ パート・アルバイト・内職
- ▤ 専業主婦(主夫)・家事手伝い
- ▧ その他
- 会社員
- 派遣社員
- 学生
- 無職(年金生活含む)
- 無回答

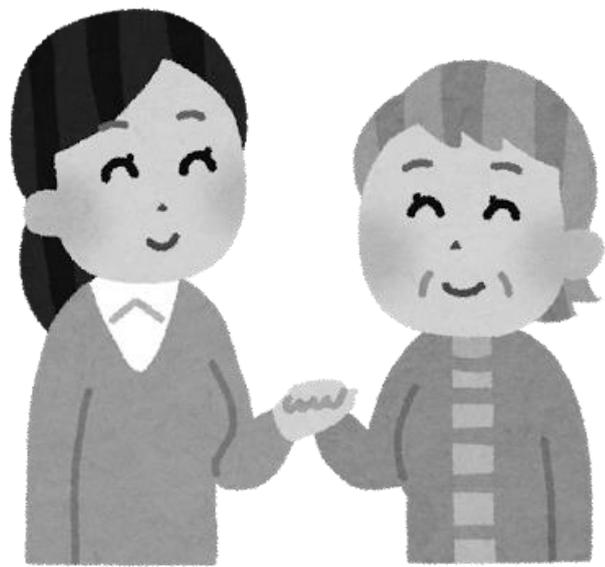


問5-1 在住地域(中学校区)



■ 平成28年度調査 (N = 902)

▨ 平成23年度調査 (N = 844)



問5-2 町内会加入の有無

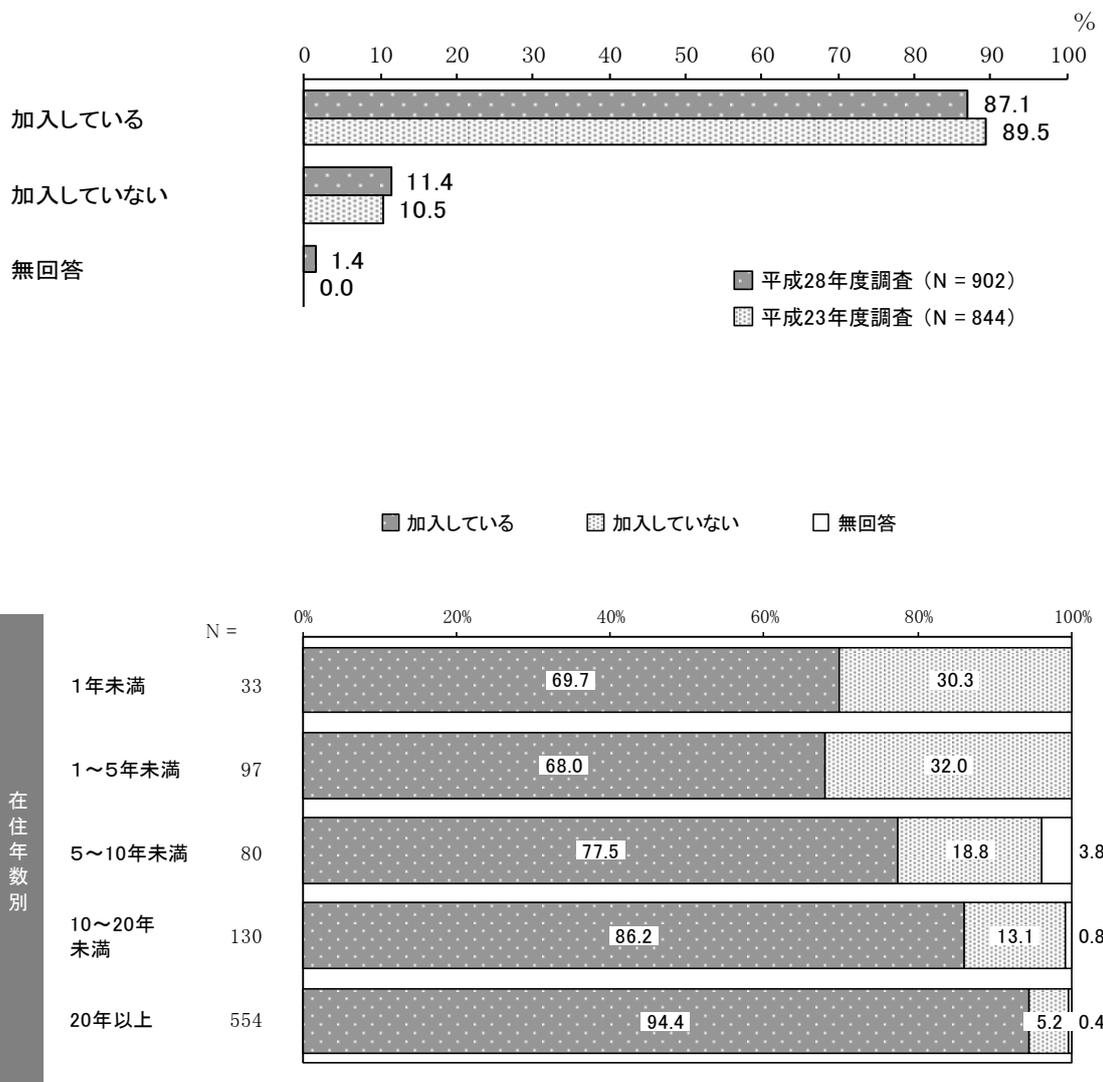
全体では、「加入している」の割合が87.1%、「加入していない」の割合が11.4%となっています。

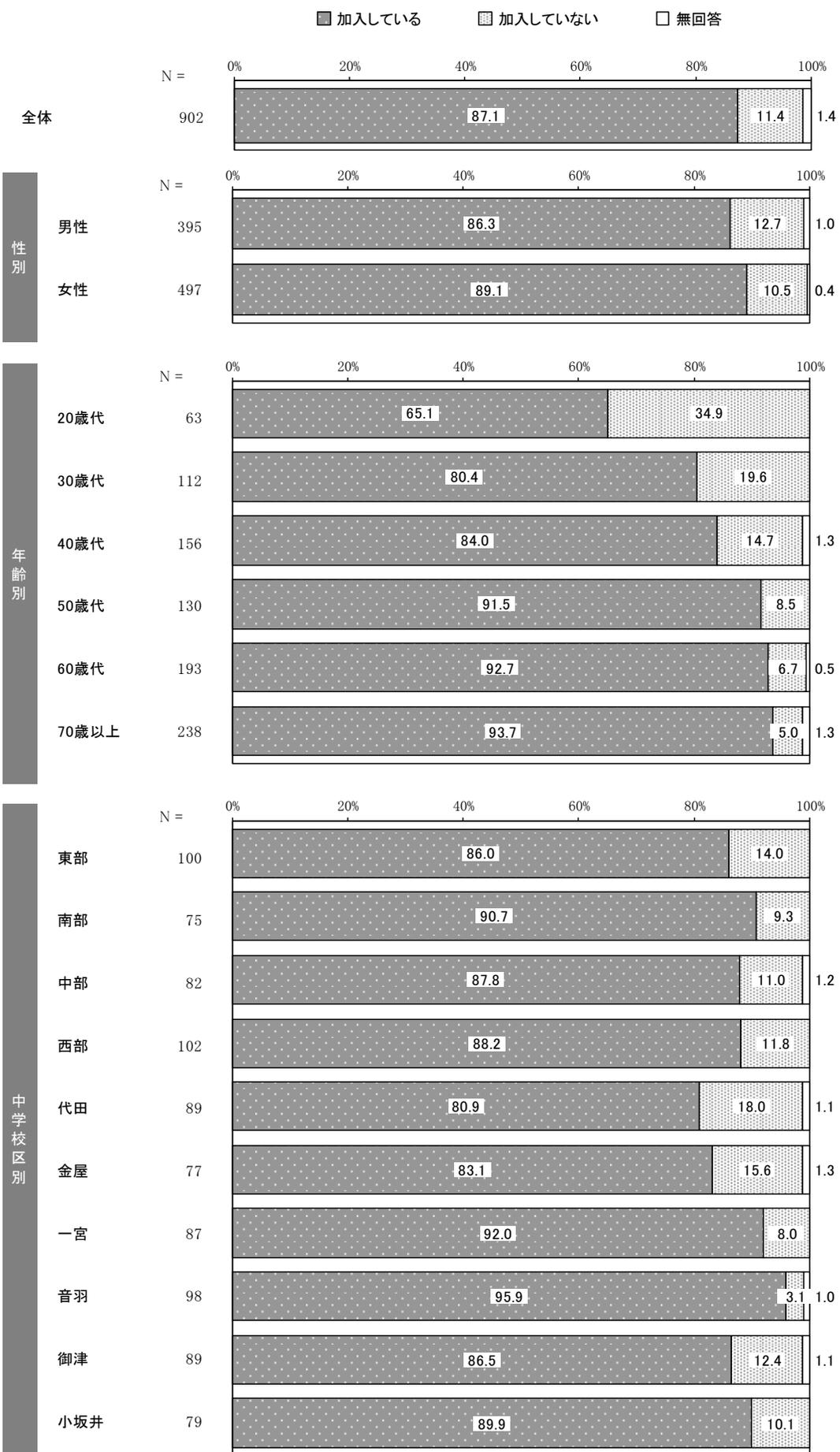
平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

年齢別では、「20歳代」で3人に1人が「加入していない」と回答しています。また、「加入している」の割合は年代が上がるほど高くなり、70歳以上では93.7%と最も高くなっています。

中学校区別では、音羽中学校区、一宮中学校区、南部中学校区で「加入している」の割合が高くなっています。

在住年数別では、在住年数が長いほど「加入している」の割合が多くなっています。





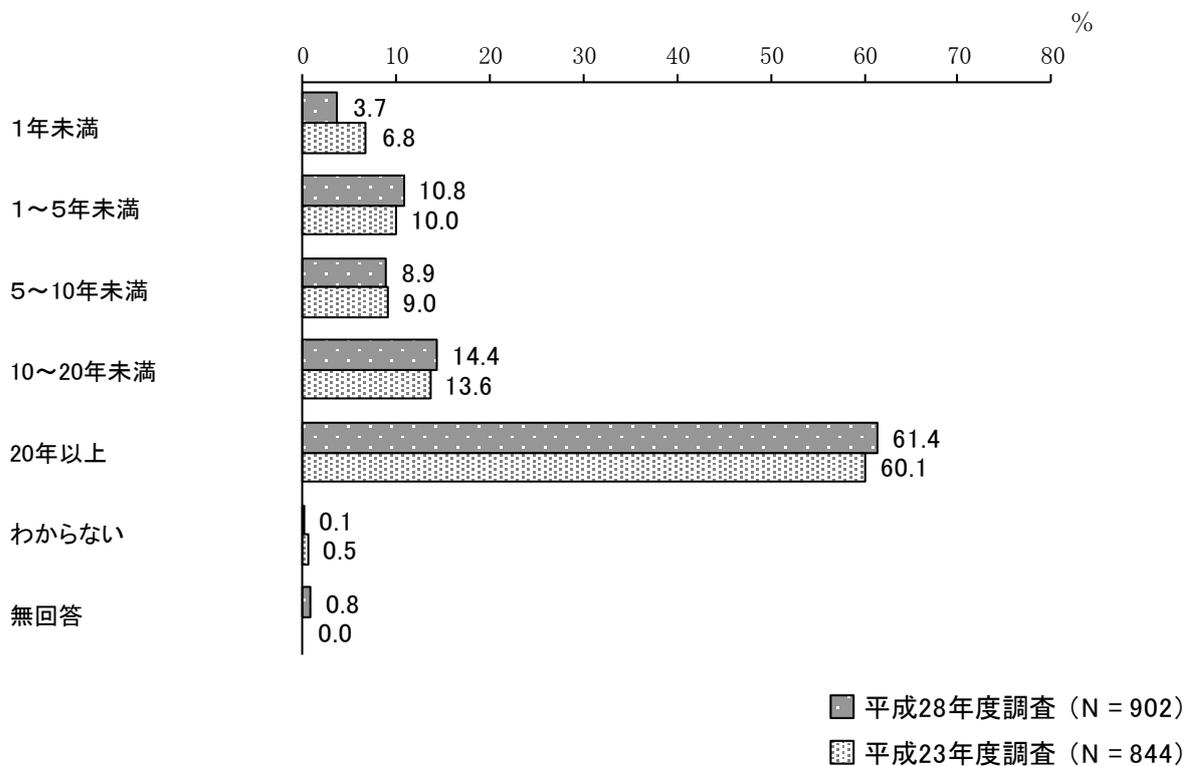
問6 在住年数

全体では、「20年以上」の割合が61.4%と最も高く、次いで「10～20年未満」が14.4%、「1～5年未満」が10.8%となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

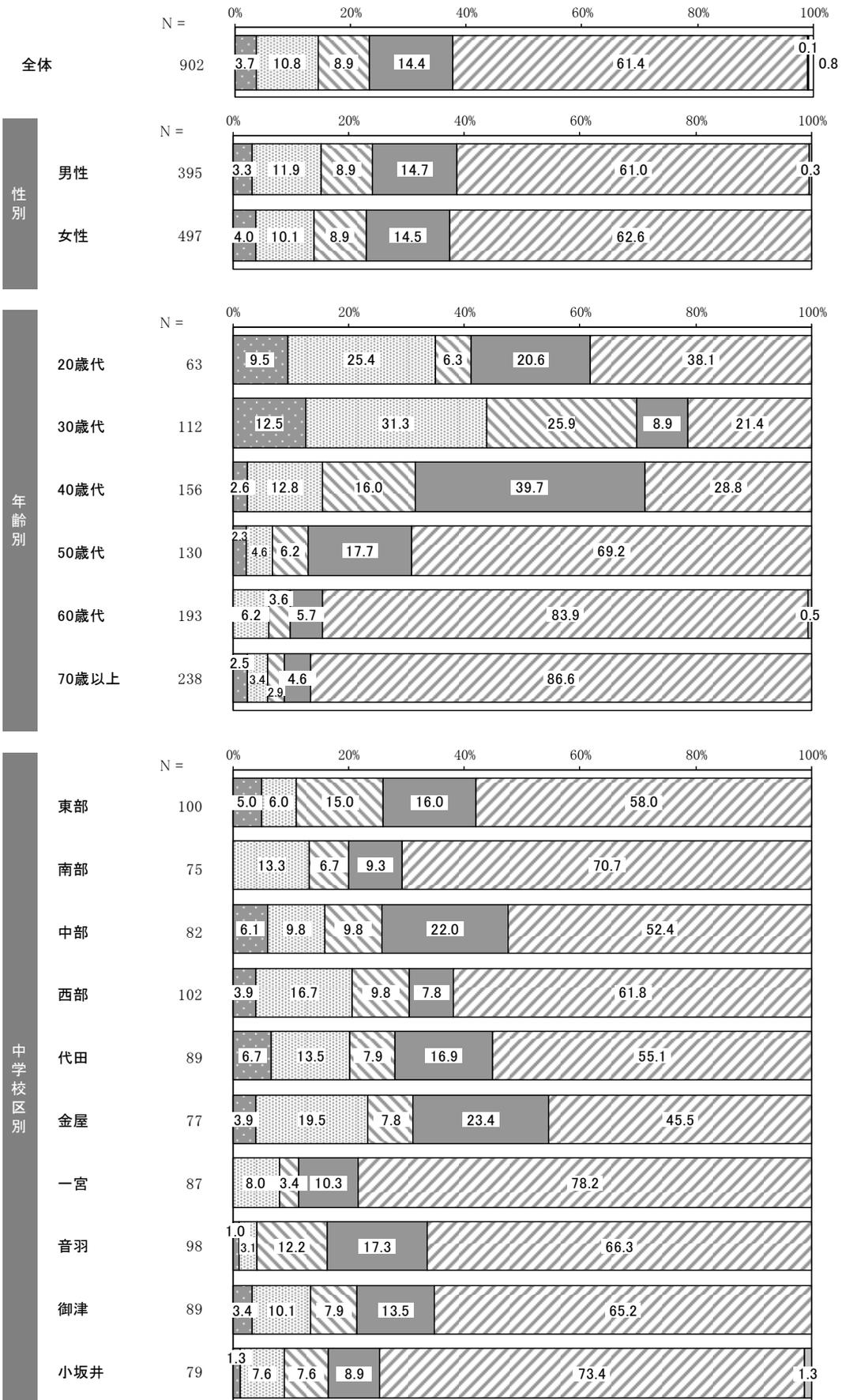
年齢別では、「30歳代」の7割の方が居住年数10年未満と回答しており、30歳代までに、新しい居住地での生活が始まっていることがうかがえます。

中学校区別では、一宮中学校区、小坂井中学校区、南部中学校区で「20年以上」の割合が高くなっています。一方、金屋中学校区、中部中学校区で「20年以上」の割合が低くなっています。



1年未満
 1～5年未満
 5～10年未満
 10～20年未満

 20年以上
 わからない
 無回答



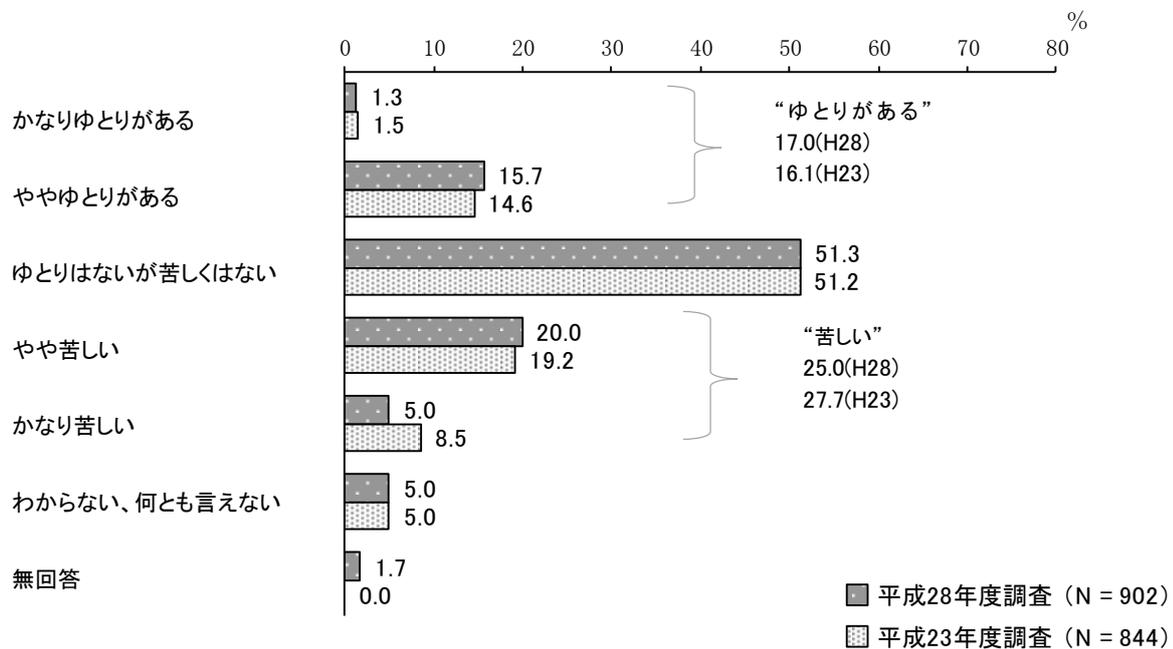
問7 経済的な暮らし向き

全体では、「ゆとりはないが苦しくはない」の割合が51.3%と最も高く、「かなりゆとりがある」と「ややゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”が17.0%、「やや苦しい」と「かなり苦しい」をあわせた“苦しい”が25.0%となっています。

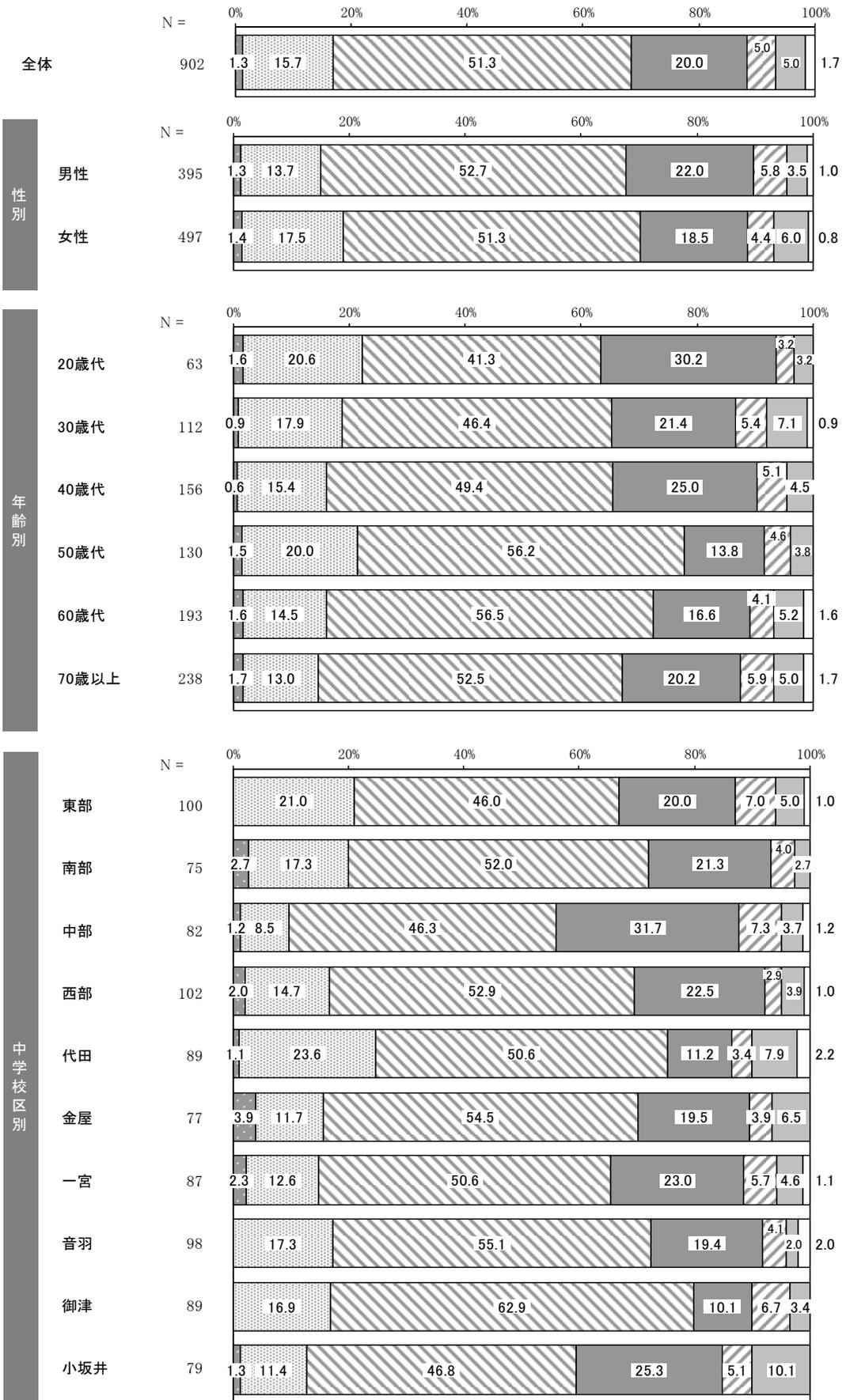
平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20歳代で“苦しい”の割合が高くなっています。

中学校区別では、代田中学校区、東部中学校区、南部中学校区で“ゆとりがある”の割合が高くなっています。また、中部中学校区、小坂井中学校区で“苦しい”の割合が高くなっています。



- かなりゆとりがある
- ▨ ややゆとりがある
- ▩ ゆとりはないが苦しくはない
- やや苦しい
- ▩ かなり苦しい
- わからない、何とも言えない
- 無回答



2 地域との関わりや地域に対する意識について

問8 住みやすさ

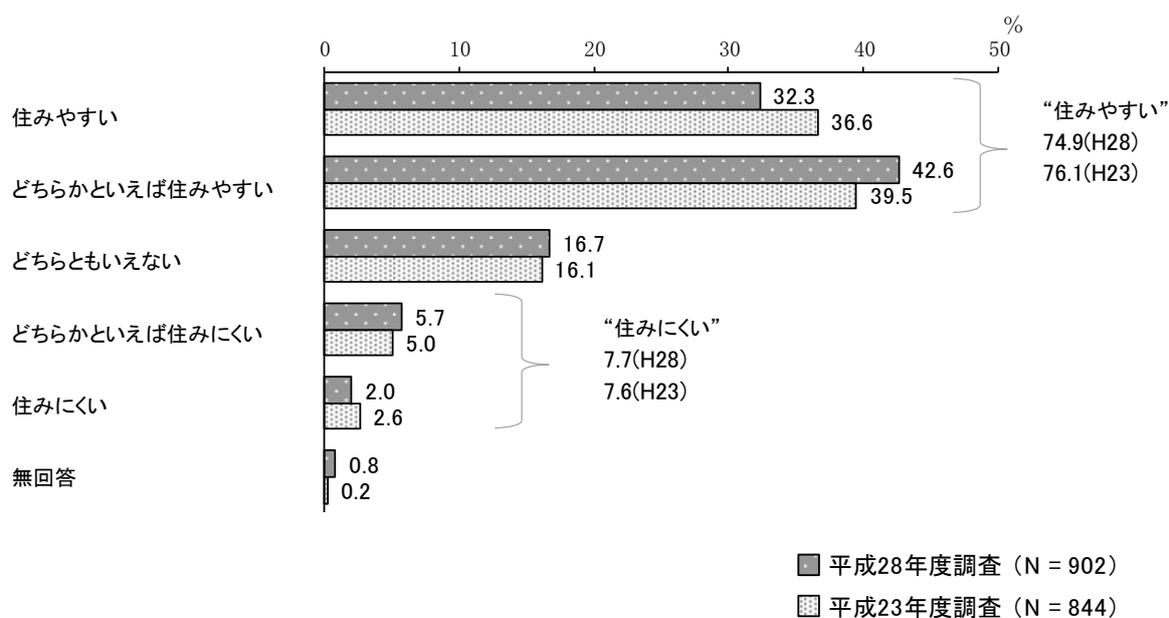
全体では、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」をあわせた“住みやすい”の割合が74.9%、「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」をあわせた“住みにくい”の割合が7.7%となっています。

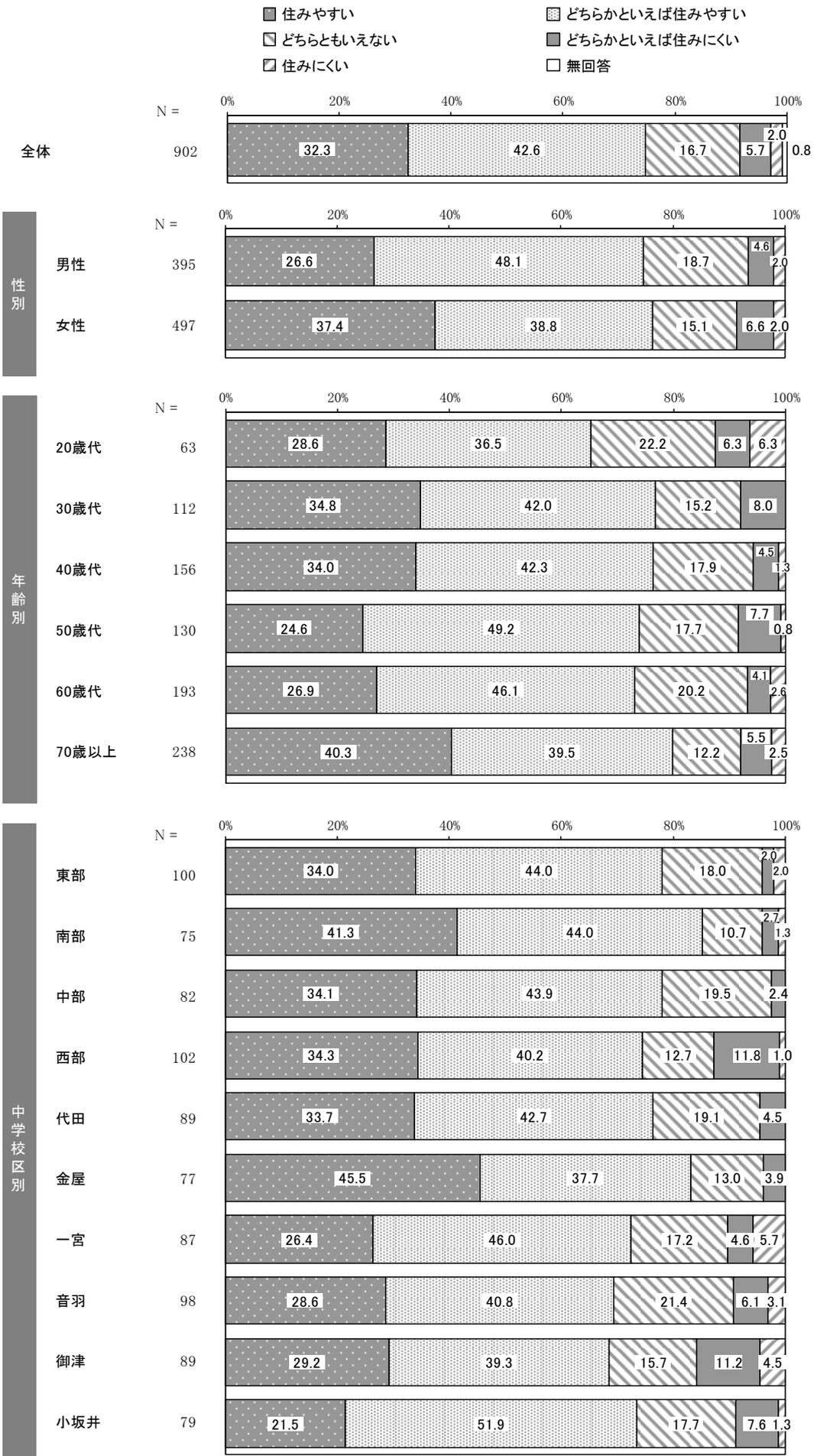
平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

性別では、男性に比べ、女性の方が「住みやすい」の割合が高くなっています。

年齢別では、大きな差異はみられません。

中学校区別では、南部中学校区、金屋中学校区で“住みやすい”の割合が高くなっています。また、御津中学校区、西部中学校区で“住みにくい”の割合が高くなっています。





問9 近所付き合いの程度

全体では、「あいさつをする程度」の割合が43.3%と最も高く、次いで「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が41.6%となっています。

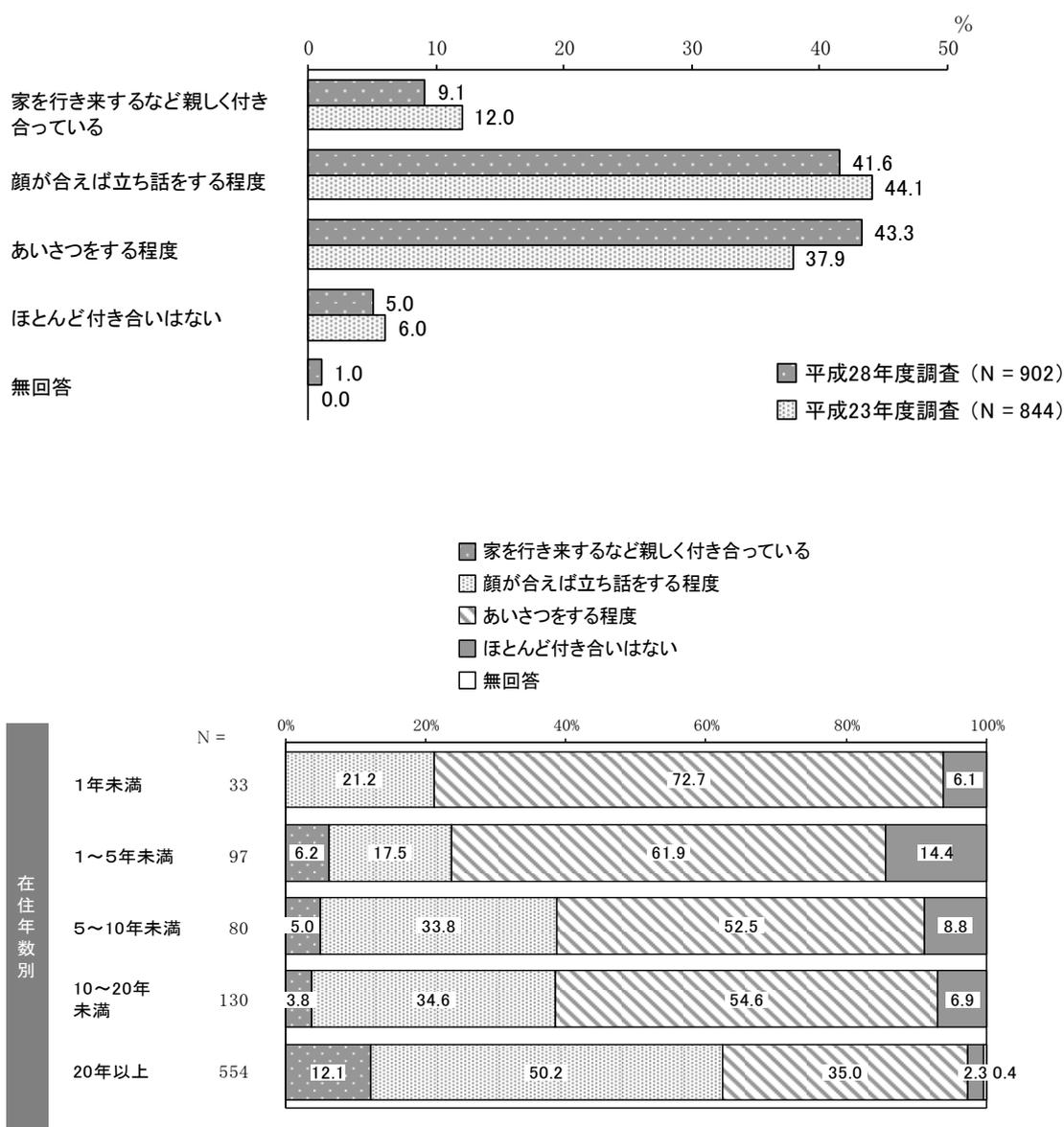
平成23年度調査と比較すると、「家を行き来するなど親しく付き合っている」の割合が減少しており、近所付き合いが後退していることがうかがえます。

性別では、男性で「あいさつをする程度」の割合が50.1%と最も高く、女性は「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が45.1%と最も高くなっています。

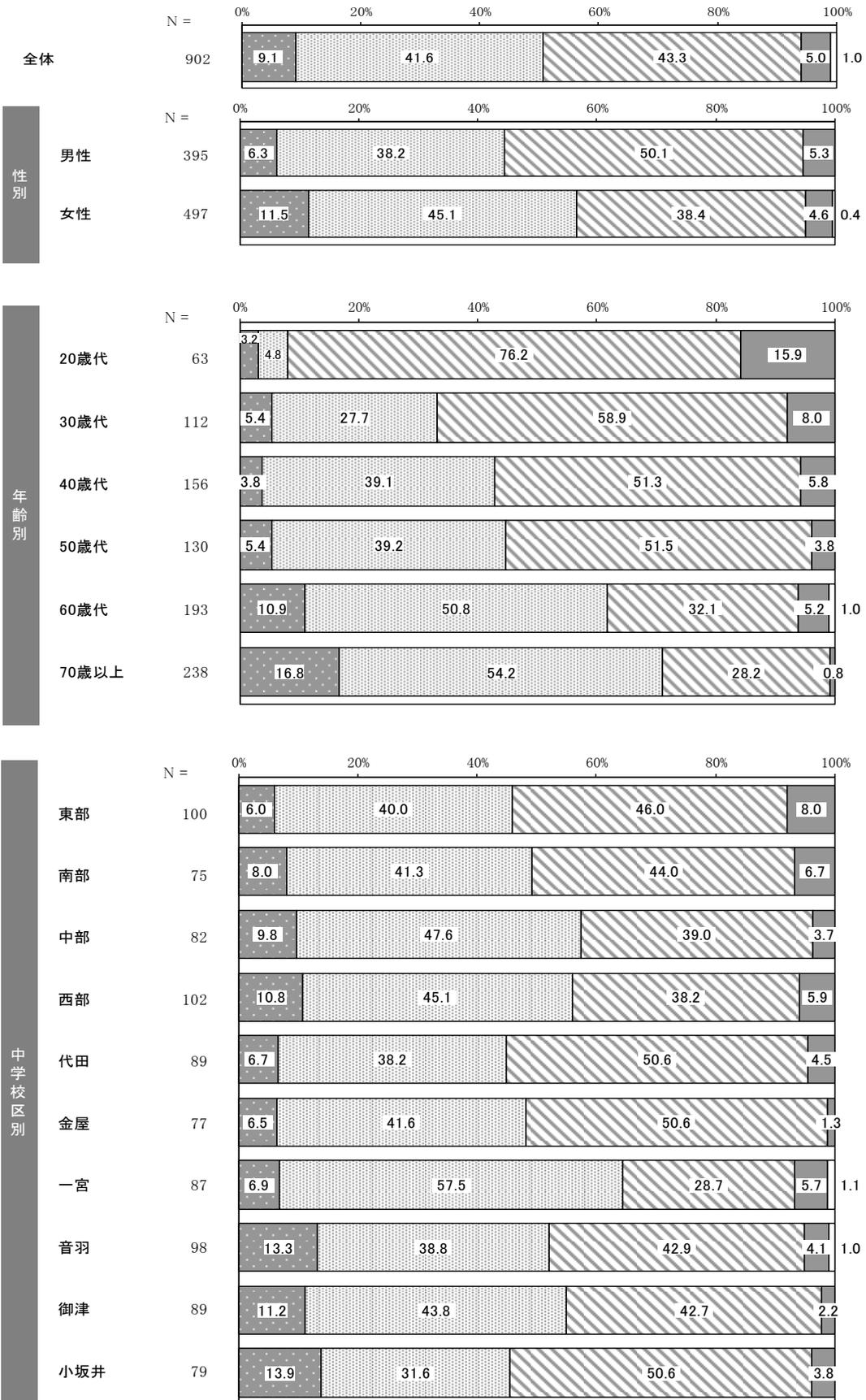
年齢別では、年齢が高くなるにつれて「家を行き来するなど親しく付き合っている」「顔が合えば立ち話をする程度」の割合が高くなる傾向があります。また、20歳代で「ほとんど付き合いはない」の割合が高くなっています。

中学校区別では、小坂井中学校区、音羽中学校区、御津中学校区で「家を行き来するなど親しく付き合っている」の割合が高くなっています。

在住年数別では、居住20年以上の6割の方が立ち話をする付き合いをしています、居住20年未満では、それが4割に満たない状態です。



- 家を行き来するなど親しく付き合っている
- ▨ 顔が合えば立ち話をする程度
- ▩ あいさつをする程度
- ほとんど付き合いはない
- 無回答



問 10 近所の人との相談・助け合いの必要性

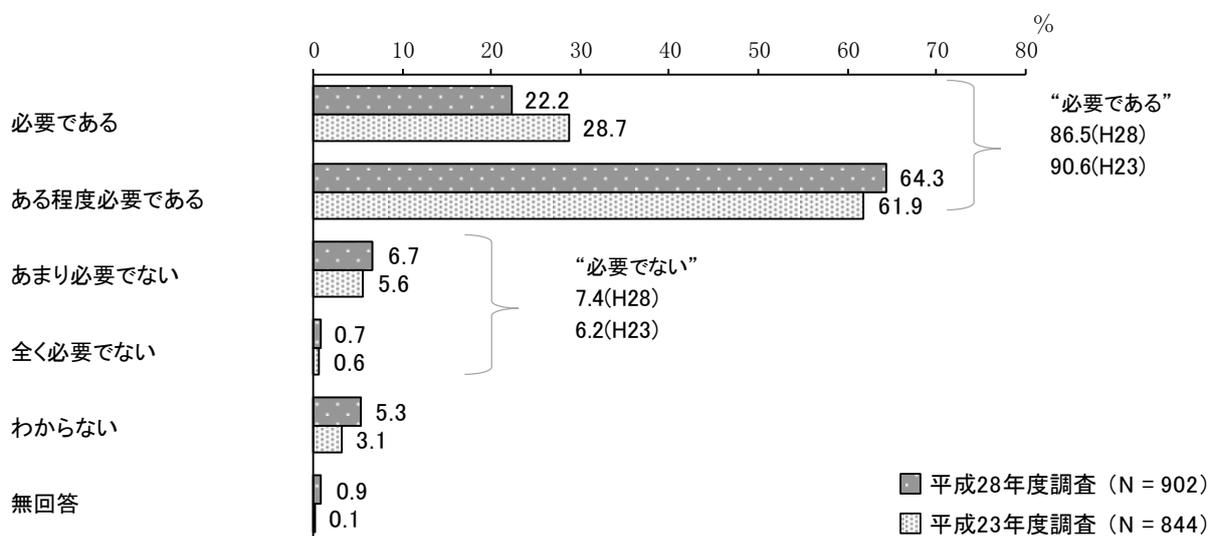
全体では、「必要である」と「ある程度必要である」をあわせた“必要である”の割合が86.5%、「あまり必要でない」と「全く必要でない」をあわせた“必要でない”の割合が7.4%となっています。

平成23年度調査と比較すると、“必要である”の割合が減少していることから、近所の人との関係の希薄化が進んでいることがみられます。

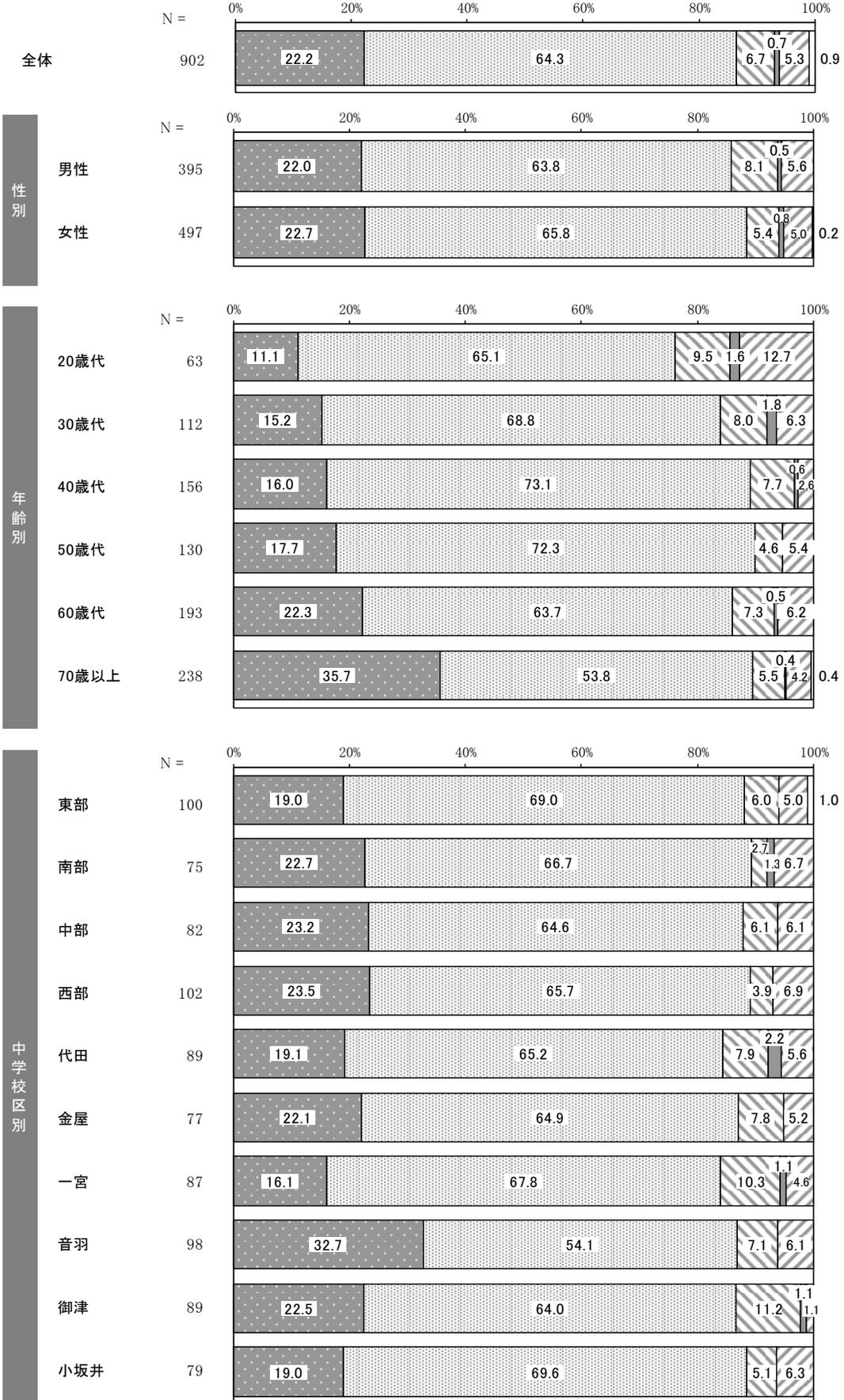
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、70歳以上で「必要である」の割合が特に高くなっています。

中学校区別では、音羽中学校区で「必要である」の割合が特に高くなっています。



■ 必要である ■ ある程度必要である ■ あまり必要でない
 ■ 全く必要でない ■ わからない ■ 無回答



問 11-1 ここ5年間の地域の行事や活動への参加状況

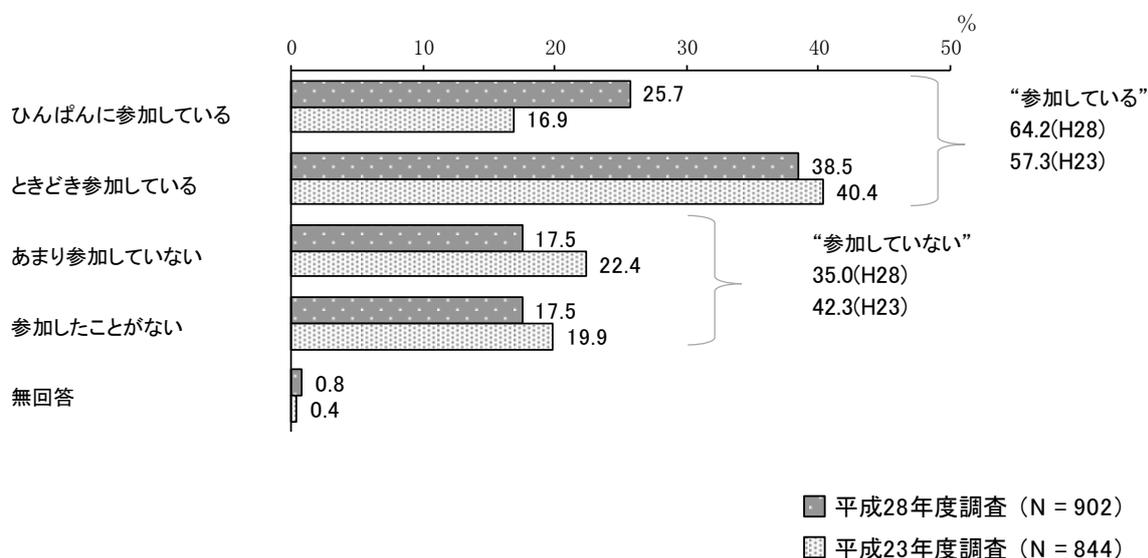
全体では、「ひんぱんに参加している」と「ときどき参加している」をあわせた“参加している”の割合が64.2%、「あまり参加していない」と「参加したことがない」をあわせた“参加していない”の割合が35.0%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「ひんぱんに参加している」の割合が増加しており、地域の行事や活動への参加者が増加していることがうかがえます。

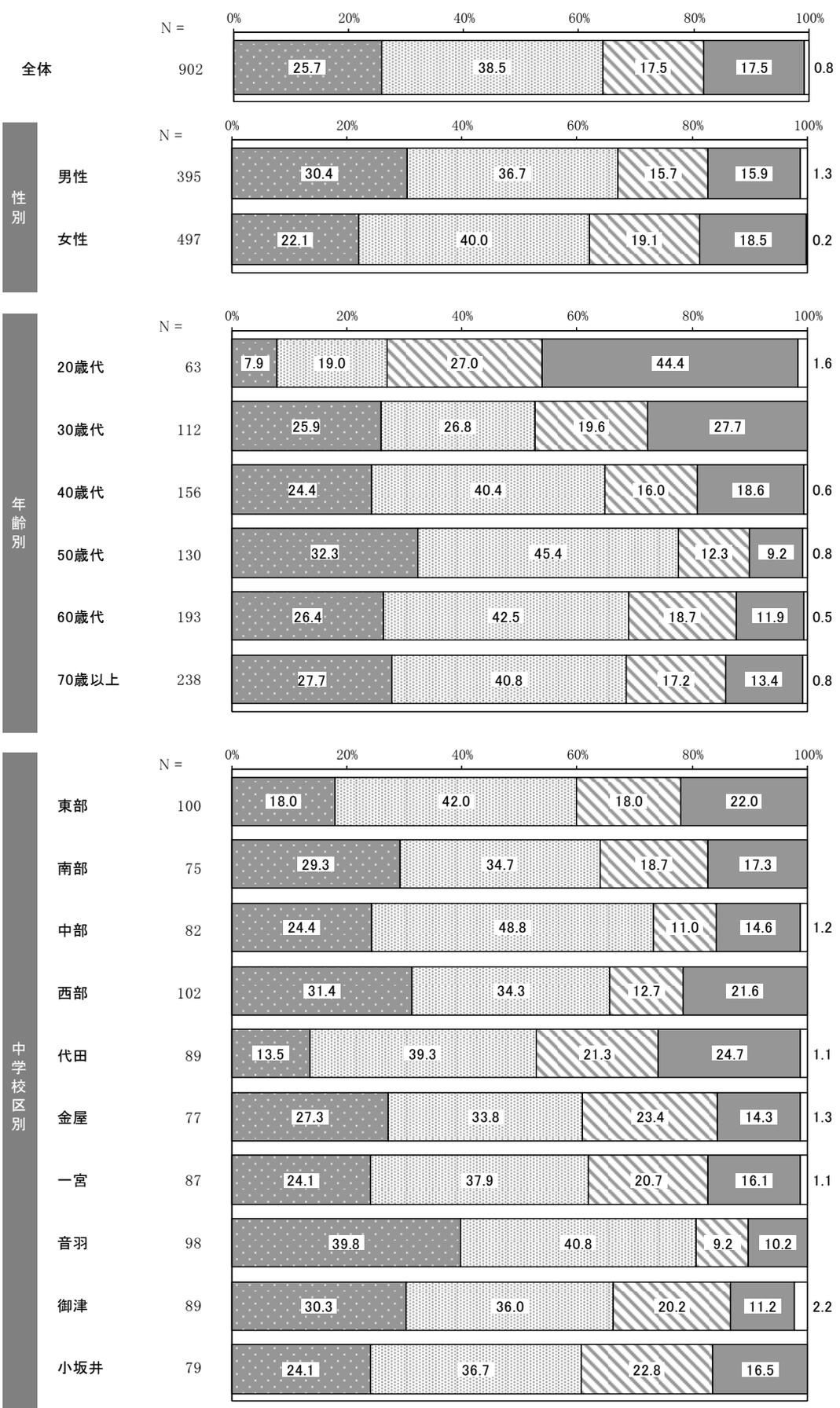
性別では、女性と比べ、男性で“参加している”の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代から50歳代にかけて、年齢が高くなるにつれて“参加している”の割合が高くなっています。

中学校区別では、音羽中学校区、中部中学校区で“参加している”の割合が高くなっています。また、代田中学校区で“参加していない”の割合が高くなっています。



ひんぱんに参加している
 とときどき参加している
 あまり参加していない
 参加したことがない
 無回答



問 11-1 で「③あまり参加していない」「④参加したことがない」と答えた方にお聞きします

問 11-2 地域の行事や活動へ参加したことがない理由(複数回答)

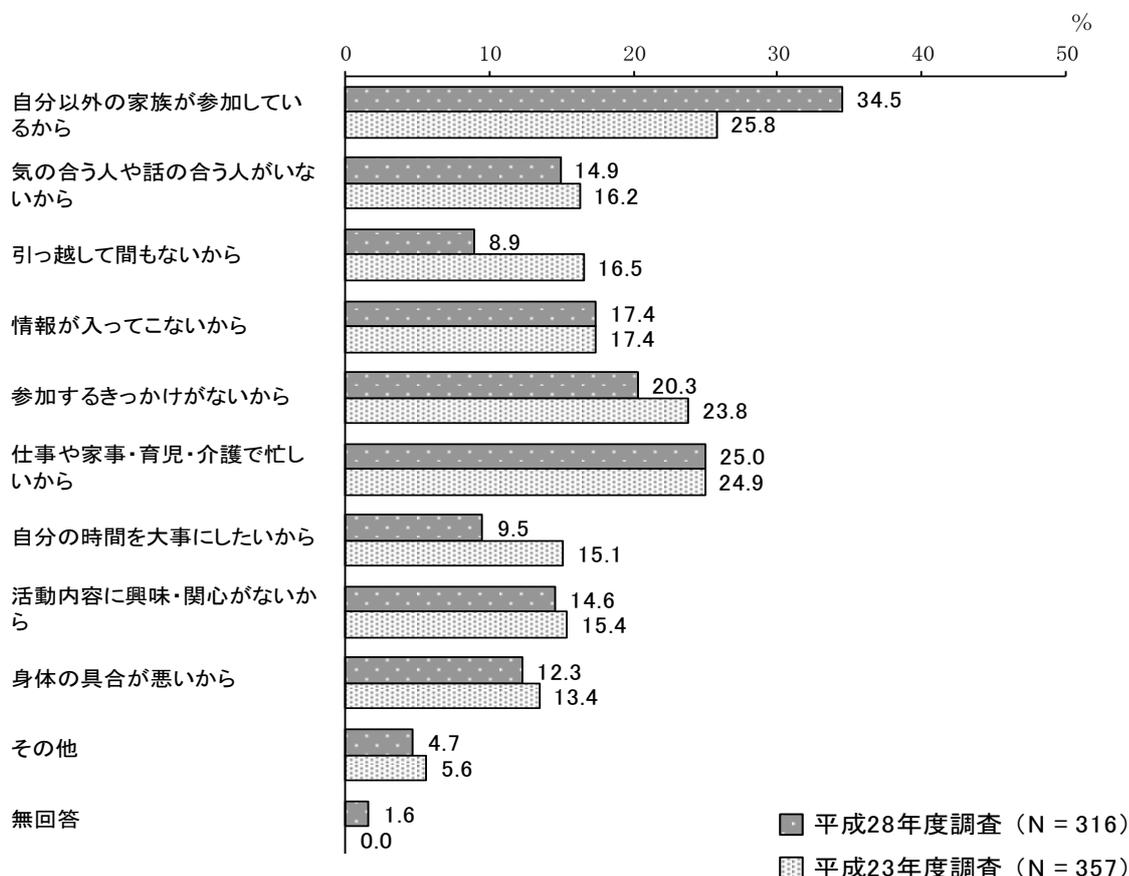
全体では、「自分以外の家族が参加しているから」の割合が 34.5%と最も高く、次いで「仕事や家事・育児・介護で忙しいから」が 25.0%、「参加するきっかけがないから」が 20.3%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、「自分以外の家族が参加しているから」の割合が増加しており、「地域活動は世帯単位の活動」という意識があることがうかがえます。また、「引っ越して間もないから」「自分の時間を大切にしたいから」の割合が減少しています。

性別では、女性に比べ、男性で「気の合う人や話の合う人がいないから」「参加するきっかけがないから」「仕事や家事・育児・介護で忙しいから」「自分の時間を大切にしたいから」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 歳代で「参加するきっかけがないから」「情報が入ってこないから」の割合が高くなっています。また、70 歳以上で「身体の具合が悪いから」の割合が高くなっています。

中学校区別では、金屋中学校区、代田中学校区で「参加するきっかけがないから」の割合が高くなっています。また、小坂井中学校区、一宮中学校区、金屋中学校区で「仕事や家事・育児・介護で忙しいから」の割合が高くなっています。



区分		有効回答数 (件)	自分以外の家族が参加しているから	気の合う人や話の合う人がいないから	引越して間もないから	情報が入ってこないから	参加するきっかけがないから	仕事や家事・育児・介護で忙しいから	自分の時間を大事にしたいから	活動内容に興味・関心がないから	身体の具合が悪いから	その他	無回答
全体		316	34.5	14.9	8.9	17.4	20.3	25.0	9.5	14.6	12.3	4.7	1.6
性別	男性	125	30.4	18.4	9.6	20.0	24.8	30.4	15.2	16.8	8.0	5.6	1.6
	女性	187	37.4	12.3	8.6	16.0	17.1	21.4	5.9	13.4	15.0	3.7	1.6
年齢別	20歳代	45	31.1	13.3	15.6	20.0	22.2	24.4	17.8	13.3	2.2	6.7	2.2
	30歳代	53	24.5	5.7	22.6	28.3	32.1	26.4	11.3	11.3	1.9	3.8	—
	40歳代	54	38.9	18.5	3.7	18.5	27.8	37.0	14.8	24.1	1.9	7.4	—
	50歳代	28	35.7	21.4	3.6	17.9	14.3	32.1	10.7	14.3	14.3	3.6	—
	60歳代	59	33.9	22.0	1.7	18.6	18.6	25.4	5.1	15.3	11.9	—	3.4
	70歳以上	73	41.1	11.0	6.8	6.8	8.2	11.0	2.7	11.0	32.9	6.8	2.7
中学校区別	東部	40	25.0	15.0	10.0	12.5	17.5	22.5	10.0	17.5	15.0	2.5	5.0
	南部	27	48.1	11.1	—	18.5	11.1	14.8	7.4	7.4	14.8	—	3.7
	中部	21	33.3	—	14.3	4.8	14.3	23.8	—	14.3	9.5	4.8	9.5
	西部	35	17.1	22.9	5.7	17.1	20.0	22.9	5.7	17.1	17.1	5.7	—
	代田	41	31.7	14.6	7.3	34.1	34.1	22.0	12.2	24.4	7.3	—	—
	金屋	29	17.2	13.8	24.1	24.1	34.5	31.0	10.3	3.4	3.4	10.3	—
	一宮	32	59.4	12.5	3.1	9.4	12.5	34.4	9.4	12.5	12.5	3.1	—
	音羽	19	42.1	26.3	5.3	5.3	10.5	—	15.8	21.1	21.1	5.3	—
	御津	28	50.0	14.3	10.7	21.4	10.7	25.0	7.1	17.9	14.3	7.1	—
	小坂井	31	41.9	12.9	—	19.4	22.6	41.9	19.4	12.9	12.9	6.5	—

3 地域での支え合いや福祉への関心について

問12 地域で関心のある支えあい活動(複数回答)

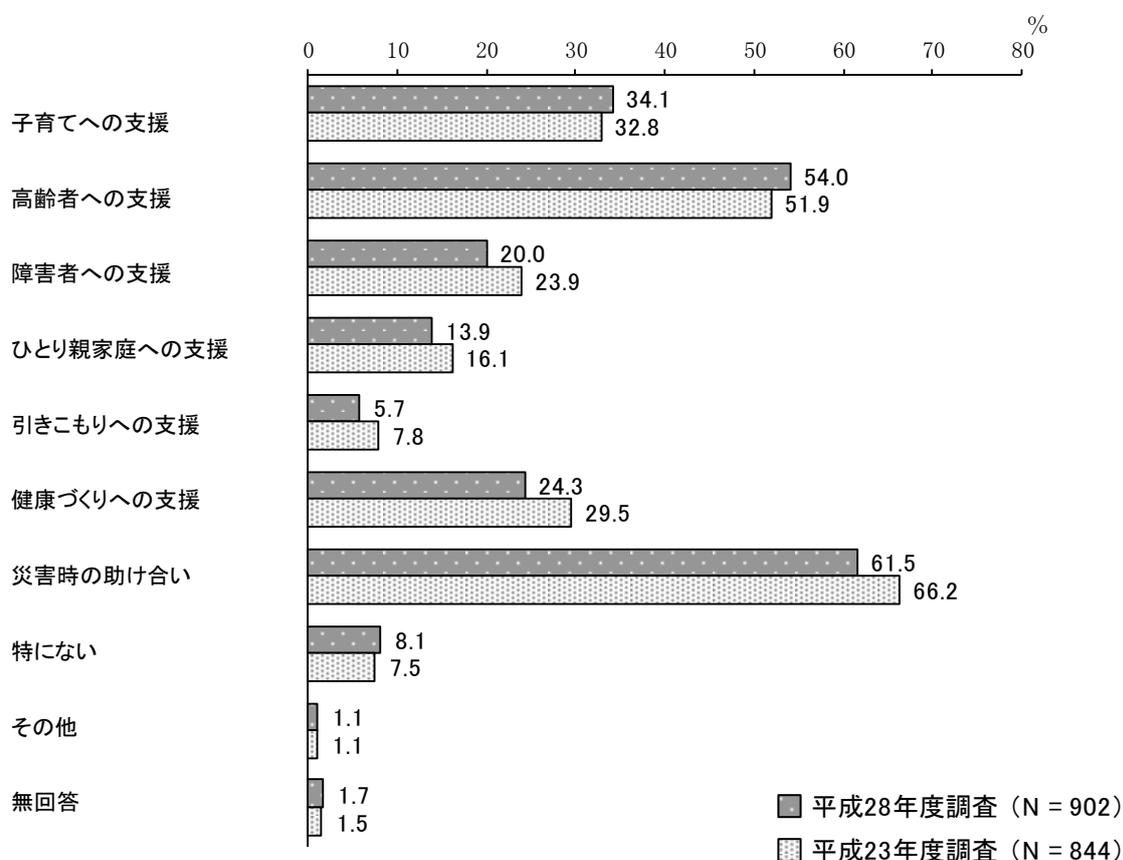
全体では、「災害時の助け合い」の割合が61.5%と最も高く、次いで「高齢者への支援」が54.0%、「子育てへの支援」が34.1%となっています。

平成23年度調査との比較では、上位の「災害時の助け合い」、「高齢者への支援」については変わらずに5割以上の高い関心を示していることから、地域での支え合い活動として重要なテーマであることが読み取れます。

性別では、男性に比べ、女性で「子育てへの支援」「高齢者への支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、30歳代で「子育てへの支援」、40歳代、50歳代で「災害時の助け合い」、60歳代、70歳以上で「健康づくりへの支援」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて「高齢者への支援」の割合が高くなっています。

中学校区別では、ほぼ全ての中学校区で「災害時の助け合い」の割合が最も高くなっていますが、音羽中学校区、小坂井中学校区は「高齢者への支援」の割合も特に高くなっています。



単位：%

区分		有効回答数 (件)	子育てへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	ひとり親家庭への支援	引きこもりへの支援	健康づくりへの支援	災害時の助け合い	特にない	その他	無回答
全体		902	34.1	54.0	20.0	13.9	5.7	24.3	61.5	8.1	1.1	1.7
性別	男性	395	31.1	50.6	17.7	12.9	5.8	23.8	62.8	8.1	1.3	1.8
	女性	497	36.8	56.7	21.3	14.5	5.4	24.9	60.8	7.8	1.0	1.4
年齢別	20歳代	63	47.6	34.9	14.3	14.3	6.3	14.3	47.6	17.5	1.6	—
	30歳代	112	64.3	38.4	21.4	12.5	7.1	14.3	58.9	7.1	—	—
	40歳代	156	55.8	54.5	22.4	14.7	8.3	17.3	71.2	7.1	1.3	—
	50歳代	130	33.1	58.5	20.8	14.6	4.6	23.8	76.2	3.8	—	0.8
	60歳代	193	19.7	58.5	19.7	16.6	3.1	32.1	62.2	6.7	1.6	2.1
	70歳以上	238	15.1	60.5	18.5	11.3	5.9	31.1	52.1	9.7	1.7	3.8
中学校区別	東部	100	40.0	57.0	16.0	13.0	5.0	19.0	66.0	10.0	1.0	1.0
	南部	75	24.0	50.7	22.7	8.0	5.3	28.0	58.7	13.3	1.3	1.3
	中部	82	39.0	53.7	19.5	17.1	3.7	24.4	63.4	11.0	—	3.7
	西部	102	33.3	52.0	22.5	14.7	8.8	29.4	68.6	5.9	2.0	—
	代田	89	37.1	49.4	23.6	16.9	6.7	22.5	55.1	10.1	—	2.2
	金屋	77	37.7	46.8	19.5	14.3	3.9	15.6	59.7	5.2	1.3	2.6
	一宮	87	26.4	50.6	25.3	12.6	3.4	26.4	60.9	4.6	2.3	1.1
	音羽	98	33.7	68.4	18.4	18.4	9.2	22.4	61.2	5.1	—	—
	御津	89	29.2	49.4	11.2	11.2	3.4	30.3	55.1	11.2	—	3.4
	小坂井	79	40.5	62.0	17.7	11.4	6.3	29.1	72.2	3.8	3.8	1.3

問 13 何らかの支援を必要としている人に手伝いたいこと

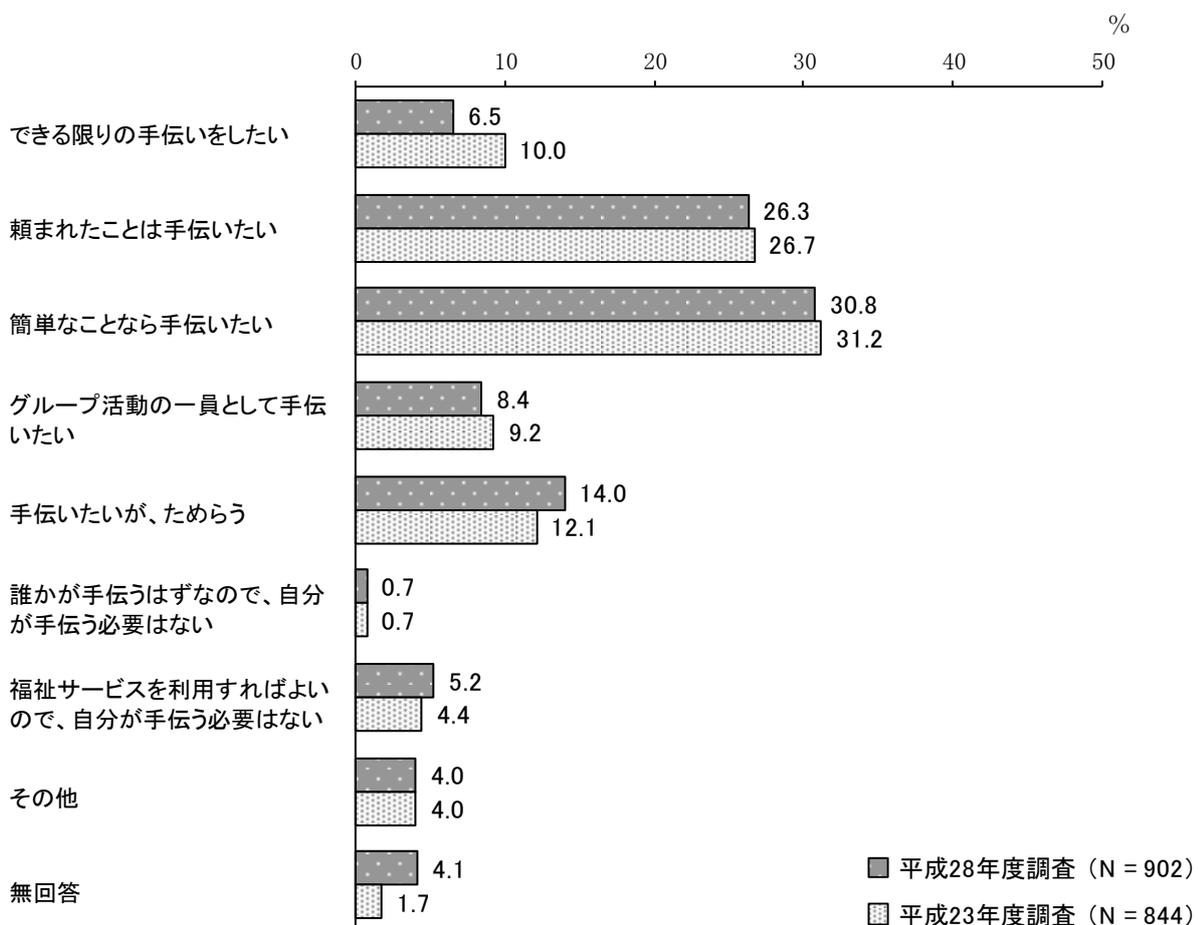
全体では、「簡単なことなら手伝いたい」の割合が 30.8%と最も高く、次いで「頼まれたことは手伝いたい」が 26.3%、「手伝いたい、ためらう」が 14.0%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられないものの、「頼まれたことは手伝いたい」「手伝いたい、ためらう」の回答結果から、何かきっかけがあれば、手伝いたいという意識がうかがえます。

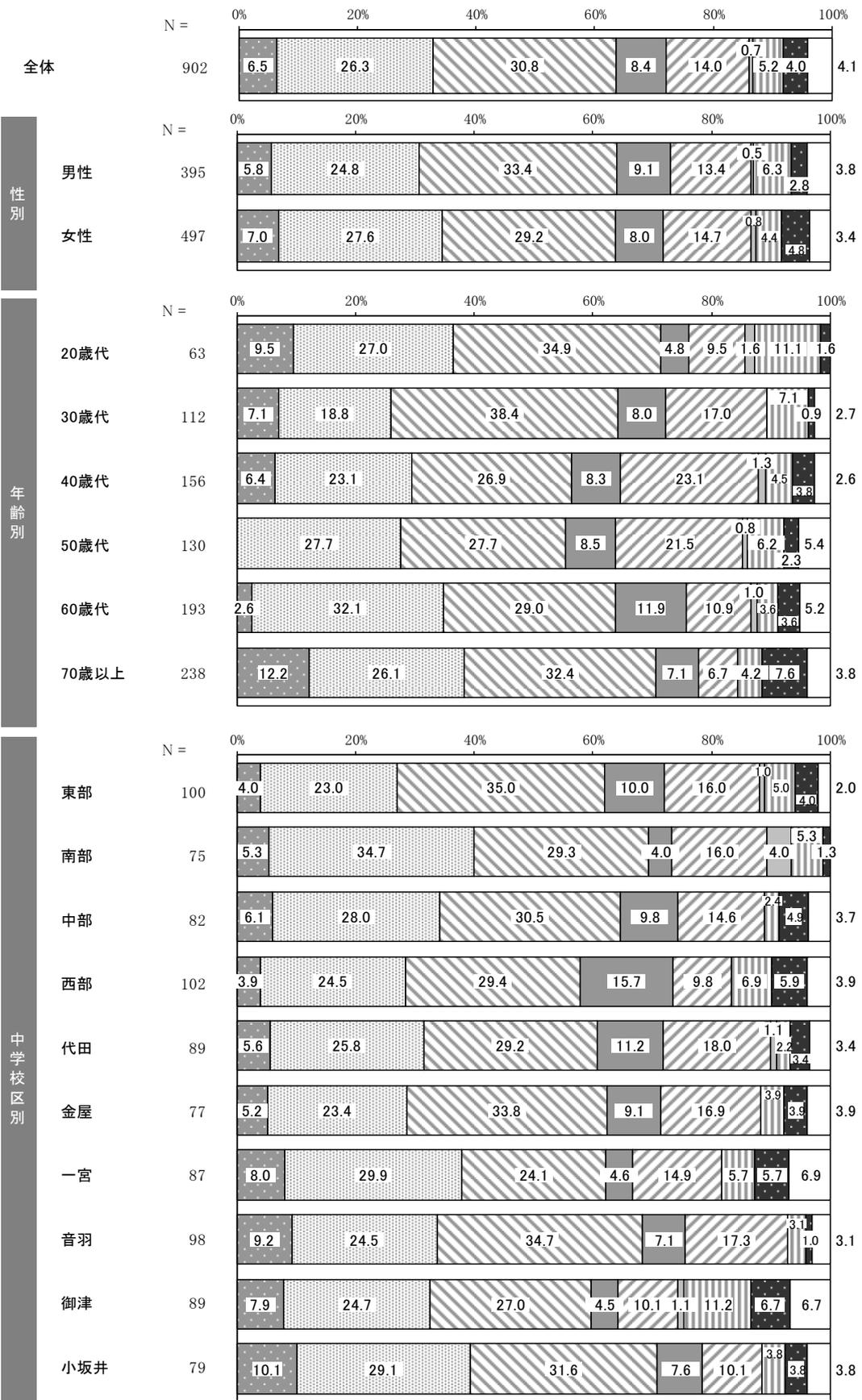
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30 歳代で「簡単なことなら手伝いたい」、60 歳代で「頼まれたことは手伝いたい」、70 歳以上で「できる限りの手伝いをしたい」の割合が高くなっています。

中学校区別では、東部中学校区、音羽中学校区、金屋中学校区で「簡単なことなら手伝いたい」の割合が高くなっています。また、西部中学校区で「グループ活動の一員として手伝いたい」の割合が高くなっています。



- できる限りの手伝いをしたい
- ▨ 頼まれたことは手伝いたい
- ▩ 簡単なことなら手伝いたい
- グループ活動の一員として手伝いたい
- ▨ 手伝いたい、ためらう
- ▩ 誰かが手伝うはずなので、自分が手伝う必要はない
- ▩ 福祉サービスを利用すればよいので、自分が手伝う必要はない
- その他
- 無回答



問 14（1）近所で困っている人がいた場合、「手助けできること」（複数回答）

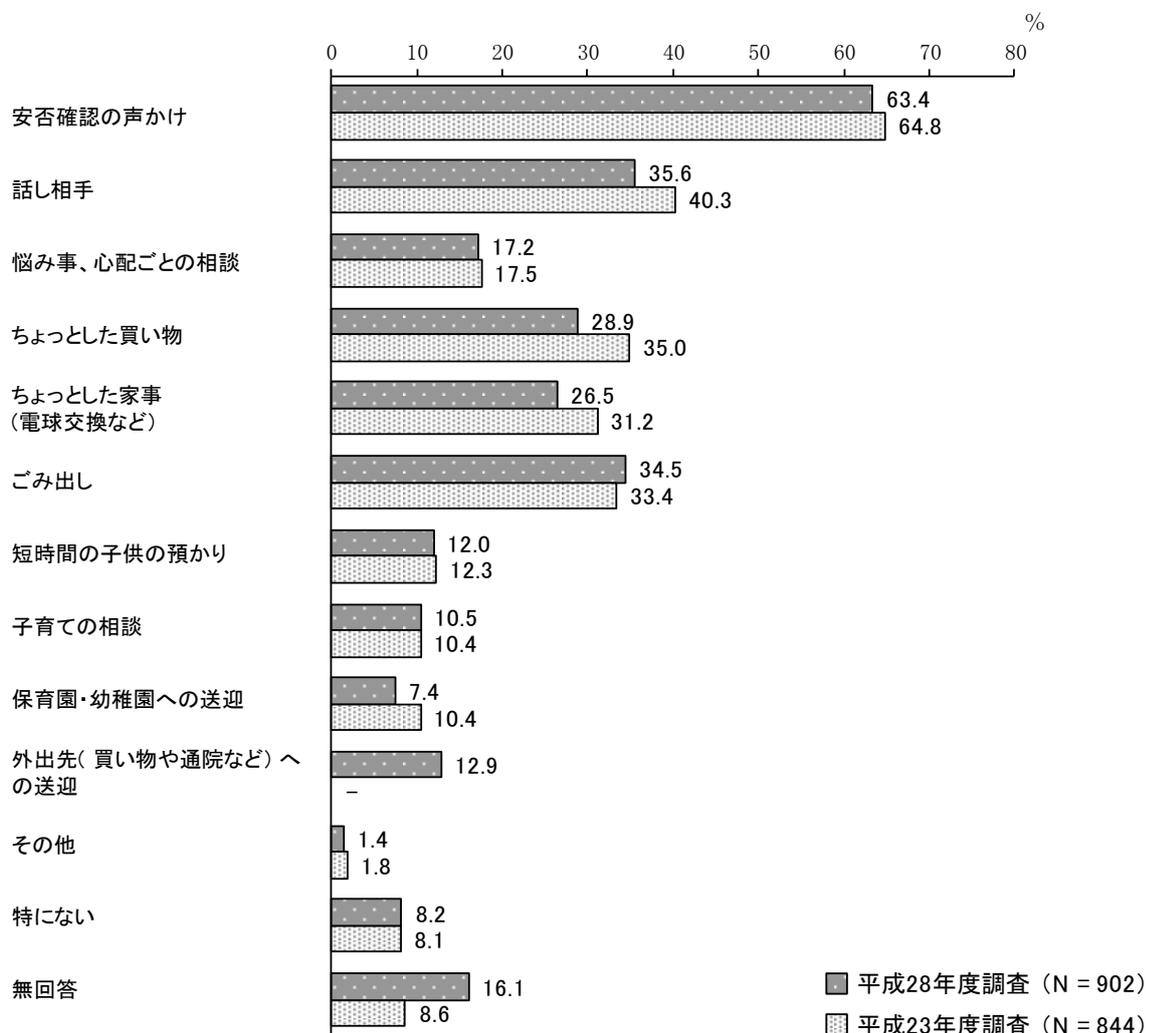
全体では、「安否確認の声かけ」の割合が 63.4%と最も高く、次いで「話し相手」が 35.6%、「ごみ出し」が 34.5%となっています。

平成 23 年度調査と比較すると、多くの項目で手助けできることの割合が減少しています。

性別では、女性に比べ、男性で「ちょっとした家事（電球交換など）」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「話し相手」「ちょっとした買い物」「ごみ出し」の割合が高くなっています。

年齢別では、30 歳代、40 歳代で「子育ての相談」の割合が高くなっています。

中学校区別では、全ての中学校区で「安否確認の声かけ」の割合が最も高くなっています。



※平成 23 年度調査には「外出先(買い物や通院など)への送迎」の選択肢はありません。

単位：%

区分		有効回答数(件)	安否確認の声かけ	話し相手	悩み事、心配ごとの相談	ちょっとした買い物	ちょっとした家事(電球交換など)	ごみ出し	短時間の子供の預かり	子育ての相談	保育園・幼稚園への送迎	外出先(買い物や通院など)への送迎	その他	特にない	無回答
全 体		902	63.4	35.6	17.2	28.9	26.5	34.5	12.0	10.5	7.4	12.9	1.4	8.2	16.1
性別	男性	395	62.5	31.6	18.2	25.3	31.6	30.4	9.9	7.6	6.3	12.7	1.8	9.6	15.2
	女性	497	64.6	39.0	16.5	31.8	22.5	37.8	13.7	12.9	8.2	13.1	1.2	6.8	16.3
年齢別	20歳代	63	73.0	36.5	23.8	23.8	30.2	41.3	15.9	9.5	7.9	9.5	1.6	14.3	3.2
	30歳代	112	77.7	49.1	27.7	35.7	33.0	34.8	17.9	21.4	14.3	13.4	0.9	8.9	3.6
	40歳代	156	71.2	39.1	21.8	30.8	28.2	36.5	22.4	21.2	9.0	14.7	3.2	10.3	8.3
	50歳代	130	72.3	30.8	9.2	33.8	30.0	33.1	6.9	6.2	2.3	13.8	—	8.5	7.7
	60歳代	193	64.8	35.2	16.6	34.2	28.0	40.4	11.4	8.8	11.4	16.1	2.6	7.3	13.5
	70歳以上	238	43.3	29.8	13.0	18.5	18.5	26.9	5.0	2.9	2.9	9.2	0.4	5.5	36.6
中学校区別	東部	100	62.0	34.0	21.0	32.0	23.0	35.0	15.0	8.0	7.0	13.0	2.0	13.0	8.0
	南部	75	61.3	30.7	10.7	28.0	25.3	33.3	8.0	6.7	2.7	9.3	1.3	12.0	18.7
	中部	82	57.3	42.7	23.2	34.1	36.6	41.5	14.6	17.1	8.5	18.3	4.9	3.7	23.2
	西部	102	66.7	36.3	18.6	28.4	26.5	37.3	12.7	13.7	8.8	13.7	1.0	5.9	15.7
	代田	89	69.7	37.1	12.4	29.2	23.6	30.3	12.4	13.5	5.6	9.0	—	5.6	15.7
	金屋	77	59.7	29.9	15.6	29.9	27.3	35.1	7.8	15.6	9.1	13.0	1.3	3.9	18.2
	一宮	87	66.7	40.2	20.7	27.6	27.6	35.6	12.6	6.9	6.9	9.2	1.1	11.5	13.8
	音羽	98	66.3	36.7	16.3	36.7	32.7	41.8	14.3	11.2	8.2	18.4	3.1	6.1	14.3
	御津	89	59.6	33.7	14.6	20.2	20.2	22.5	9.0	9.0	7.9	13.5	—	11.2	16.9
	小坂井	79	67.1	27.8	16.5	21.5	20.3	31.6	11.4	3.8	8.9	11.4	—	7.6	17.7

問 14（2）自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」（複数回答）

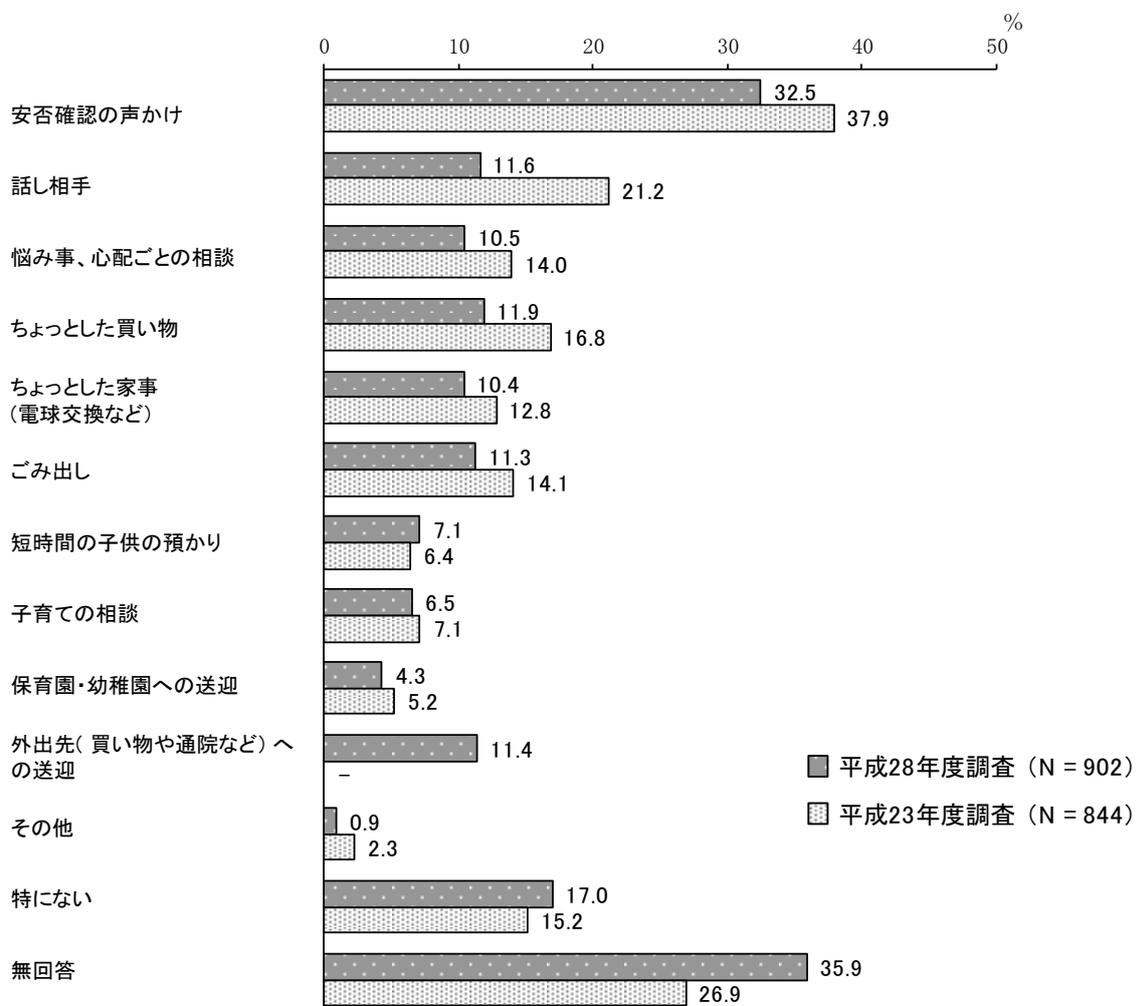
全体では、「安否確認の声かけ」の割合が32.5%と最も高く、次いで「特にない」17.0%、「ちょっとした買い物」が11.9%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「安否確認の声かけ」「話し相手」の割合が特に減少しています。また、「無回答」及び「特にない」の割合が高く出たことから、自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」としてのニーズが減少しており、地域に対する期待や必要性が減少していることがうかがえます。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30歳代で「短時間の子供の預かり」「保育園・幼稚園への送迎」、60歳代で「ごみ出し」の割合が高くなっています。また、20歳代、30歳代で「子育ての相談」の割合が高くなっています。

中学校区別では、東部中学校区で「ごみ出し」の割合が、他の中学校区と比べて特に高くなっています。



※平成23年度調査には「外出先(買い物や通院など)への送迎」の選択肢はありません。

単位：%

区分		有効回答数(件)	安否確認の声かけ	話し相手	悩み事、心配ごとの相談	ちょっとした買い物	ちょっとした家事(電球交換など)	ごみ出し	短時間の子供の預かり	子育ての相談	保育園・幼稚園への送迎	外出先(買い物や通院など)への送迎	その他	特にない	無回答
全 体		902	32.5	11.6	10.5	11.9	10.4	11.3	7.1	6.5	4.3	11.4	0.9	17.0	35.9
性別	男性	395	31.6	10.6	9.9	10.6	8.6	10.4	5.6	5.3	3.3	9.6	—	18.7	37.0
	女性	497	33.8	12.7	11.3	13.1	12.1	12.3	8.5	7.6	5.2	13.1	1.6	15.3	34.4
年齢別	20歳代	63	42.9	12.7	12.7	12.7	14.3	12.7	9.5	17.5	6.3	11.1	1.6	25.4	17.5
	30歳代	112	39.3	10.7	13.4	10.7	8.0	5.4	24.1	17.9	15.2	7.1	—	17.9	23.2
	40歳代	156	38.5	12.2	16.7	13.5	11.5	10.3	12.2	8.3	4.5	9.6	1.3	19.9	23.7
	50歳代	130	36.9	6.9	8.5	14.6	12.3	13.1	4.6	4.6	3.8	14.6	0.8	19.2	28.5
	60歳代	193	28.0	13.0	9.3	14.5	13.0	19.2	2.1	3.1	2.1	15.0	1.0	17.1	41.5
	70歳以上	238	24.4	13.4	7.1	8.0	7.1	7.6	0.8	1.3	0.8	10.5	0.8	10.9	53.4
中学校区別	東部	100	36.0	17.0	16.0	18.0	14.0	21.0	12.0	11.0	5.0	18.0	3.0	18.0	23.0
	南部	75	25.3	8.0	5.3	9.3	9.3	5.3	8.0	2.7	1.3	6.7	2.7	24.0	34.7
	中部	82	25.6	9.8	9.8	7.3	11.0	9.8	7.3	9.8	6.1	4.9	1.2	15.9	41.5
	西部	102	34.3	13.7	14.7	9.8	5.9	8.8	5.9	7.8	6.9	12.7	1.0	16.7	35.3
	代田	89	33.7	9.0	7.9	12.4	7.9	12.4	4.5	5.6	3.4	7.9	—	9.0	47.2
	金屋	77	31.2	7.8	11.7	10.4	11.7	9.1	10.4	7.8	7.8	10.4	—	14.3	41.6
	一宮	87	26.4	11.5	6.9	11.5	8.0	14.9	8.0	5.7	1.1	9.2	—	24.1	37.9
	音羽	98	39.8	11.2	10.2	21.4	18.4	13.3	6.1	6.1	4.1	16.3	—	14.3	31.6
	御津	89	31.5	12.4	6.7	7.9	10.1	6.7	3.4	4.5	1.1	14.6	—	18.0	37.1
	小坂井	79	39.2	12.7	11.4	7.6	6.3	7.6	7.6	3.8	6.3	10.1	1.3	19.0	30.4

問 15 住みやすい地域を実現していくうえでの問題(複数回答)

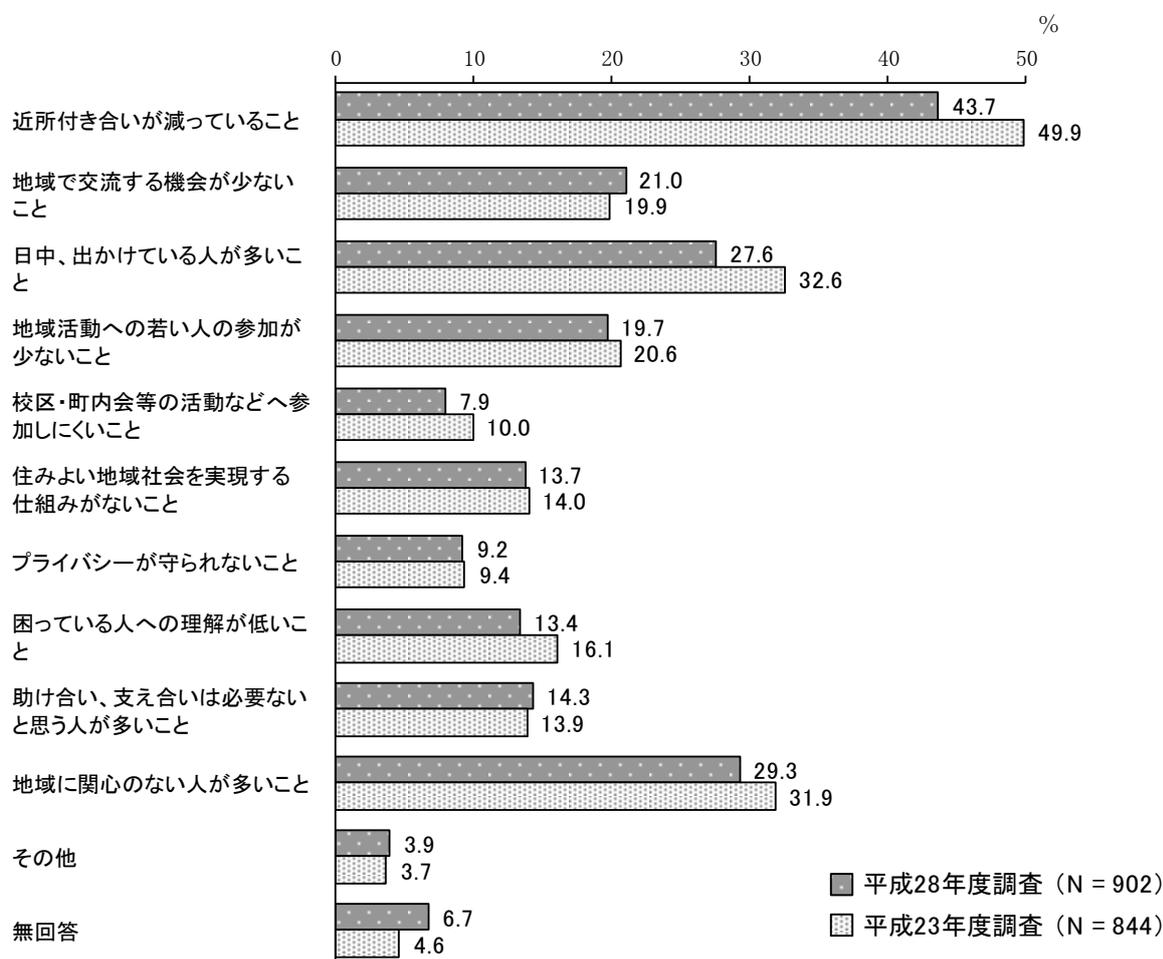
全体では、「近所付き合いが減っていること」の割合が43.7%と最も高く、次いで「地域に関心のない人が多いこと」が29.3%、「日中、出かけている人が多いこと」が27.6%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「近所付き合いが減っていること」の割合が大きく減少していることから、「近所付き合いが減っていること」を問題視しない傾向になっていることがうかがえます。また、「地域で交流する機会が少ないこと」や「地域活動への若い人の参加が少ないこと」、「地域に関心のない人が多いこと」の回答の割合が高いことから、地域活動への参加を促すとともに、それらの活動を通じて地域交流や地域への関心を高めようとする意向がうかがえます。

性別では、女性に比べ、男性で「地域活動への若い人の参加が少ないこと」「地域に関心のない人が多いこと」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「日中、出かけている人が多いこと」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代で「地域で交流する機会が少ないこと」の割合が高くなっています。また、70歳以上で「近所付き合いが減っていること」の割合が高くなっています。

中学校区別では、小坂井中学校区で「近所付き合いが減っていること」の割合が特に高くなっています。



区分		有効回答数(件)	近所付き合いが減っていること	地域で交流する機会が少ないこと	日中、出かけている人が多いこと	地域活動への若い人の参加が少ないこと	校区・町内会等の活動などへ参加しにくいこと	住みよい地域社会を実現する仕組みがないこと	プライバシーが守られないこと	困っている人への理解が低いこと	助け合い、支え合いは必要ないと思う人が多いこと	地域に関心のない人が多いこと	その他	無回答
全体		902	43.7	21.0	27.6	19.7	7.9	13.7	9.2	13.4	14.3	29.3	3.9	6.7
性別	男性	395	44.3	20.8	23.3	24.8	6.8	15.2	7.6	12.2	14.7	33.4	4.1	7.1
	女性	497	43.3	20.9	31.2	15.5	8.9	12.9	10.3	14.3	13.9	26.4	3.8	6.0
年齢別	20歳代	63	42.9	28.6	22.2	20.6	11.1	22.2	15.9	19.0	6.3	25.4	1.6	1.6
	30歳代	112	31.3	18.8	25.0	21.4	9.8	14.3	11.6	17.0	21.4	32.1	2.7	3.6
	40歳代	156	31.4	15.4	26.9	19.2	11.5	10.9	9.0	13.5	11.5	36.5	1.9	7.1
	50歳代	130	43.1	16.9	33.8	13.1	8.5	16.2	16.2	13.8	10.8	26.9	6.2	7.7
	60歳代	193	43.5	24.9	30.1	20.7	7.8	15.0	7.8	13.5	19.2	31.6	2.6	4.1
	70歳以上	238	58.0	23.1	25.2	21.8	3.8	11.3	2.9	9.7	13.0	23.9	6.3	10.1
中学校区別	東部	100	44.0	22.0	26.0	26.0	7.0	10.0	9.0	14.0	13.0	36.0	4.0	4.0
	南部	75	48.0	21.3	25.3	20.0	5.3	9.3	9.3	10.7	17.3	40.0	2.7	6.7
	中部	82	39.0	22.0	24.4	17.1	12.2	11.0	8.5	12.2	12.2	29.3	7.3	7.3
	西部	102	41.2	16.7	27.5	20.6	3.9	20.6	11.8	13.7	15.7	28.4	4.9	3.9
	代田	89	43.8	22.5	29.2	20.2	9.0	12.4	10.1	6.7	19.1	34.8	1.1	3.4
	金屋	77	36.4	14.3	24.7	19.5	10.4	9.1	6.5	11.7	14.3	29.9	2.6	10.4
	一宮	87	36.8	16.1	31.0	25.3	6.9	16.1	10.3	19.5	12.6	25.3	2.3	11.5
	音羽	98	42.9	28.6	30.6	15.3	8.2	16.3	6.1	16.3	12.2	21.4	4.1	8.2
	御津	89	43.8	27.0	34.8	15.7	9.0	19.1	6.7	10.1	12.4	16.9	5.6	7.9
	小坂井	79	60.8	19.0	26.6	16.5	8.9	8.9	11.4	16.5	15.2	36.7	5.1	1.3

問 16 誰もが安心して暮らすために必要なこと(複数回答)

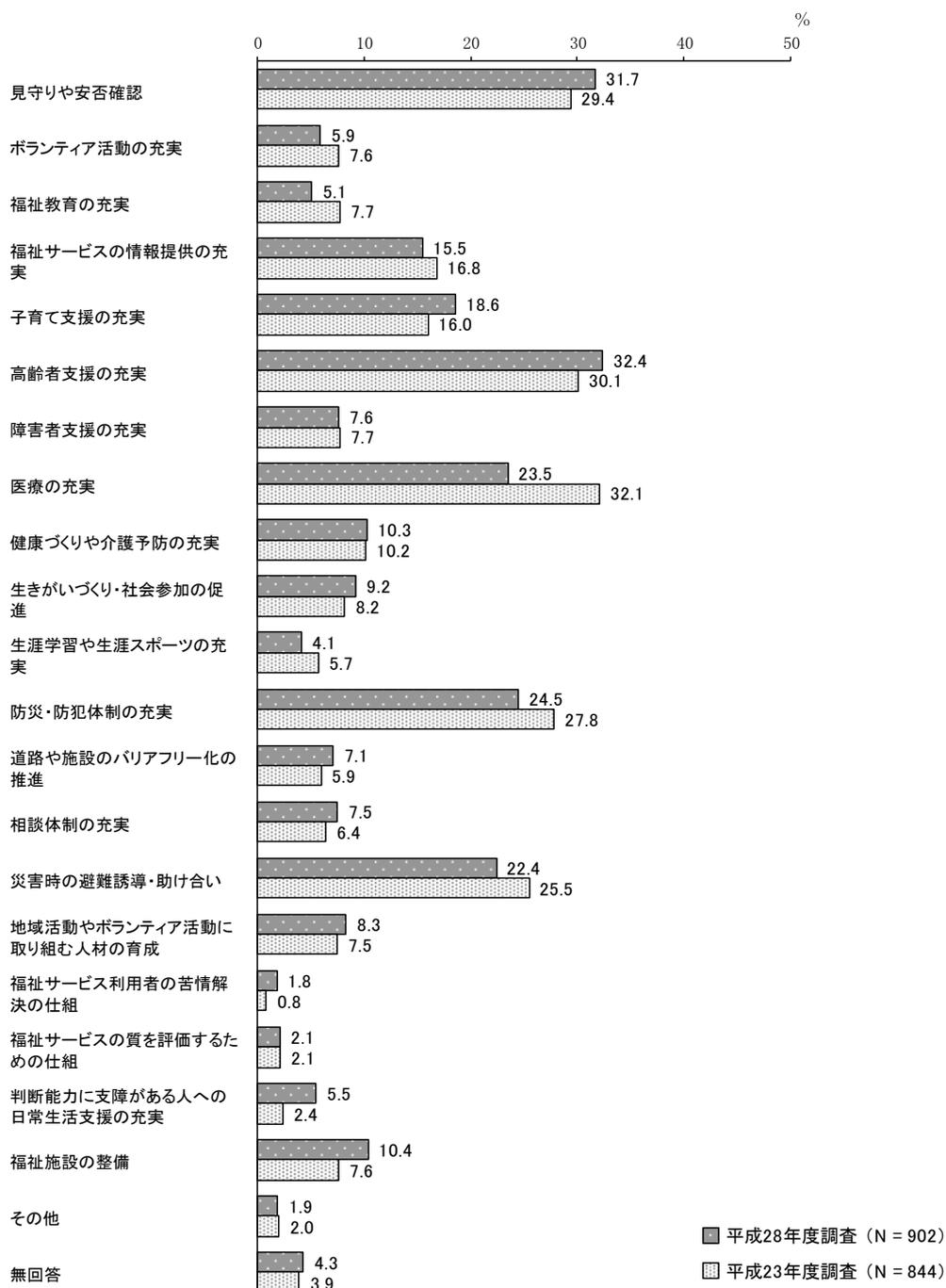
全体では、「高齢者支援の充実」の割合が32.4%と最も高く、次いで「見守りや安否確認」が31.7%、「防災・防犯体制の充実」が24.5%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「医療の充実」の割合が大きく減少し、「見守りや安否確認」、「高齢者支援の充実」の割合が増加し、上位2位となったことから、特に見守りが必要な高齢者世帯への支援が地域で必要になってきていることがうかがえます。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30歳代で「子育て支援の充実」、60歳代で「福祉サービスの情報提供の充実」、70歳以上で「高齢者支援の充実」の割合が高くなっています。

中学校区別では、西部中学校区で「見守りや安否確認」、南部中学校区で「福祉サービスの情報提供の充実」、小坂井中学校区で「高齢者支援の充実」の割合が高くなっています。



単位：%

区分		有効回答数(件)	見守りや安否確認	ボランティア活動の充実	福祉教育の充実	福祉サービスの情報提供の充実	子育て支援の充実	高齢者支援の充実	障害者支援の充実	医療の充実	健康づくりや介護予防の充実	生きがいがづくり・社会参加の促進	生涯学習や生涯スポーツの充実
全体		902	31.7	5.9	5.1	15.5	18.6	32.4	7.6	23.5	10.3	9.2	4.1
性別	男性	395	29.1	7.8	4.1	12.9	19.7	33.4	6.6	26.8	9.1	8.4	5.1
	女性	497	34.0	4.2	5.8	17.7	18.1	31.4	7.8	21.1	11.3	10.1	3.4
年齢別	20歳代	63	31.7	9.5	7.9	6.3	33.3	19.0	11.1	28.6	4.8	11.1	6.3
	30歳代	112	27.7	3.6	7.1	8.9	42.9	27.7	9.8	26.8	6.3	6.3	3.6
	40歳代	156	32.1	5.8	5.1	13.5	30.1	22.4	10.9	25.0	5.8	7.1	3.8
	50歳代	130	30.8	2.3	5.4	16.9	14.6	32.3	9.2	22.3	9.2	9.2	1.5
	60歳代	193	32.6	5.2	3.6	22.3	10.4	31.6	3.1	23.8	14.0	10.9	4.1
	70歳以上	238	34.0	8.4	4.2	16.0	5.5	44.5	5.0	20.2	14.7	10.5	5.5
中学校区別	東部	100	35.0	6.0	7.0	15.0	21.0	37.0	4.0	23.0	6.0	6.0	3.0
	南部	75	28.0	6.7	4.0	22.7	13.3	21.3	10.7	32.0	17.3	9.3	2.7
	中部	82	32.9	8.5	3.7	12.2	26.8	35.4	7.3	19.5	13.4	8.5	4.9
	西部	102	37.3	5.9	2.9	17.6	23.5	31.4	12.7	19.6	6.9	13.7	6.9
	代田	89	28.1	2.2	6.7	20.2	21.3	27.0	11.2	20.2	10.1	12.4	4.5
	金屋	77	31.2	7.8	5.2	15.6	22.1	23.4	6.5	31.2	9.1	10.4	3.9
	一宮	87	31.0	4.6	2.3	12.6	12.6	33.3	4.6	28.7	10.3	6.9	4.6
	音羽	98	30.6	9.2	7.1	12.2	13.3	33.7	2.0	23.5	11.2	11.2	3.1
	御津	89	33.7	2.2	4.5	11.2	14.6	36.0	6.7	18.0	15.7	4.5	3.4
	小坂井	79	30.4	5.1	3.8	17.7	17.7	43.0	5.1	24.1	7.6	6.3	3.8

(つづき)

単位：%

区分		防災・防犯体制の充実	道路や施設のバリアフリー化の推進	相談体制の充実	災害時の避難誘導・助け合い	地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成	福祉サービス利用者の苦情解決の仕組み	福祉サービスの質を評価するための仕組み	判断能力に支障がある人への日常生活支援の充実	福祉施設の整備	その他	無回答
全体		24.5	7.1	7.5	22.4	8.3	1.8	2.1	5.5	10.4	1.9	4.3
性別	男性	27.3	7.3	8.1	22.5	8.1	0.8	1.5	3.8	12.2	2.0	4.1
	女性	22.5	6.8	7.2	22.3	8.7	2.6	2.6	6.6	9.3	1.8	4.2
年齢別	20歳代	23.8	7.9	4.8	34.9	6.3	1.6	3.2	4.8	4.8	1.6	—
	30歳代	23.2	9.8	4.5	28.6	6.3	0.9	—	8.0	1.8	—	8.0
	40歳代	29.5	7.7	4.5	27.6	10.3	0.6	1.3	3.8	13.5	2.6	2.6
	50歳代	31.5	4.6	10.0	28.5	4.6	1.5	3.8	6.9	11.5	1.5	3.1
	60歳代	25.4	5.2	11.9	19.7	11.9	3.1	2.6	3.6	14.5	1.6	3.6
	70歳以上	18.1	8.0	7.1	12.2	8.0	2.1	2.1	6.3	10.1	2.9	5.5
中学校区別	東部	28.0	10.0	12.0	23.0	9.0	2.0	1.0	4.0	9.0	1.0	4.0
	南部	21.3	8.0	10.7	25.3	2.7	—	1.3	2.7	13.3	—	4.0
	中部	20.7	9.8	6.1	19.5	8.5	1.2	1.2	7.3	13.4	2.4	3.7
	西部	26.5	1.0	2.9	21.6	7.8	3.9	2.9	6.9	10.8	3.9	2.0
	代田	28.1	7.9	6.7	22.5	5.6	3.4	1.1	5.6	9.0	1.1	4.5
	金屋	22.1	6.5	5.2	22.1	7.8	2.6	3.9	6.5	3.9	3.9	2.6
	一宮	24.1	6.9	8.0	19.5	14.9	1.1	4.6	5.7	12.6	2.3	8.0
	音羽	19.4	9.2	9.2	17.3	8.2	1.0	3.1	7.1	12.2	1.0	5.1
	御津	25.8	5.6	6.7	27.0	10.1	1.1	2.2	5.6	11.2	1.1	4.5
	小坂井	30.4	6.3	8.9	27.8	10.1	1.3	—	2.5	10.1	2.5	2.5



問 17 社会福祉協議会の認知度

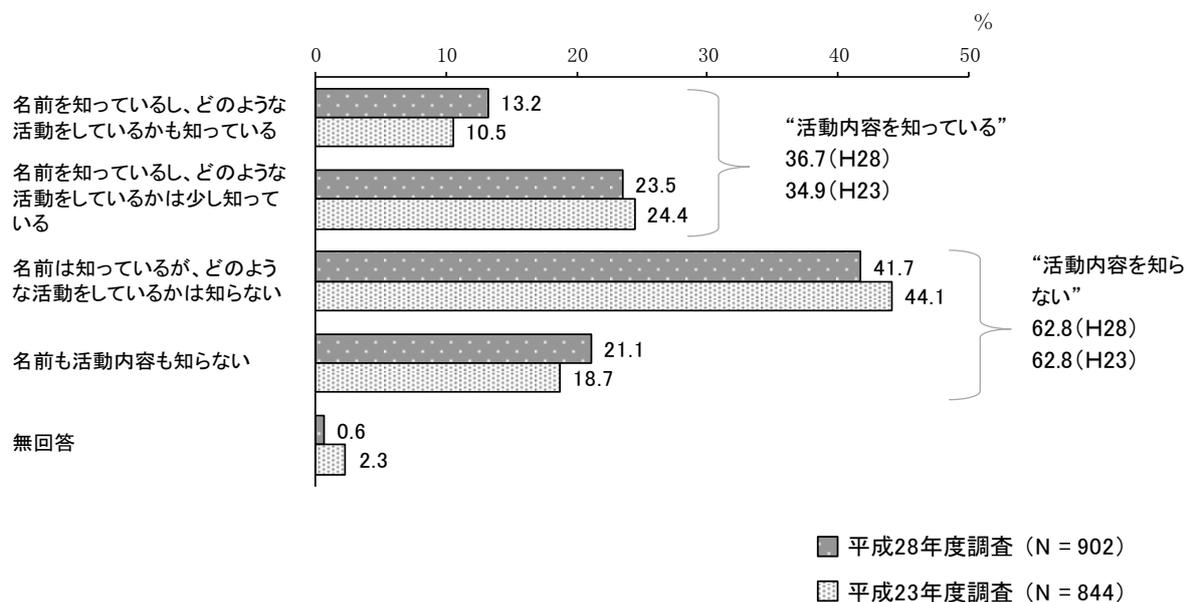
全体では、「名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている」と「名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている」をあわせた“活動内容を知っている”の割合が36.7%、「名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない」と「名前も活動内容も知らない」をあわせた“活動内容を知らない”の割合が62.8%となっています。地域福祉を牽引する団体であることから、今後ますます活動内容を周知していく必要があります。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

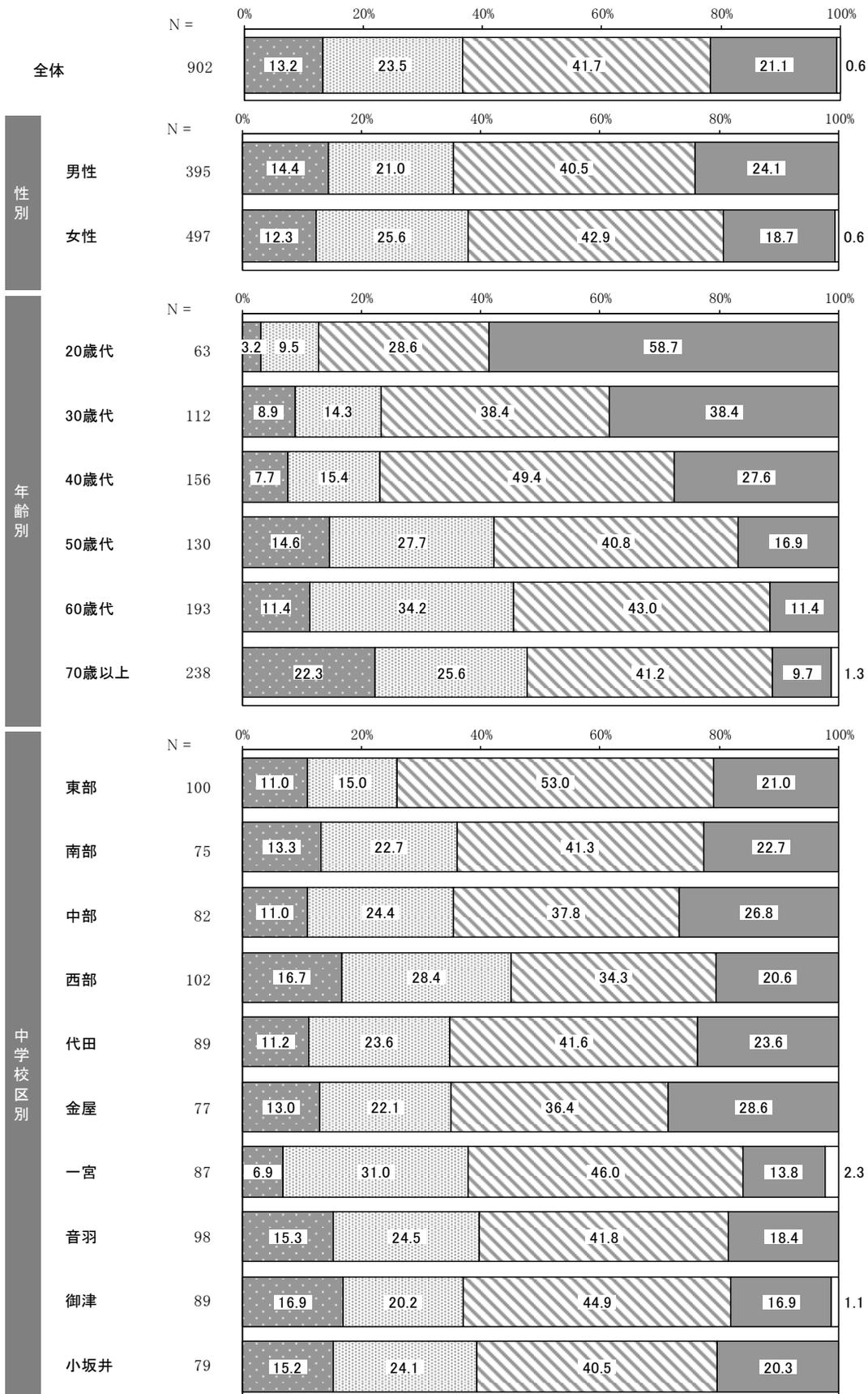
性別では、女性に比べ、男性で「名前も活動内容も知らない」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代で“活動内容を知らない”の割合が高くなっています。また、50歳代以降で“活動内容を知っている”の割合が高くなっています。

中学校区別では、西部中学校区、音羽中学校区で“活動内容を知っている”の割合が高くなっています。



- 名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている
- ▨ 名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
- ▧ 名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない
- 名前も活動内容も知らない
- 無回答



問 18 民生委員・児童委員の認知度

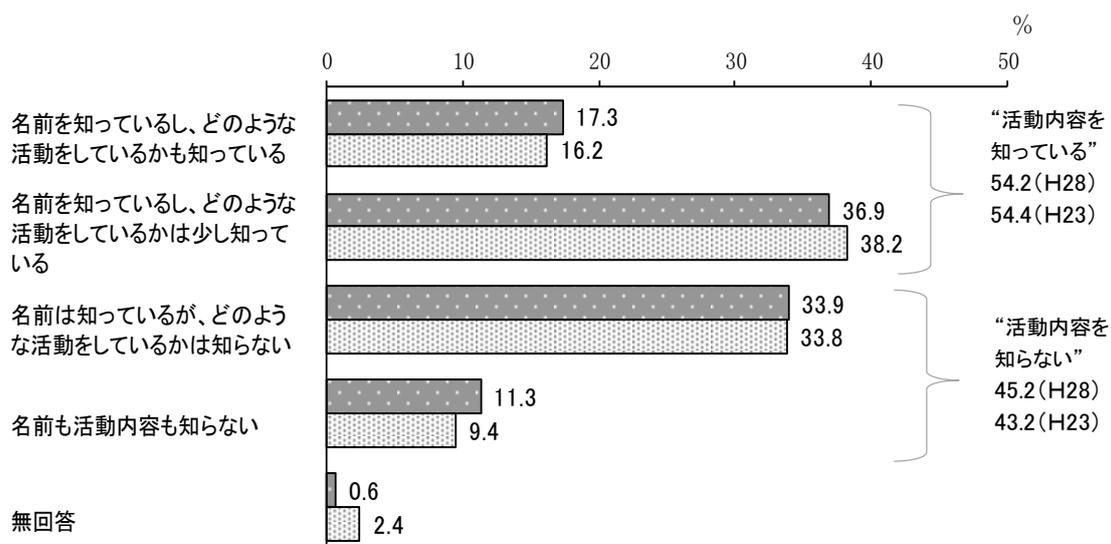
全体では、「名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている」と「名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている」をあわせた“活動内容を知っている”の割合が54.2%、「名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない」と「名前も活動内容も知らない」をあわせた“活動内容を知らない”の割合が45.2%となっています。

平成23年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

性別では、女性に比べ、男性で「名前も活動内容も知らない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が高くなるにつれて“活動内容を知っている”の割合が高くなる傾向にあります。

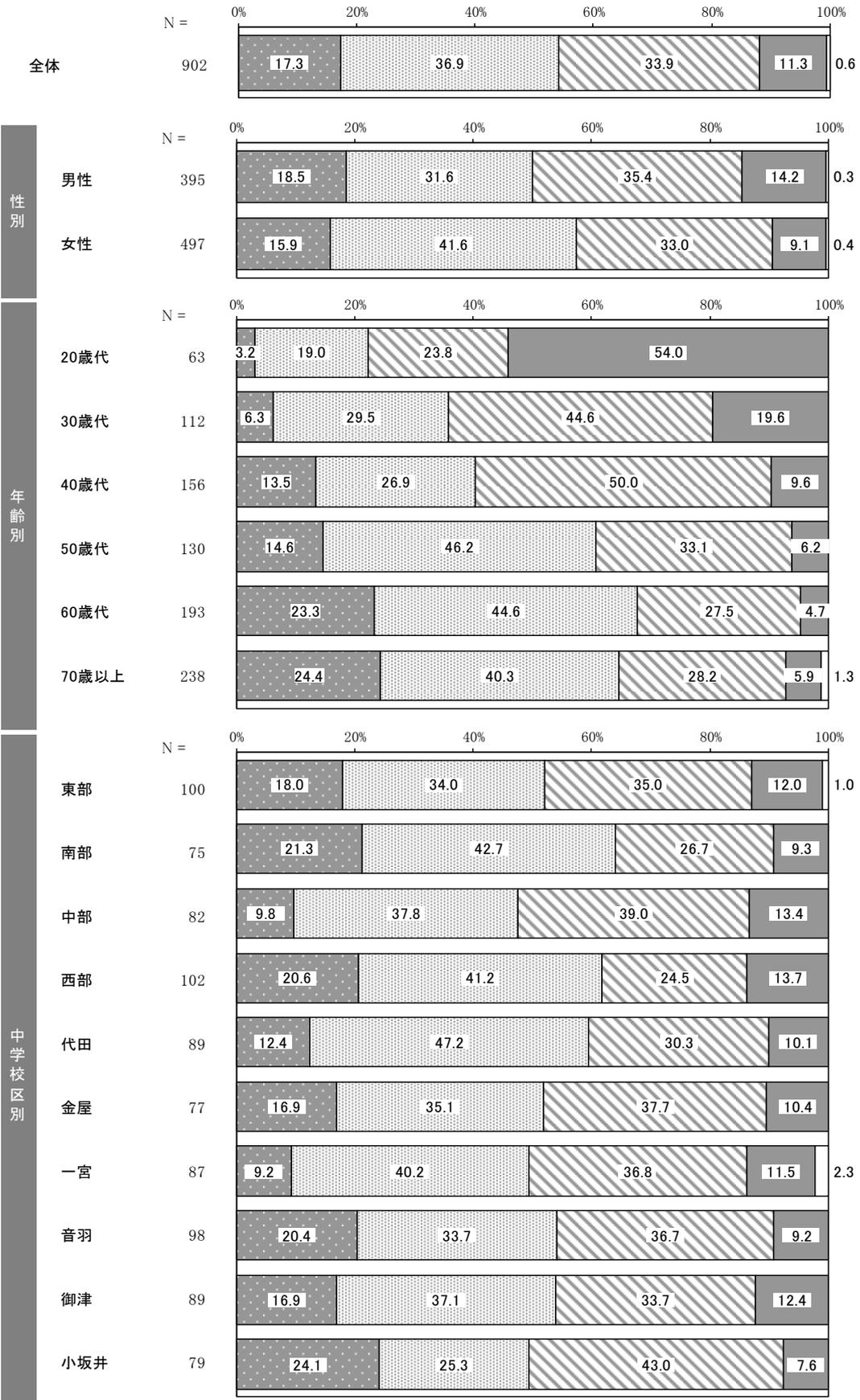
中学校区別では、南部中学校区、西部中学校区で“活動内容を知っている”の割合が高くなっています。



■ 平成28年度調査 (N = 902)

▨ 平成23年度調査 (N = 844)

- 名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている
- ▨ 名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
- ▧ 名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない
- 名前も活動内容も知らない
- 無回答



4 ボランティア・地域活動について

問 19-1 ボランティア・地域活動について

(1) これまでに参加したことがあるボランティア・地域活動(複数回答)

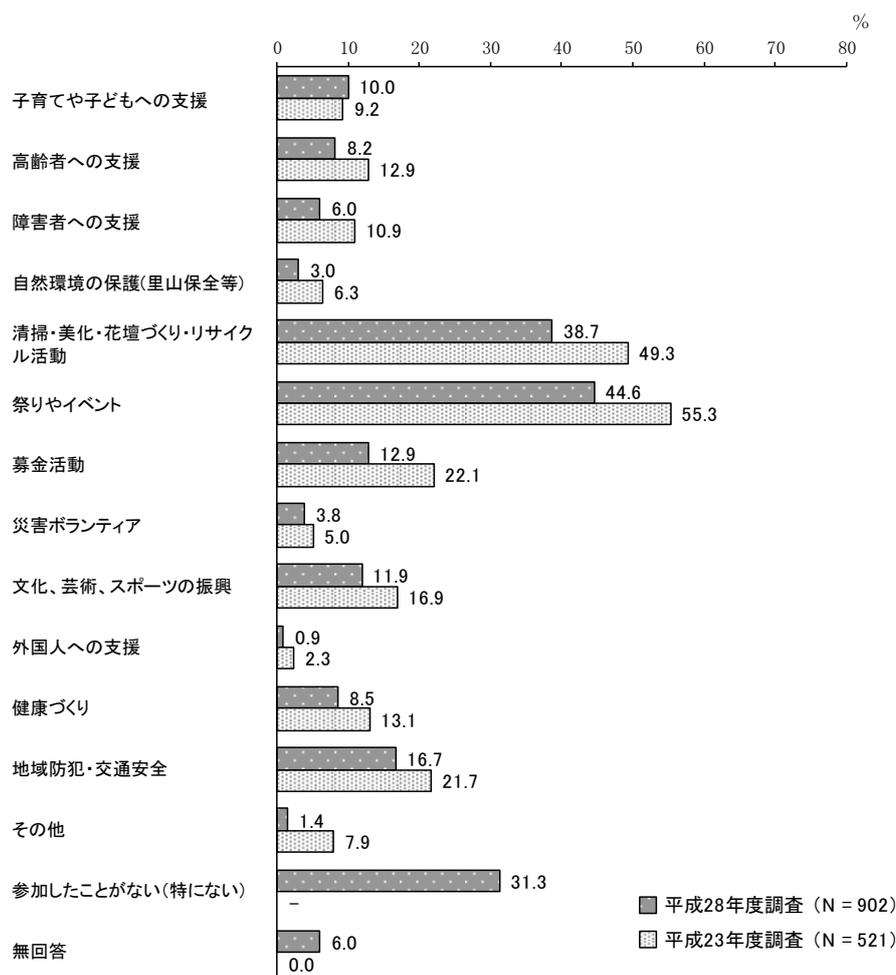
全体では、「祭りやイベント」の割合が44.6%と最も高く、次いで「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の割合が38.7%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」「祭りやイベント」「募金活動」の割合が特に減少しています。

性別では、男性に比べ、女性で「子育てや子どもへの支援」「高齢者への支援」「障害者への支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、40歳代で「子育てや子どもへの支援」「祭りやイベント」、50歳代で「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の割合が高くなっています。また、60歳代、70歳以上で「健康づくり」の割合が高くなっています。

中学校区別では、多くの中学校区で「祭りやイベント」の割合が高くなっています。また、西部中学校区では「健康づくり」、小坂井中学校区では「高齢者への支援」の割合が高くなっています。



※平成23年度調査には「参加したことがない(特にない)」の選択肢はありません。

単位：%

区分		有効回答数(件)	子育てや子どもへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	自然環境の保護(里山保全等)	清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動	祭りやイベント	募金活動	災害ボランティア	文化、芸術、スポーツの振興	外国人への支援	健康づくり	地域防犯・交通安全	その他	参加したことがない(特にない)	無回答
全体		902	10.0	8.2	6.0	3.0	38.7	44.6	12.9	3.8	11.9	0.9	8.5	16.7	1.4	31.3	6.0
性別	男性	395	7.6	5.8	3.5	4.6	37.0	47.8	12.4	4.6	13.7	0.8	6.6	22.0	1.0	30.6	5.6
	女性	497	11.9	10.1	7.8	1.8	40.2	42.3	13.3	3.0	10.7	1.0	10.3	12.7	1.8	31.8	5.8
年齢別	20歳代	63	7.9	9.5	7.9	4.8	34.9	49.2	17.5	3.2	9.5	—	4.8	7.9	3.2	39.7	—
	30歳代	112	12.5	7.1	9.8	0.9	34.8	48.2	16.1	2.7	10.7	0.9	2.7	12.5	—	32.1	0.9
	40歳代	156	17.9	2.6	4.5	1.9	39.7	55.8	13.5	3.2	10.9	1.9	5.8	17.3	1.3	29.5	1.9
	50歳代	130	12.3	4.6	6.9	3.1	52.3	44.6	15.4	3.1	16.9	1.5	5.4	17.7	1.5	21.5	4.6
	60歳代	193	6.2	9.3	6.2	2.1	42.5	45.6	11.9	5.7	13.5	—	10.4	21.8	1.6	29.5	5.2
	70歳以上	238	5.9	13.0	3.8	5.0	30.7	34.0	8.8	3.4	10.1	0.8	14.7	16.0	1.7	36.6	13.0
中学校区別	東部	100	11.0	6.0	6.0	2.0	38.0	40.0	12.0	3.0	6.0	—	1.0	19.0	3.0	33.0	8.0
	南部	75	10.7	6.7	9.3	1.3	37.3	49.3	10.7	4.0	10.7	1.3	8.0	18.7	2.7	32.0	8.0
	中部	82	9.8	8.5	4.9	3.7	35.4	47.6	15.9	2.4	11.0	—	7.3	13.4	1.2	26.8	9.8
	西部	102	9.8	8.8	3.9	—	41.2	58.8	14.7	2.9	13.7	—	15.7	19.6	1.0	28.4	3.9
	代田	89	11.2	6.7	6.7	2.2	27.0	43.8	20.2	3.4	10.1	1.1	12.4	12.4	1.1	33.7	3.4
	金屋	77	9.1	9.1	5.2	1.3	42.9	33.8	10.4	2.6	10.4	2.6	6.5	20.8	—	41.6	5.2
	一宮	87	8.0	4.6	6.9	6.9	46.0	43.7	13.8	6.9	13.8	1.1	8.0	20.7	2.3	35.6	2.3
	音羽	98	11.2	8.2	5.1	5.1	45.9	49.0	10.2	3.1	15.3	1.0	5.1	17.3	1.0	24.5	6.1
	御津	89	9.0	9.0	5.6	3.4	27.0	33.7	9.0	4.5	14.6	1.1	9.0	13.5	2.2	27.0	5.6
	小坂井	79	11.4	13.9	5.1	5.1	48.1	48.1	11.4	3.8	13.9	1.3	13.9	12.7	—	31.6	5.1

(2) 今後(も)参加してみたいボランティア・地域活動(複数回答)

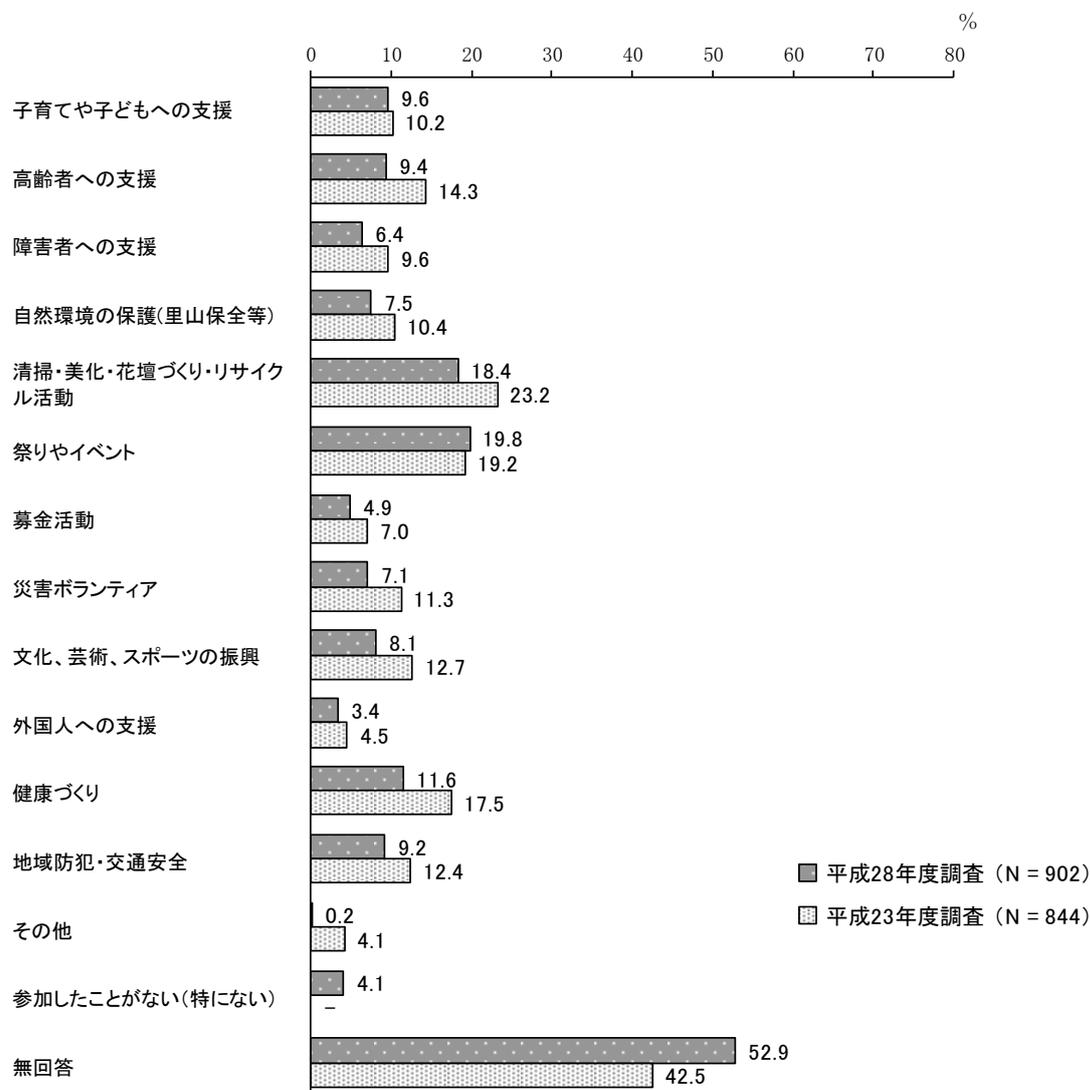
全体では、「祭りやイベント」の割合が19.8%と最も高く、次いで「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」が18.4%、「健康づくり」が11.6%となっているものの、回答割合が2割を超える項目がみられず、ボランティア・地域活動へ参加したいニーズの高まりがみられない現状となっています。

平成23年度調査と比較すると、「健康づくり」の割合が特に減少しています。

性別では、女性に比べ、男性で「地域防犯・交通安全」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「子育てや子どもへの支援」の割合が高くなっています。

年齢別では、他に比べ、30歳代で「祭りやイベント」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「祭りやイベント」「清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動」の他に、東部中学校区で「子育てや子どもへの支援」の割合が、代田中学校区で「災害ボランティア」、音羽中学校区で「地域防犯・交通安全」の割合が高くなっています。



※平成23年度調査には「参加したことがない(特にない)」の選択肢はありません。

単位：%

区分		有効回答数(件)	子育てや子どもへの支援	高齢者への支援	障害者への支援	自然環境の保護(里山保全等)	清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動	祭りやイベント	募金活動	災害ボランティア	文化、芸術、スポーツの振興	外国人への支援	健康づくり	地域防犯・交通安全	その他	参加したことがない(特にない)	無回答
全体		902	9.6	9.4	6.4	7.5	18.4	19.8	4.9	7.1	8.1	3.4	11.6	9.2	0.2	4.1	52.9
性別	男性	395	6.1	6.8	4.3	10.4	20.5	21.3	5.6	7.1	7.1	2.3	10.4	13.2	0.5	5.1	53.7
	女性	497	12.7	11.3	7.8	5.4	16.7	18.5	4.2	6.8	9.1	4.2	12.9	6.0	—	3.4	51.9
年齢別	20歳代	63	11.1	11.1	7.9	4.8	15.9	20.6	7.9	14.3	6.3	9.5	6.3	6.3	1.6	12.7	41.3
	30歳代	112	19.6	8.0	8.9	7.1	21.4	36.6	3.6	10.7	8.9	8.9	8.9	14.3	—	6.3	39.3
	40歳代	156	14.7	9.0	9.6	8.3	14.7	25.0	5.8	9.6	13.5	5.8	10.9	9.6	—	5.1	44.9
	50歳代	130	12.3	13.1	9.2	10.0	23.1	16.2	6.2	6.9	8.5	0.8	13.8	9.2	—	3.1	44.6
	60歳代	193	4.7	7.8	5.2	7.3	21.8	17.1	4.1	6.2	7.3	2.1	11.9	8.8	—	2.1	59.6
	70歳以上	238	4.2	8.8	1.7	7.1	15.1	12.2	3.4	2.1	5.5	—	13.9	7.1	0.4	2.5	66.0
中学校区別	東部	100	13.0	10.0	7.0	9.0	12.0	17.0	5.0	7.0	2.0	4.0	11.0	10.0	—	3.0	50.0
	南部	75	8.0	6.7	8.0	4.0	14.7	20.0	5.3	6.7	8.0	1.3	10.7	9.3	—	4.0	57.3
	中部	82	11.0	11.0	7.3	11.0	23.2	22.0	4.9	6.1	11.0	6.1	14.6	12.2	—	1.2	57.3
	西部	102	8.8	9.8	2.9	6.9	20.6	25.5	3.9	6.9	10.8	2.9	12.7	9.8	—	3.9	47.1
	代田	89	10.1	11.2	7.9	11.2	15.7	21.3	6.7	12.4	10.1	3.4	9.0	4.5	—	3.4	47.2
	金屋	77	9.1	9.1	3.9	5.2	22.1	22.1	5.2	2.6	5.2	1.3	11.7	7.8	—	5.2	55.8
	一宮	87	9.2	5.7	6.9	6.9	21.8	17.2	4.6	8.0	6.9	1.1	11.5	3.4	1.1	8.0	56.3
	音羽	98	9.2	10.2	7.1	7.1	22.4	16.3	4.1	6.1	9.2	5.1	6.1	16.3	1.0	2.0	53.1
	御津	89	6.7	7.9	4.5	5.6	11.2	6.7	3.4	5.6	6.7	1.1	13.5	7.9	—	5.6	56.2
	小坂井	79	11.4	8.9	5.1	7.6	21.5	29.1	6.3	7.6	11.4	3.8	16.5	7.6	—	6.3	49.4

問 19-1 で「⑭参加したことがない」と答えた方にお聞きます

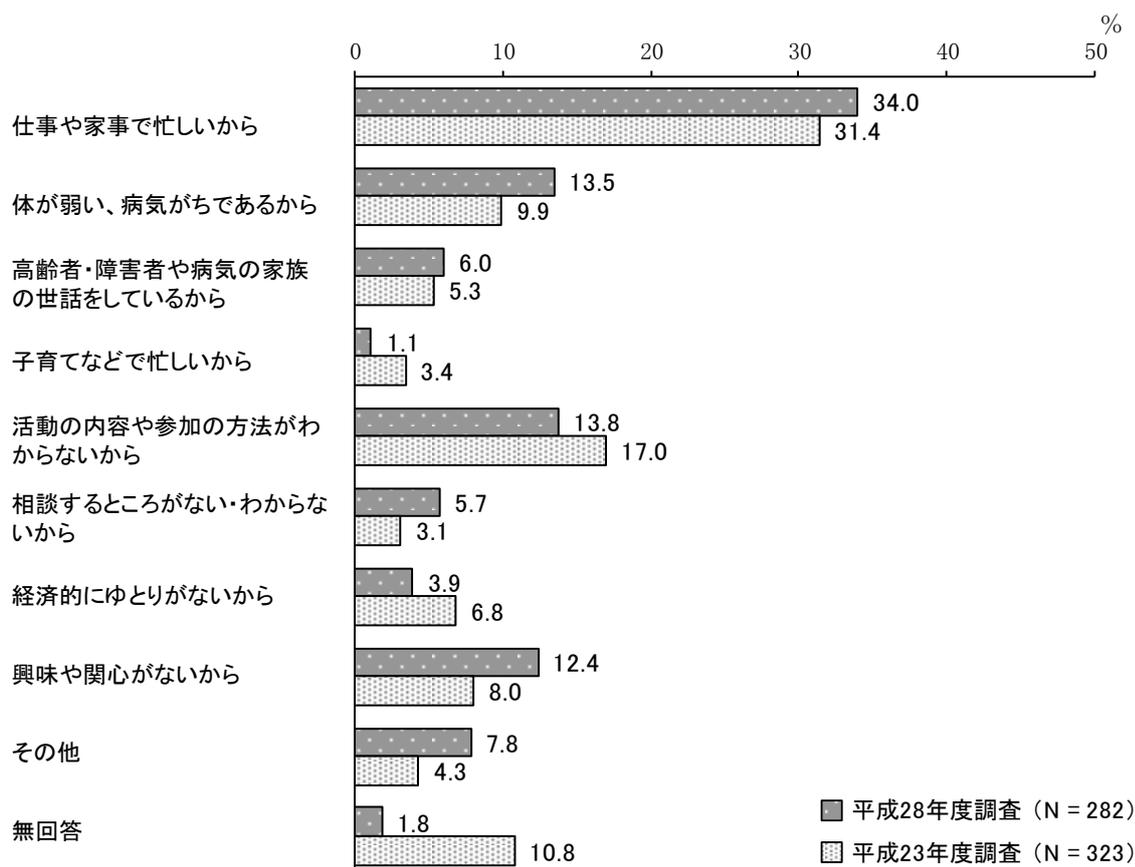
問 19-2 ボランティア・地域活動をしたことがない理由

全体では、「仕事や家事で忙しいから」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「活動の内容や参加の方法がわからないから」が 13.8%、「体が弱い、病気がちであるから」の割合が 13.5%となっています。

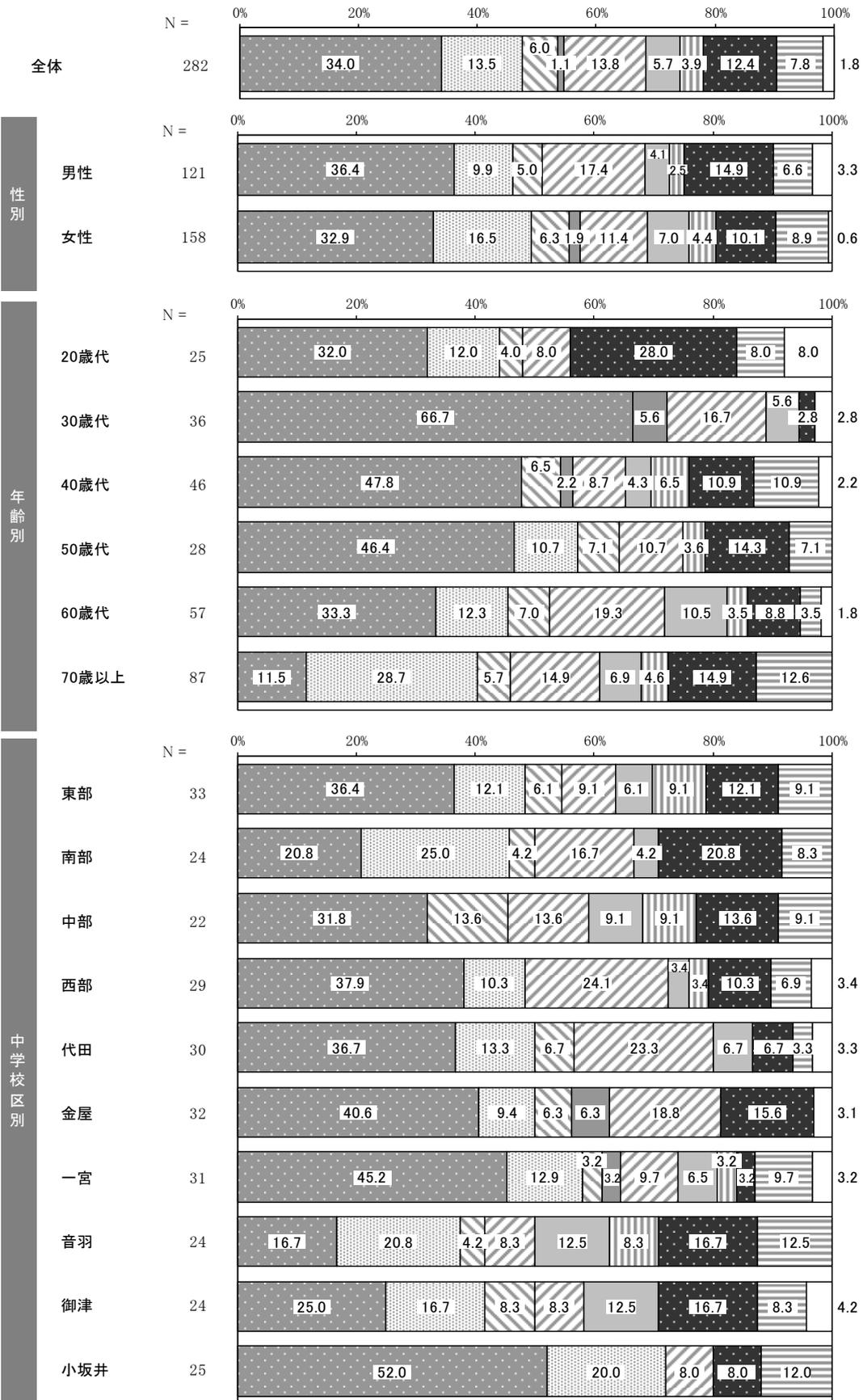
平成 23 年度調査と比較すると、「興味や関心がないから」が特に増加しています。

性別では、女性に比べ、男性で「活動の内容や参加の方法がわからないから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「体が弱い、病気がちであるから」の割合が高くなっています。

中学校区別では、南部中学校区で「体が弱い、病気がちであるから」「興味や関心がないから」、小坂井中学校区で「仕事や家事で忙しいから」の割合が高くなっています。



- 仕事や家事で忙しいから
- 高齢者・障害者や病気の家族の世話をしているから
- 活動の内容や参加の方法がわからないから
- 経済的にゆとりがないから
- その他
- 体が弱い、病気がちであるから
- 子育てなどで忙しいから
- 相談するところがない・わからないから
- 興味や関心がないから
- 無回答



問 20 ボランティア・地域活動が活発になるために必要なこと(複数回答)

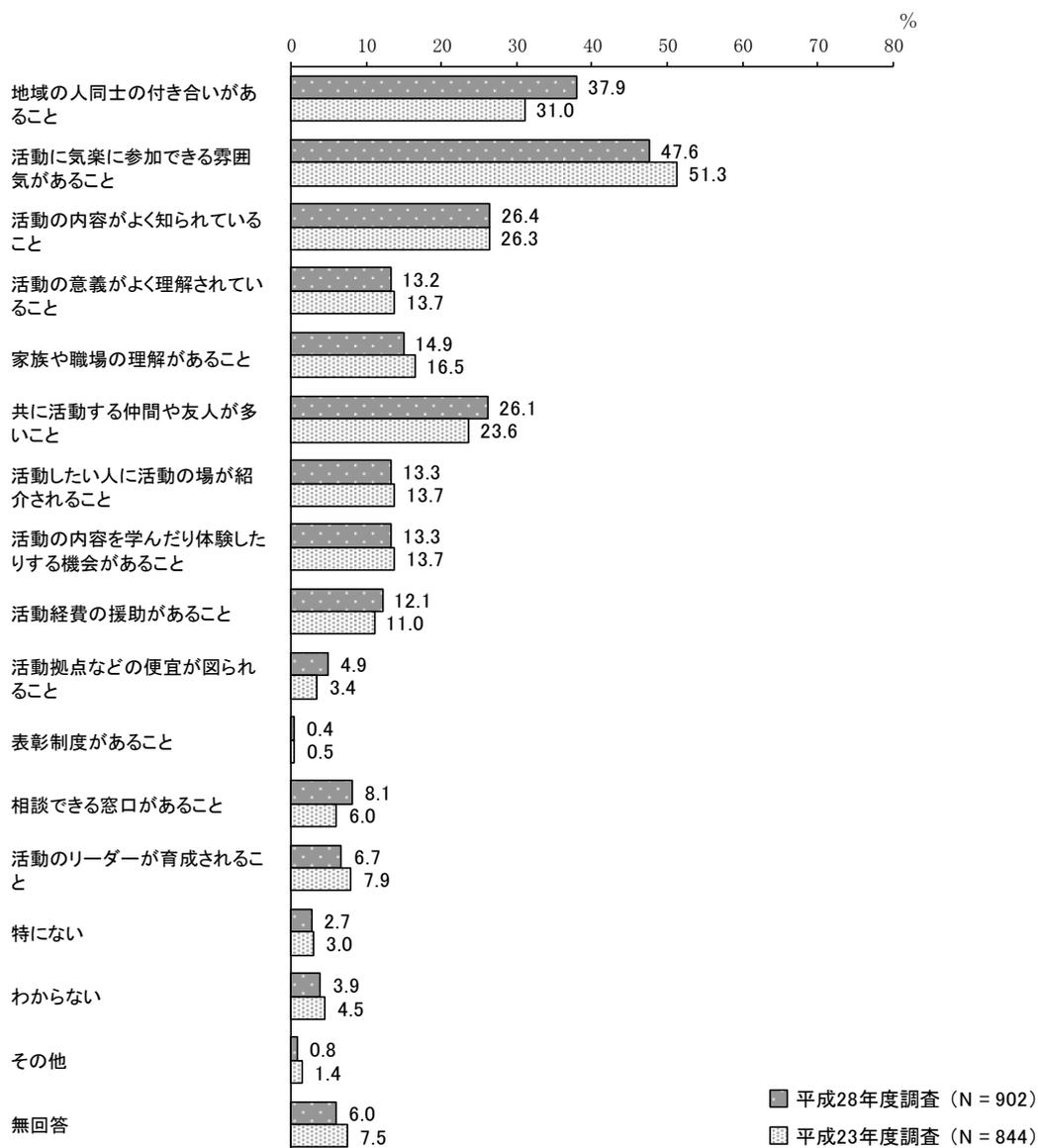
全体では、「活動に気楽に参加できる雰囲気があること」の割合が47.6%と最も高く、次いで「地域の人同士の付き合いがあること」が37.9%、「活動の内容がよく知られていること」が26.4%となっています。

平成23年度調査と比較すると、「地域の人同士の付き合いがあること」の割合が特に増加していることから、まずはお互いの付き合いや関係づくりのきっかけが必要であることがうかがえます。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、50歳代、20歳代で「活動の内容がよく知られていること」、70歳以上で「地域の人同士の付き合いがあること」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「活動に気楽に参加できる雰囲気があること」、「地域の人同士の付き合いがあること」の他に、代田中学校区で「活動の内容がよく知られていること」の割合が高くなっています。



単位：％

区分		有効回答数(件)	地域の人の付き合いがあること	活動に気楽に参加できる雰囲気があること	活動の内容がよく知られていること	活動の意義がよく理解されていること	家族や職場の理解があること	共に活動する仲間や友人が多いこと	活動したい人に活動の場が紹介されること	活動の内容を学んだり体験したりする機会があること
全体		902	37.9	47.6	26.4	13.2	14.9	26.1	13.3	13.3
性別	男性	395	40.8	46.3	26.1	14.4	17.5	25.8	9.9	12.9
	女性	497	35.8	49.3	26.4	12.3	12.9	26.4	16.3	13.9
年齢別	20歳代	63	28.6	49.2	33.3	14.3	15.9	28.6	23.8	9.5
	30歳代	112	34.8	50.0	33.0	14.3	19.6	33.9	15.2	13.4
	40歳代	156	31.4	51.9	27.6	15.4	17.9	26.9	13.5	14.1
	50歳代	130	33.1	46.9	36.2	14.6	20.0	23.1	14.6	15.4
	60歳代	193	38.9	48.2	26.9	14.5	11.4	23.8	16.1	17.1
	70歳以上	238	48.3	44.1	14.7	9.2	10.5	24.8	7.1	10.1
中学校区別	東部	100	41.0	46.0	28.0	15.0	16.0	33.0	15.0	16.0
	南部	75	29.3	36.0	20.0	20.0	17.3	20.0	14.7	12.0
	中部	82	39.0	48.8	23.2	12.2	17.1	24.4	11.0	20.7
	西部	102	41.2	47.1	26.5	16.7	11.8	32.4	10.8	15.7
	代田	89	31.5	51.7	32.6	11.2	7.9	18.0	18.0	14.6
	金屋	77	46.8	58.4	23.4	13.0	11.7	32.5	7.8	7.8
	一宮	87	35.6	42.5	25.3	12.6	20.7	24.1	17.2	11.5
	音羽	98	37.8	50.0	26.5	10.2	13.3	25.5	15.3	9.2
	御津	89	38.2	47.2	23.6	7.9	14.6	23.6	15.7	13.5
	小坂井	79	41.8	50.6	30.4	12.7	20.3	27.8	8.9	15.2

(つづき)

単位：%

区分		活動経費の援助があること	活動拠点などの便宜が図られること	表彰制度があること	相談できる窓口があること	活動のリーダーが育成されること	特にない	わからない	その他	無回答
全 体		12.1	4.9	0.4	8.1	6.7	2.7	3.9	0.8	6.0
性別	男性	15.7	4.8	0.5	7.1	8.4	2.8	3.0	1.3	4.6
	女性	9.1	4.6	0.4	9.1	5.4	2.4	4.4	0.4	6.8
年齢別	20歳代	19.0	3.2	—	4.8	4.8	4.8	3.2	1.6	1.6
	30歳代	17.0	3.6	1.8	6.3	8.0	0.9	1.8	—	2.7
	40歳代	15.4	5.1	0.6	6.4	9.0	3.2	1.9	2.6	1.9
	50歳代	12.3	5.4	—	10.8	2.3	2.3	2.3	1.5	2.3
	60歳代	11.9	6.7	—	10.9	5.7	1.6	3.6	—	5.7
	70歳以上	5.5	3.4	0.4	7.6	8.0	2.9	7.6	—	13.0
中学校区別	東 部	14.0	1.0	—	6.0	6.0	1.0	3.0	2.0	5.0
	南 部	10.7	8.0	1.3	12.0	5.3	8.0	5.3	1.3	6.7
	中 部	12.2	2.4	—	8.5	3.7	2.4	4.9	1.2	4.9
	西 部	12.7	7.8	—	5.9	7.8	1.0	3.9	—	4.9
	代 田	11.2	7.9	1.1	10.1	7.9	1.1	3.4	—	9.0
	金 屋	5.2	5.2	—	5.2	9.1	—	3.9	—	3.9
	一 宮	13.8	4.6	—	6.9	8.0	6.9	1.1	1.1	5.7
	音 羽	13.3	3.1	1.0	11.2	5.1	1.0	5.1	—	7.1
	御 津	9.0	3.4	—	9.0	6.7	2.2	4.5	—	7.9
	小坂井	15.2	3.8	1.3	6.3	6.3	—	5.1	1.3	2.5



5 暮らしの中での不安やその相談相手などについて

問 21 暮らしの中での悩みや不安(複数回答)

全体では、「健康に関すること」の割合が45.1%と最も高く、次いで「将来のこと」が29.9%、「収入や家計に関すること」が29.2%となっています。

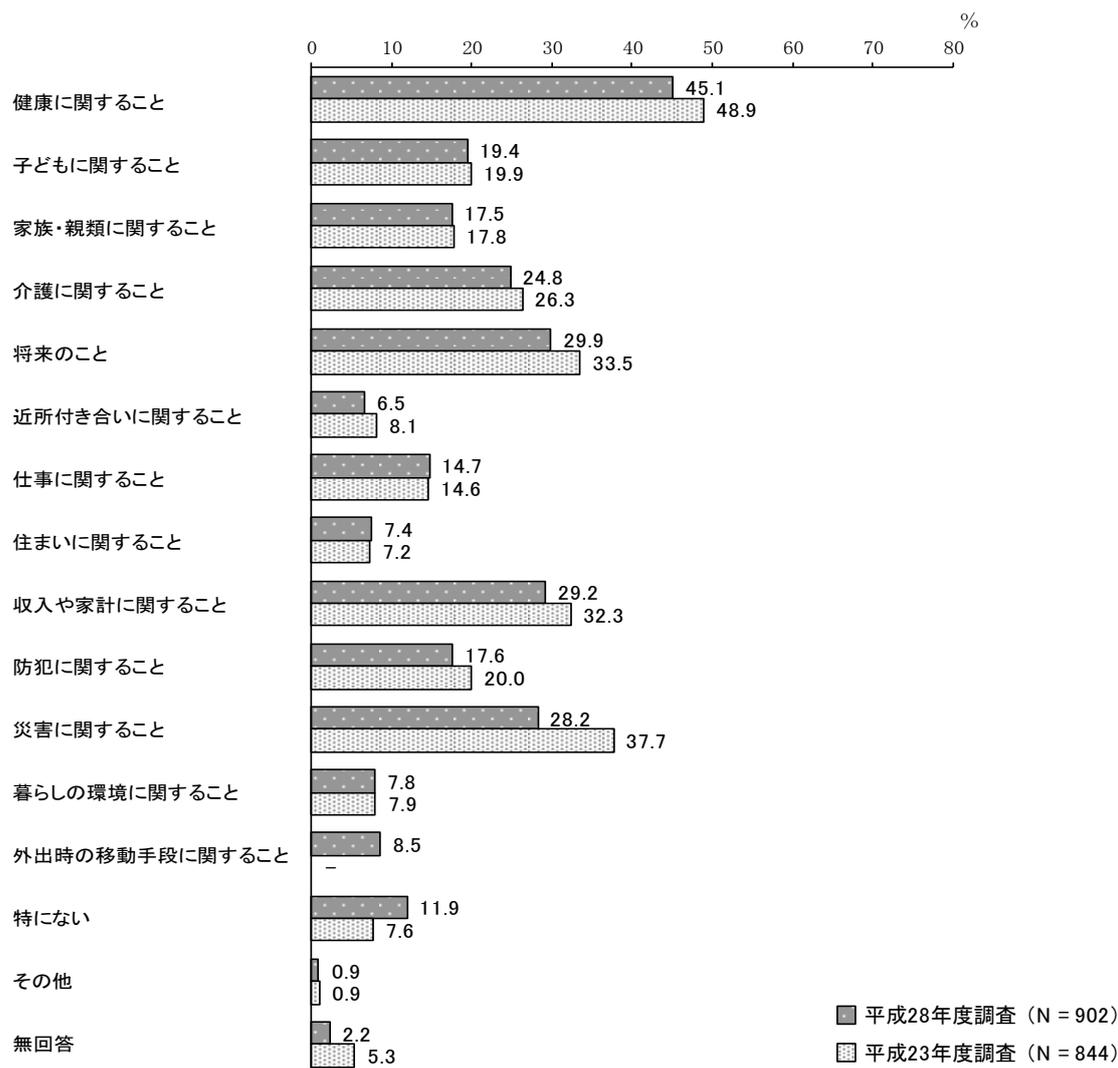
平成23年度調査と比較すると、「災害に関すること」の割合が特に減少しています。

性別では、女性に比べ、男性で「仕事に関すること」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代で「将来のこと」「仕事に関すること」、30歳代、40歳代で「子どもに関すること」「収入や家計に関すること」「災害に関すること」、70歳以上で「外出時の移動手段に関すること」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて、「健康に関すること」「介護に関すること」の割合が高くなる傾向があります。

中学校区別では、「健康に関すること」の他に、音羽中学校区で「外出時の移動手段に関すること」、小坂井中学校区で「介護に関すること」の割合が、他の中学校区と比べて高くなっています。

家族構成別では、親とあなたの二世帯で「将来のこと」の割合が高くなっています。



区分		有効回答数(件)	健康に関すること	子どもに関すること	家族・親類に関すること	介護に関すること	将来のこと	近所付き合いに関すること	仕事に関すること	住まいに関すること	収入や家計に関すること	防犯に関すること	災害に関すること	暮らしの環境に関すること	外出時の移動手段に関すること	特になし	その他	無回答
全体		902	45.1	19.4	17.5	24.8	29.9	6.5	14.7	7.4	29.2	17.6	28.2	7.8	8.5	11.9	0.9	2.2
性別	男性	395	47.1	17.0	16.7	23.0	28.6	7.1	20.5	9.4	29.6	18.7	28.6	7.1	8.4	12.7	1.0	1.5
	女性	497	43.9	21.5	18.5	26.2	31.0	6.0	10.3	6.0	29.0	16.9	28.0	8.5	8.9	11.3	0.8	2.4
年齢別	20歳代	63	30.2	25.4	17.5	11.1	57.1	6.3	49.2	7.9	39.7	28.6	30.2	7.9	7.9	14.3	1.6	—
	30歳代	112	26.8	51.8	19.6	16.1	36.6	9.8	24.1	8.9	42.9	27.7	42.0	6.3	2.7	7.1	—	—
	40歳代	156	33.3	39.1	27.6	18.6	26.9	5.8	22.4	6.4	40.4	20.5	34.0	7.7	3.2	10.3	1.9	0.6
	50歳代	130	39.2	10.0	23.1	25.4	33.8	4.6	14.6	5.4	24.6	17.7	31.5	8.5	6.2	8.5	1.5	0.8
	60歳代	193	53.9	8.3	14.0	28.0	22.3	6.7	8.3	10.4	25.4	13.0	25.9	8.3	7.8	14.5	0.5	3.1
	70歳以上	238	62.2	4.2	10.5	33.6	26.5	6.3	1.7	6.3	18.5	11.8	17.2	8.0	17.2	13.4	0.4	4.2
中学校区別	東部	100	45.0	21.0	11.0	25.0	38.0	6.0	17.0	10.0	34.0	11.0	29.0	7.0	8.0	11.0	—	2.0
	南部	75	46.7	16.0	17.3	25.3	30.7	2.7	13.3	6.7	29.3	20.0	33.3	8.0	5.3	13.3	—	2.7
	中部	82	40.2	18.3	17.1	17.1	31.7	7.3	13.4	8.5	29.3	19.5	30.5	9.8	12.2	15.9	—	2.4
	西部	102	49.0	19.6	17.6	22.5	26.5	4.9	10.8	5.9	24.5	19.6	29.4	5.9	6.9	9.8	1.0	2.0
	代田	89	40.4	25.8	18.0	25.8	24.7	4.5	19.1	9.0	27.0	20.2	31.5	7.9	9.0	12.4	2.2	4.5
	金屋	77	37.7	20.8	15.6	20.8	24.7	13.0	10.4	5.2	26.0	15.6	31.2	2.6	2.6	11.7	2.6	—
	一宮	87	43.7	18.4	21.8	24.1	31.0	6.9	17.2	9.2	31.0	19.5	21.8	5.7	9.2	12.6	—	2.3
	音羽	98	56.1	20.4	22.4	28.6	30.6	7.1	14.3	9.2	32.7	11.2	21.4	12.2	15.3	12.2	2.0	3.1
	御津	89	44.9	11.2	12.4	28.1	28.1	1.1	9.0	5.6	22.5	20.2	28.1	11.2	10.1	14.6	1.1	—
	小坂井	79	48.1	20.3	22.8	31.6	35.4	7.6	19.0	6.3	35.4	19.0	27.8	7.6	7.6	6.3	—	1.3
家族構成別	ひとり暮らし	73	45.2	4.1	11.0	16.4	26.0	6.8	12.3	9.6	32.9	19.2	16.4	8.2	13.7	13.7	—	6.8
	夫婦のみ	216	58.3	6.5	14.4	30.6	27.3	5.1	9.7	6.9	23.6	16.2	25.0	7.4	8.3	13.9	0.9	1.4
	親とあなたの二世帯	96	40.6	11.5	24.0	31.3	41.7	2.1	27.1	8.3	34.4	19.8	31.3	6.3	4.2	10.4	1.0	—
	あなたと子の二世帯	318	40.9	34.0	18.6	15.7	27.4	8.5	12.9	8.2	32.1	18.6	30.5	7.9	8.5	10.7	0.6	0.9
	三世帯世帯(親と子と孫)	115	34.8	26.1	19.1	33.9	32.2	3.5	20.9	5.2	26.1	17.4	30.4	7.8	9.6	14.8	2.6	1.7
	その他	52	53.8	13.5	19.2	34.6	34.6	15.4	17.3	9.6	34.6	13.5	36.5	9.6	11.5	1.9	—	1.9

問 22 悩みや不安についての相談相手(複数回答)

全体では、「家族・親類」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「近所の人・友人」が 35.8%、「職場の人」の割合が 14.2%となっています。一方、公的機関への相談の割合は低くなっています。

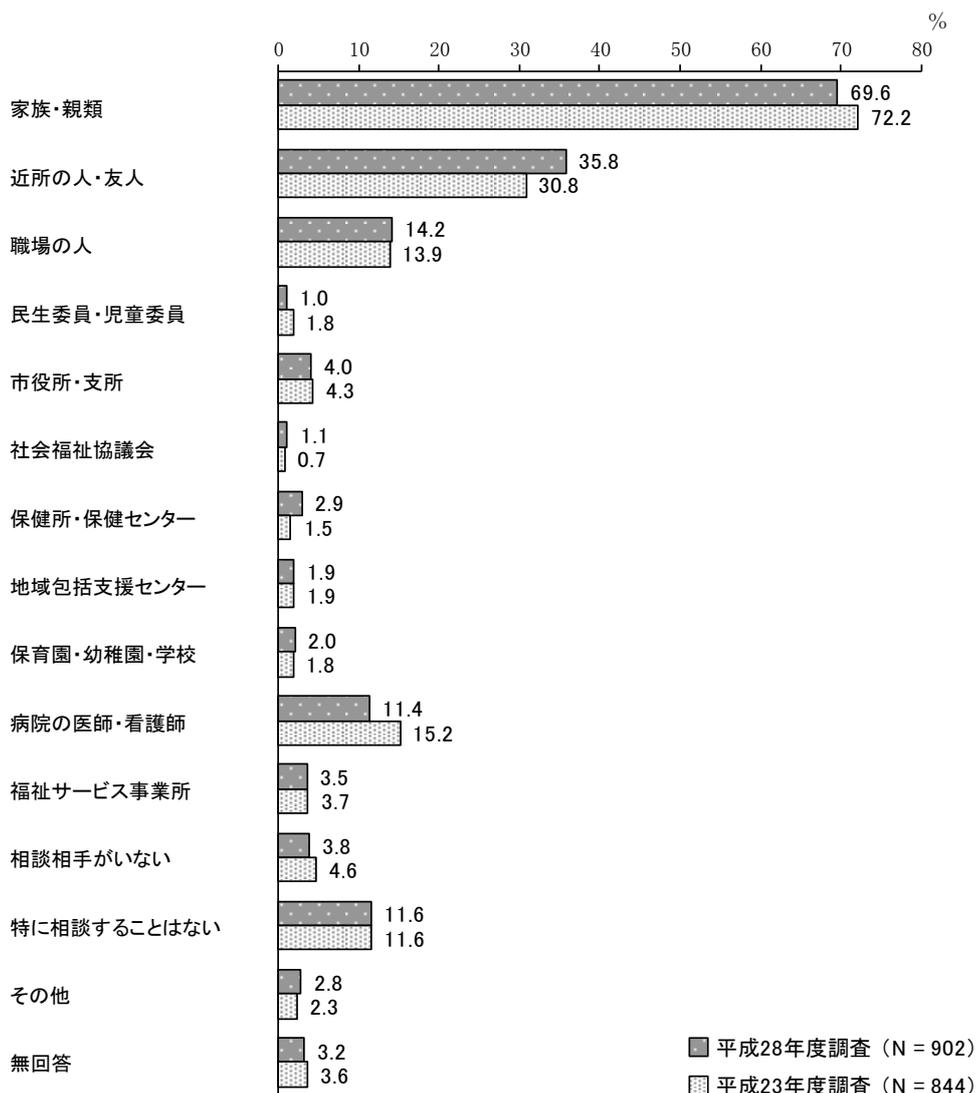
平成 23 年度調査との比較では、「家族・親類」が減少し、「近所の人・友人」が増加しています。

性別では、女性に比べ、男性で「特に相談することはない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「近所の人・友人」の割合が特に高くなっています。

年齢別では、70 歳以上で「病院の医師・看護師」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「家族・親類」「近所の人・友人」の他に、一宮中学校区で「病院の医師・看護師」の割合が高くなっています。

家族構成別では、大きな差異はみられません。



区分	有効回答数 (件)	家族・親類	近所の人・友人	職場の人	民生委員・児童委員	市役所・支所	社会福祉協議会	保健所・保健センター	地域包括支援センター	保育園・幼稚園・学校	病院の医師・看護師	福祉サービス事業所	相談相手がない	特に相談することはない	その他	無回答	
全体	902	69.6	35.8	14.2	1.0	4.0	1.1	2.9	1.9	2.0	11.4	3.5	3.8	11.6	2.8	3.2	
性別	男性	395	68.1	27.6	13.7	1.3	3.0	0.5	2.3	1.8	0.8	10.4	2.0	4.3	14.4	2.0	2.8
	女性	497	71.6	42.7	14.9	0.8	4.8	1.6	3.4	2.0	3.0	12.3	4.8	3.2	9.3	3.2	3.2
年齢別	20歳代	63	71.4	46.0	25.4	—	1.6	1.6	1.6	—	1.6	4.8	3.2	3.2	7.9	4.8	1.6
	30歳代	112	78.6	50.9	21.4	—	2.7	—	6.3	—	3.6	4.5	1.8	1.8	11.6	0.9	1.8
	40歳代	156	75.6	46.8	28.8	—	3.2	0.6	3.2	0.6	7.7	7.7	3.8	2.6	9.0	3.2	0.6
	50歳代	130	67.7	29.2	20.8	—	6.9	1.5	1.5	2.3	—	8.5	3.8	5.4	12.3	3.8	2.3
	60歳代	193	60.6	31.1	6.7	0.5	3.1	1.0	1.0	2.1	—	10.9	2.6	4.7	16.1	1.6	4.7
	70歳以上	238	70.2	26.9	1.3	3.4	4.6	1.7	3.8	3.8	0.4	20.6	5.0	3.8	10.5	3.4	4.6
中学校区別	東部	100	58.0	35.0	21.0	1.0	4.0	1.0	3.0	—	2.0	8.0	4.0	7.0	12.0	3.0	4.0
	南部	75	61.3	37.3	8.0	1.3	2.7	1.3	1.3	1.3	1.3	10.7	4.0	5.3	18.7	2.7	4.0
	中部	82	65.9	36.6	19.5	1.2	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	8.5	4.9	1.2	12.2	6.1	2.4
	西部	102	71.6	30.4	9.8	1.0	3.9	—	1.0	4.9	2.9	15.7	2.9	2.9	16.7	2.9	2.0
	代田	89	73.0	39.3	18.0	—	2.2	1.1	3.4	1.1	4.5	9.0	3.4	5.6	10.1	—	3.4
	金屋	77	75.3	41.6	11.7	2.6	3.9	1.3	5.2	2.6	3.9	13.0	6.5	2.6	11.7	1.3	1.3
	一宮	87	73.6	31.0	8.0	—	5.7	—	2.3	3.4	1.1	20.7	3.4	2.3	6.9	3.4	4.6
	音羽	98	67.3	36.7	12.2	1.0	4.1	2.0	1.0	1.0	2.0	9.2	1.0	3.1	14.3	1.0	4.1
	御津	89	75.3	36.0	15.7	—	4.5	1.1	3.4	2.2	—	10.1	3.4	4.5	12.4	1.1	2.2
	小坂井	79	81.0	39.2	17.7	2.5	3.8	1.3	6.3	—	—	8.9	3.8	1.3	2.5	2.5	2.5
家族構成別	ひとり暮らし	73	53.4	35.6	8.2	4.1	1.4	1.4	1.4	1.4	—	12.3	1.4	5.5	13.7	6.8	2.7
	夫婦のみ	216	65.7	28.2	6.9	1.4	3.2	1.4	1.9	2.3	—	9.7	3.7	5.6	12.0	2.8	3.7
	親とあなたの二世帯	96	68.8	41.7	18.8	—	7.3	2.1	1.0	1.0	1.0	10.4	3.1	5.2	13.5	1.0	2.1
	あなたと子の二世帯	318	76.7	39.6	17.9	0.9	3.1	0.3	3.8	2.2	3.5	11.3	3.1	2.8	9.7	2.8	1.9
	三世帯世帯(親と子と孫)	115	73.9	40.0	17.4	—	6.1	0.9	5.2	1.7	4.3	14.8	7.0	1.7	10.4	0.9	3.5
	その他	52	69.2	36.5	19.2	—	7.7	3.8	1.9	—	—	11.5	3.8	—	13.5	5.8	1.9

問 23 福祉サービスに関する情報の入手方法(複数回答)

全体では、「町内会の回覧板」の割合が39.1%と最も高く、次いで「市役所や社会福祉協議会の広報誌」が34.6%、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」が27.4%となっています。

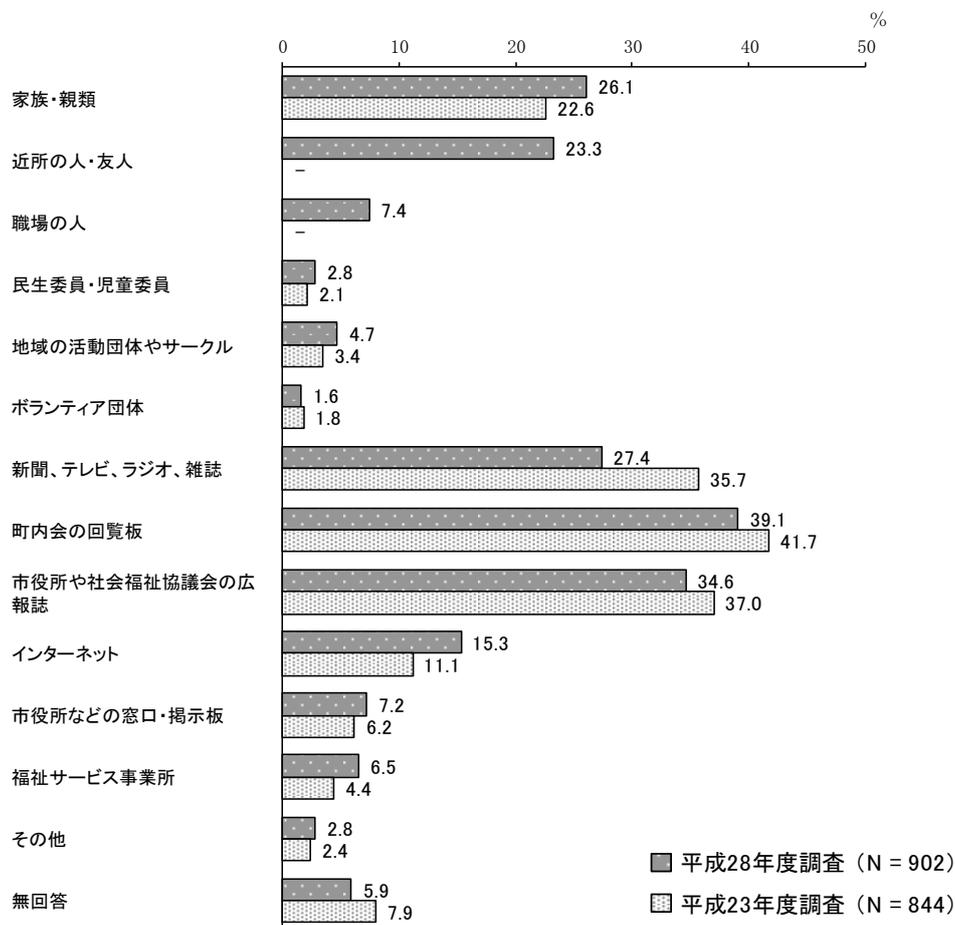
平成23年度調査と比較すると、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」の割合が特に減少し、一方で「インターネット」の割合が増加していることから、さまざまな手段を通して、情報を提供していくことが必要です。また、「家族・親類」や「近所の人・友人」を通じて、情報を入手する傾向もみられることから、要支援者を支える家族や地域支援者へ、正確な情報を発信する必要があることがうかがえます。

性別では、女性に比べ、男性で「家族・親類」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「近所の人・友人」「市役所や社会福祉協議会の広報誌」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代で「家族・親類」の割合が高くなっています。また、60歳代、70歳以上で「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」の割合が高くなっています。

中学校区別では、「町内会の回覧板」「市役所や社会福祉協議会の広報誌」の他に、金屋中学校区で「家族・親類」「近所の人・友人」、音羽中学校区で「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」の割合が高くなっています。

家族構成別では、ひとり暮らしで「民生委員・児童委員」、親とあなたの二世代で「家族・親類」の割合が高くなっています。



※平成23年度調査には「近所の人・友人」「職場の人」の選択肢はありません。

単位：％

区分		有効回答数 (件)	家族・親類	近所の人・友人	職場の人	民生委員・児童委員	地域の活動団体やサークル	ボランティア団体	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	町内会の回覧板	市役所や社会福祉協議会の広報誌	インターネット	市役所などの窓口・掲示板	福祉サービス事業所	その他	無回答
全体		902	26.1	23.3	7.4	2.8	4.7	1.6	27.4	39.1	34.6	15.3	7.2	6.5	2.8	5.9
性別	男性	395	28.9	18.2	6.3	2.5	5.1	2.5	28.6	38.7	30.1	16.2	6.1	5.8	3.3	7.1
	女性	497	23.7	27.8	8.5	3.0	4.4	0.8	26.2	39.6	38.0	14.9	7.8	7.2	2.2	4.8
年齢別	20歳代	63	39.7	15.9	11.1	—	—	3.2	20.6	20.6	12.7	27.0	3.2	3.2	9.5	11.1
	30歳代	112	24.1	28.6	14.3	—	4.5	0.9	12.5	37.5	31.3	27.7	2.7	2.7	4.5	3.6
	40歳代	156	23.1	25.0	9.6	0.6	3.8	0.6	19.2	33.3	37.8	26.3	10.9	5.8	2.6	5.1
	50歳代	130	26.2	13.8	11.5	1.5	1.5	—	26.9	41.5	39.2	20.8	11.5	10.0	0.8	5.4
	60歳代	193	15.5	23.3	6.2	3.1	5.7	1.6	34.2	45.1	37.8	7.3	8.8	5.2	1.0	4.1
	70歳以上	238	33.2	27.7	0.8	6.7	7.6	2.9	36.1	42.9	34.5	3.4	3.8	8.8	2.9	7.6
中学校区別	東部	100	22.0	23.0	6.0	2.0	3.0	1.0	28.0	36.0	36.0	22.0	7.0	1.0	5.0	5.0
	南部	75	25.3	25.3	12.0	4.0	5.3	1.3	26.7	34.7	26.7	9.3	4.0	8.0	4.0	5.3
	中部	82	25.6	25.6	7.3	1.2	3.7	1.2	28.0	41.5	39.0	13.4	9.8	8.5	2.4	6.1
	西部	102	22.5	19.6	4.9	2.9	7.8	2.0	27.5	47.1	39.2	22.5	6.9	6.9	—	5.9
	代田	89	24.7	21.3	7.9	1.1	4.5	4.5	27.0	36.0	37.1	27.0	6.7	3.4	1.1	4.5
	金屋	77	32.5	35.1	6.5	5.2	5.2	—	23.4	29.9	37.7	10.4	5.2	7.8	6.5	2.6
	一宮	87	32.2	16.1	5.7	1.1	—	1.1	20.7	33.3	29.9	11.5	13.8	5.7	3.4	9.2
	音羽	98	25.5	22.4	10.2	5.1	6.1	3.1	33.7	43.9	40.8	11.2	3.1	7.1	—	8.2
	御津	89	27.0	27.0	6.7	1.1	4.5	—	24.7	44.9	25.8	7.9	7.9	7.9	1.1	3.4
	小坂井	79	26.6	25.3	8.9	3.8	7.6	1.3	31.6	44.3	31.6	16.5	6.3	8.9	5.1	5.1
家族構成別	ひとり暮らし	73	23.3	23.3	6.8	12.3	5.5	—	27.4	35.6	24.7	6.8	6.8	5.5	4.1	11.0
	夫婦のみ	216	20.8	22.7	5.6	2.8	6.0	3.7	33.8	39.4	41.2	12.5	8.3	4.6	1.4	4.6
	親とあなたの二世代	96	34.4	16.7	10.4	1.0	4.2	2.1	21.9	30.2	28.1	19.8	5.2	8.3	6.3	6.3
	あなたと子の二世代	318	27.4	26.1	8.2	1.3	4.1	0.9	22.0	41.8	36.2	17.0	6.9	6.9	2.2	4.4
	三世代世帯 (親と子と孫)	115	27.8	26.1	8.7	2.6	3.5	—	25.2	40.0	29.6	20.9	6.1	9.6	2.6	7.0
	その他	52	25.0	23.1	3.8	1.9	7.7	1.9	44.2	42.3	36.5	15.4	11.5	7.7	1.9	3.8

問 24 福祉サービスに関する情報の入手状況

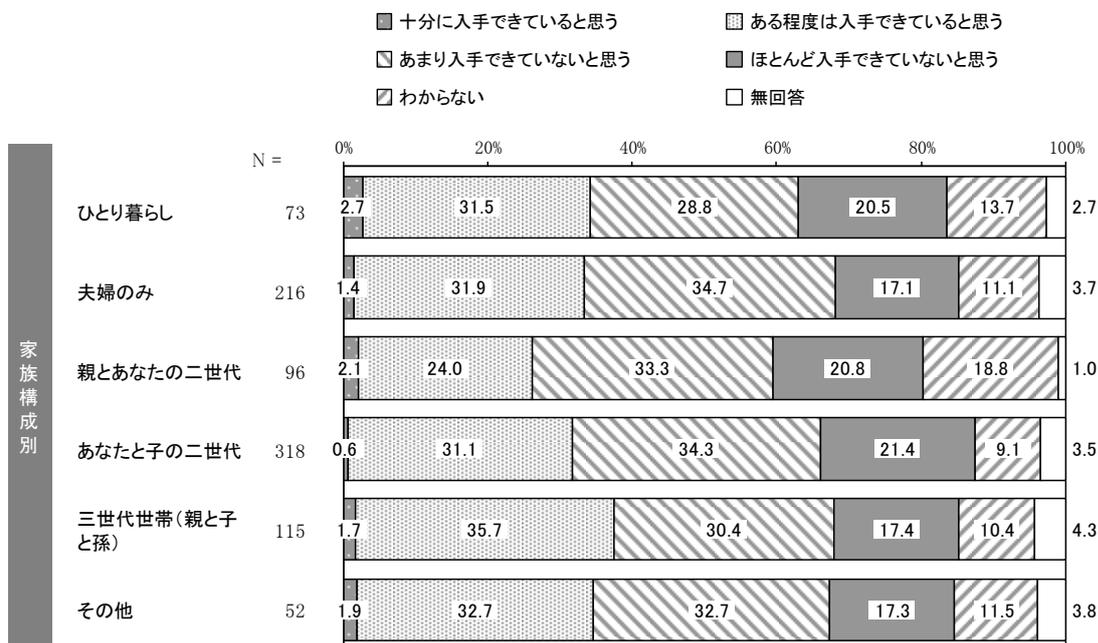
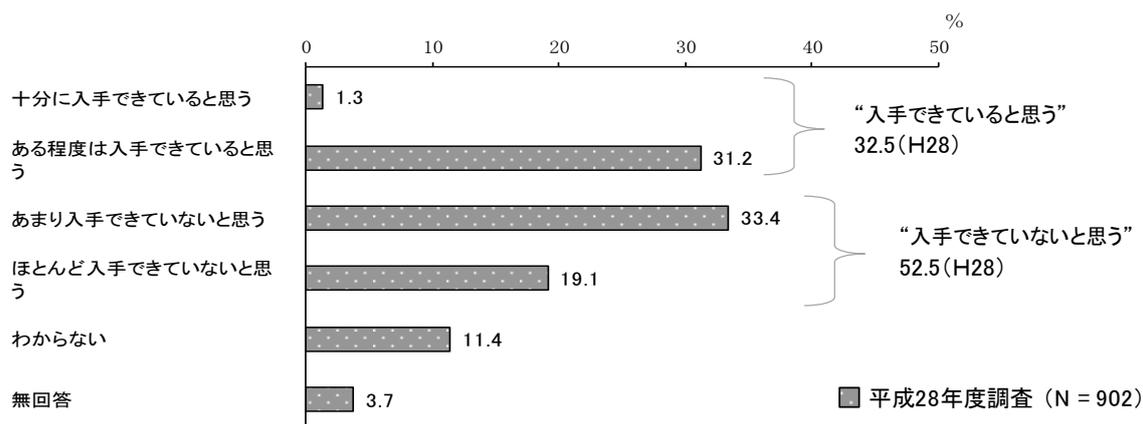
全体では、「十分に入手できていると思う」と「ある程度は入手できていると思う」をあわせた“入手できていると思う”の割合が32.5%、「あまり入手できていないと思う」と「ほとんど入手できていないと思う」をあわせた“入手できていないと思う”の割合が52.5%となっています。今後の指標として“入手できていないと思う”の割合を減らしていくための施策を講じていく必要があります。

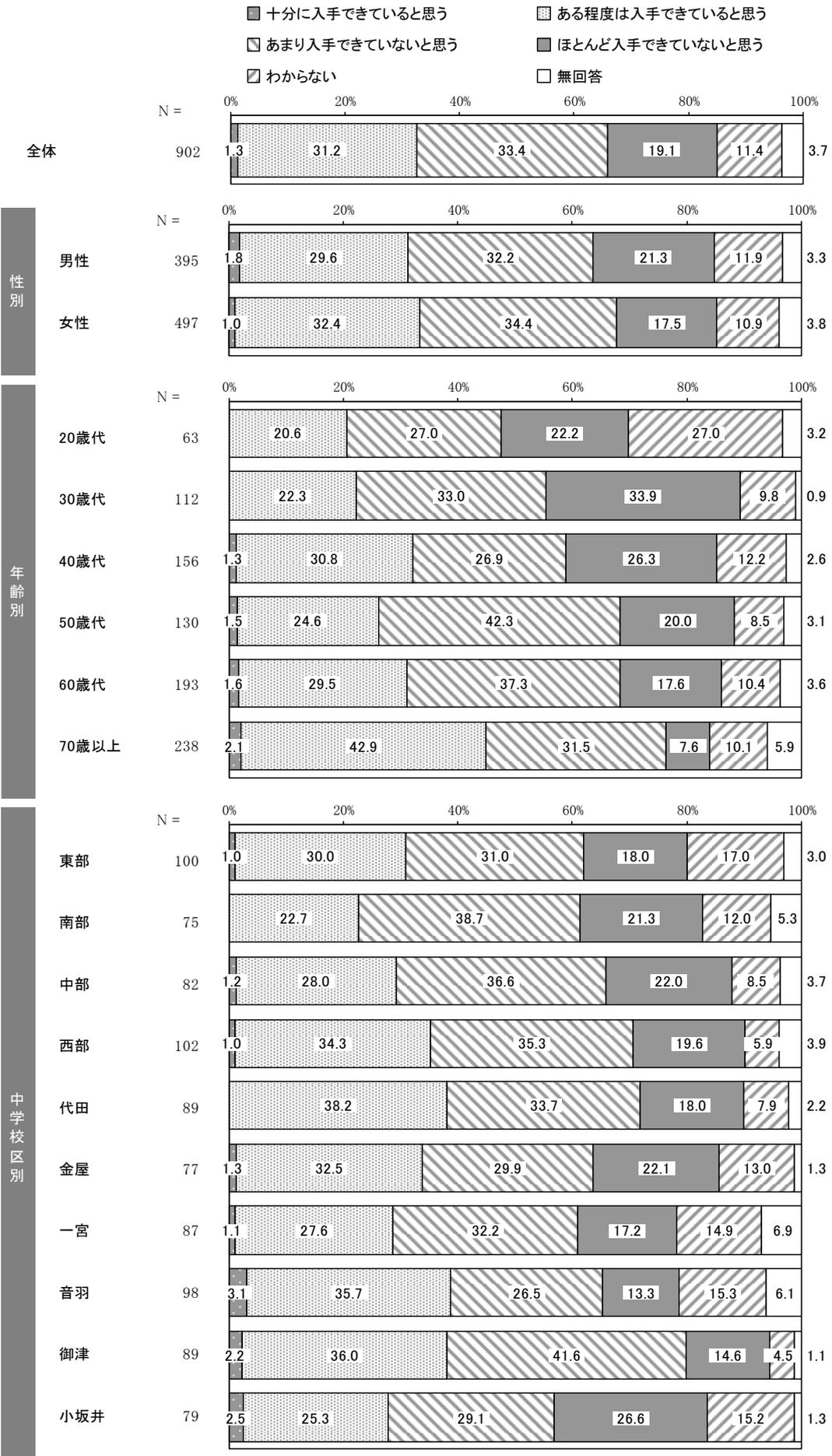
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、30歳代、50歳代で“入手できていないと思う”、70歳以上で“入手できていると思う”の割合が高くなっています。

中学校区別では、音羽中学校区、御津中学校区、代田中学校区で“入手できていると思う”の割合が高くなっています。また、南部中学校区、中部中学校区で“入手できていないと思う”の割合が高くなっています。

家族構成別では、親とあなたの二世代で“入手できていると思う”の割合が低くなっています。





6 これからの地域福祉について

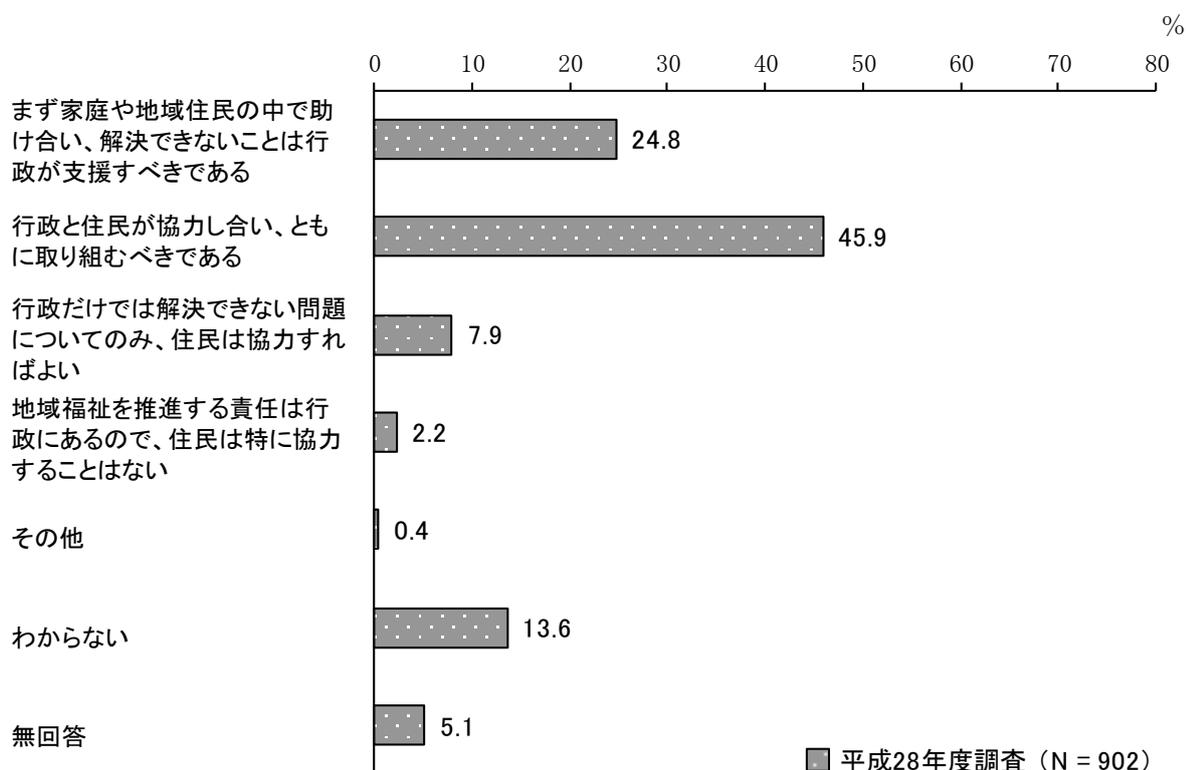
問 25 行政と地域住民の関係について

全体では、「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が45.9%と最も高く、次いで「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」の割合が24.8%となっており、7割超の方が自助・共助の意識を持っていることがうかがえます。行政と住民がともに協力し合い、ともに取り組むために、今後双方がどのような形で協力ができるのか、明確にしていく必要があります。

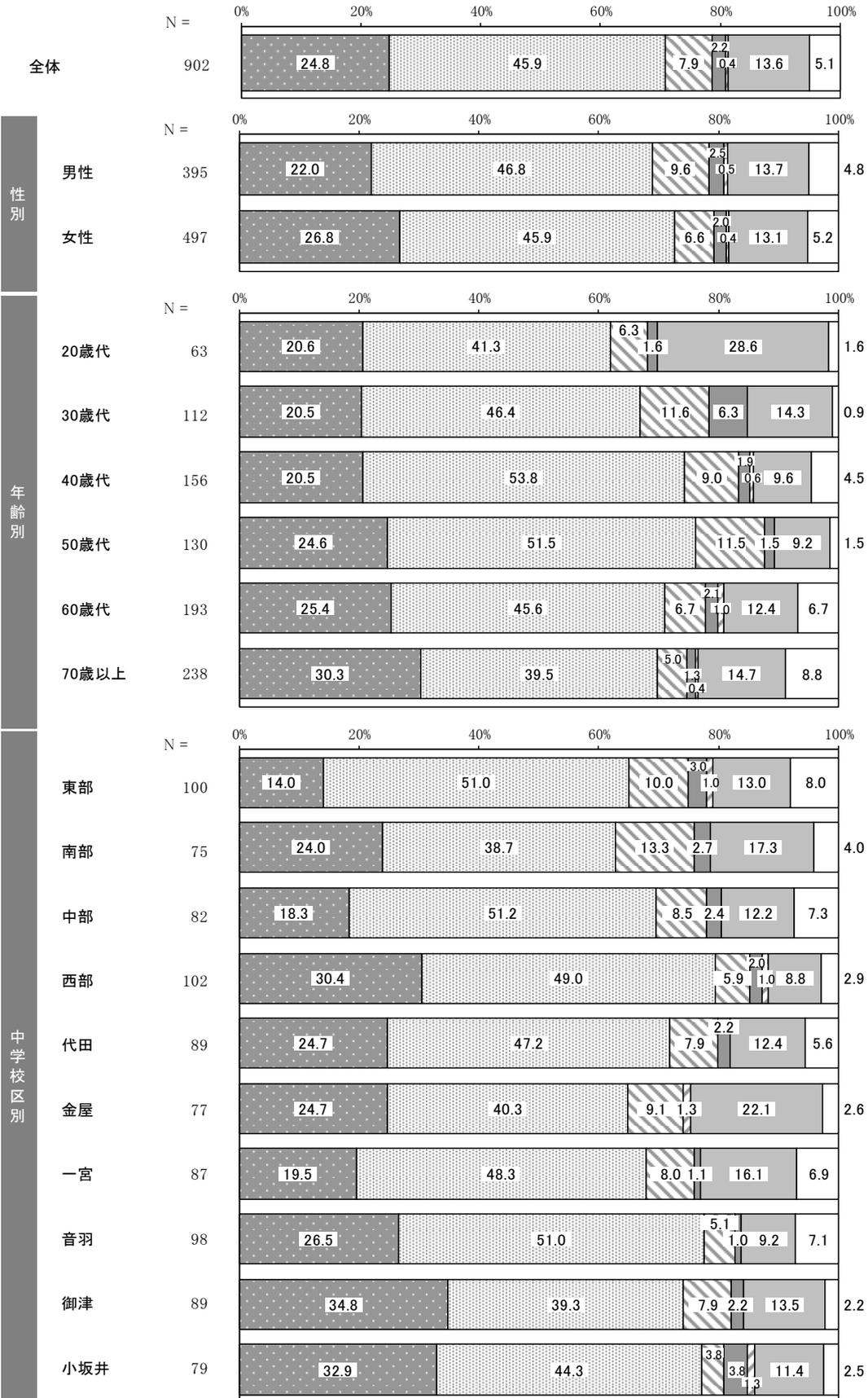
性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、40歳代、50歳代で「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」の割合が高くなっています。

中学校区別では、西部中学校区、音羽中学校区、小坂井中学校区で「行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである」と「まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである」の割合が高くなっており、自助・共助の意識が高いことがうかがえます。



- まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである
- ▨ 行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである
- ▧ 行政だけでは解決できない問題についてのみ、住民は協力すればよい
- 地域福祉を推進する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
- その他
- わからない
- 無回答



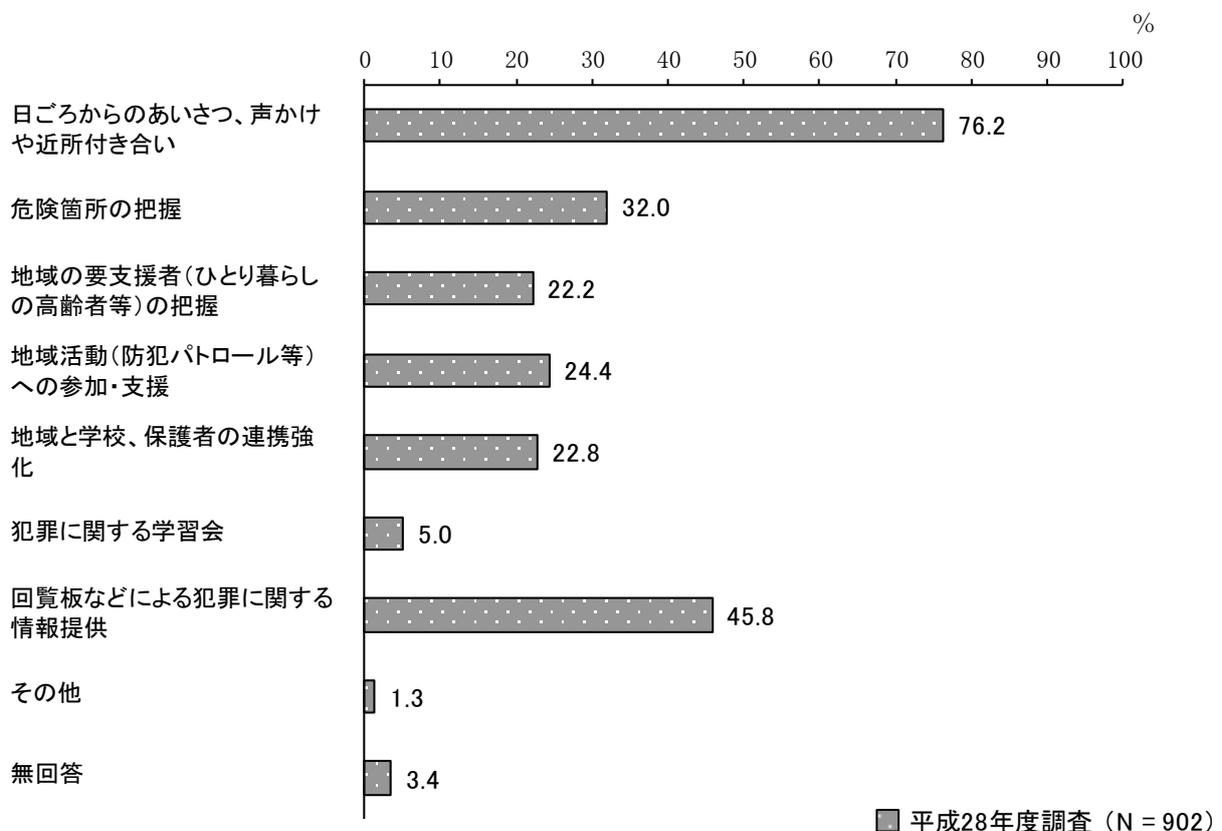
問 26 地域における防犯に関する取り組み（複数回答）

全体では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」の割合が76.2%と最も高く、次いで「回覧板などによる犯罪に関する情報提供」が45.8%、「危険箇所の把握」が32.0%となっています。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」「回覧板などによる犯罪に関する情報提供」の他に、30歳代、40歳代で「地域と学校、保護者の連携強化」の割合が高くなっています。

中学校区別では、西部中学校区、小坂井中学校区で「地域活動（防犯パトロール等）への参加・支援」の割合が、他の中学校区と比べて高くなっています。



単位：%

区分		有効回答数 (件)	日ごろからのあいさつ、 声かけや近所付き合い	危険箇所の把握	地域の要支援者（ひとり暮らしの 高齢者等）の把握	地域活動（防犯パトロール等）への 参加・支援	地域と学校、保護者の連携強化	犯罪に関する学習会	回覧板などによる犯罪に関する 情報提供	その他	無回答
全体		902	76.2	32.0	22.2	24.4	22.8	5.0	45.8	1.3	3.4
性別	男性	395	75.4	29.9	21.0	27.3	21.3	5.6	44.1	1.8	3.5
	女性	497	77.1	33.6	22.7	22.3	24.5	4.6	46.9	1.0	3.2
年齢別	20歳代	63	77.8	38.1	22.2	27.0	23.8	4.8	42.9	—	1.6
	30歳代	112	70.5	39.3	14.3	31.3	39.3	5.4	33.0	1.8	1.8
	40歳代	156	75.0	34.6	17.3	28.2	36.5	4.5	38.5	2.6	1.3
	50歳代	130	76.9	35.4	26.9	16.9	22.3	4.6	50.8	—	2.3
	60歳代	193	78.8	29.0	20.2	23.3	20.2	5.2	52.8	1.0	4.1
	70歳以上	238	77.7	25.6	27.7	23.5	8.8	5.0	48.7	1.7	5.5
中学校区別	東部	100	73.0	32.0	23.0	22.0	31.0	5.0	45.0	2.0	3.0
	南部	75	77.3	41.3	16.0	22.7	18.7	2.7	41.3	1.3	4.0
	中部	82	79.3	28.0	28.0	25.6	28.0	8.5	36.6	1.2	3.7
	西部	102	78.4	33.3	19.6	38.2	22.5	5.9	46.1	1.0	2.9
	代田	89	75.3	22.5	19.1	25.8	31.5	7.9	51.7	1.1	3.4
	金屋	77	74.0	42.9	16.9	16.9	27.3	7.8	45.5	—	2.6
	一宮	87	72.4	25.3	25.3	19.5	23.0	4.6	42.5	—	5.7
	音羽	98	75.5	31.6	26.5	25.5	22.4	4.1	45.9	1.0	5.1
	御津	89	80.9	34.8	28.1	15.7	15.7	1.1	46.1	—	1.1
	小坂井	79	79.7	32.9	15.2	31.6	10.1	2.5	55.7	5.1	1.3

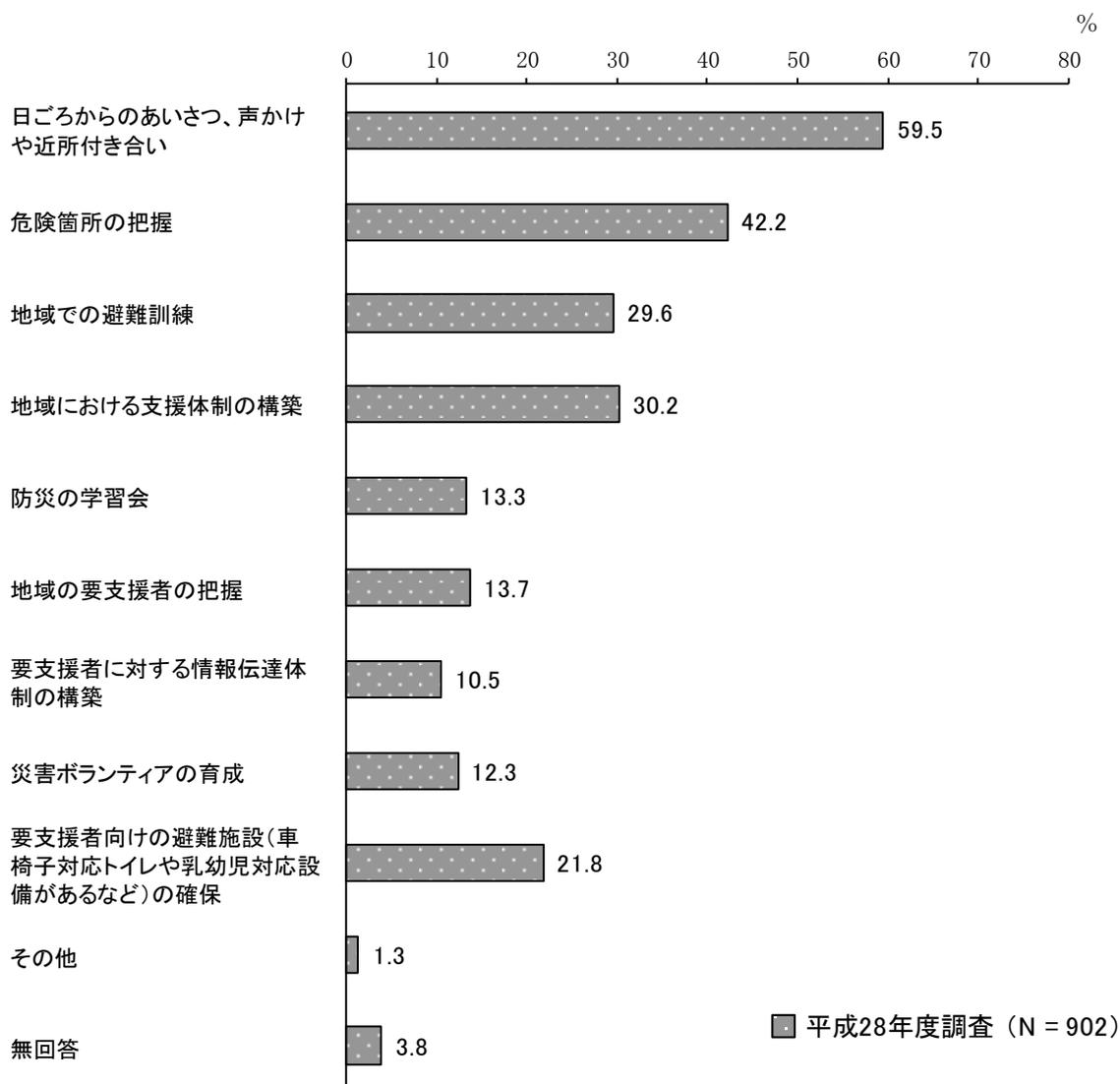
問 27 地域における災害時の備え（複数回答）

全体では、「日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「危険箇所の把握」が 42.2%、「地域における支援体制の構築」が 30.2%となっています。災害時の備えとして、地域住民の中で助け合うためのきっかけづくりとして、あいさつや声かけなど何気ない近所付き合いが求められていることがうかがえます。

性別では、大きな差異はみられません。

年齢別では、20 歳代で「地域の要支援者の把握」、30 歳代で「防災の学習会」の割合が高くなっています。

中学校区別では、大きな差異はみられません。



単位：%

区分		有効回答数(件)	日ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い	危険箇所の把握	地域での避難訓練	地域における支援体制の構築	防災の学習会	地域の要支援者の把握	要支援者に対する情報伝達体制の構築	災害ボランティアの育成	要支援者向けの避難施設(車椅子対応トイレや乳幼児対応設備があるなど)の確保	その他	無回答
全体		902	59.5	42.2	29.6	30.2	13.3	13.7	10.5	12.3	21.8	1.3	3.8
性別	男性	395	58.2	41.8	30.4	31.6	15.9	12.4	11.6	12.9	19.0	1.3	3.8
	女性	497	60.8	42.7	29.4	29.2	11.3	14.9	9.3	11.9	23.9	1.2	3.6
年齢別	20歳代	63	50.8	52.4	33.3	22.2	11.1	23.8	7.9	12.7	25.4	—	1.6
	30歳代	112	45.5	54.5	35.7	28.6	21.4	10.7	7.1	17.0	25.9	0.9	0.9
	40歳代	156	62.8	42.9	28.2	31.4	12.8	11.5	8.3	14.7	23.7	1.9	2.6
	50歳代	130	60.0	41.5	31.5	34.6	11.5	13.1	10.0	10.8	26.2	—	1.5
	60歳代	193	57.5	35.8	25.4	35.2	15.0	14.0	12.4	13.0	23.3	1.0	4.1
	70歳以上	238	68.5	39.1	29.8	26.5	9.7	14.3	11.8	8.8	14.3	2.5	6.7
中学校区別	東部	100	65.0	43.0	32.0	28.0	11.0	16.0	13.0	16.0	17.0	—	3.0
	南部	75	57.3	36.0	34.7	24.0	21.3	21.3	13.3	10.7	21.3	1.3	5.3
	中部	82	57.3	35.4	32.9	24.4	19.5	8.5	9.8	11.0	29.3	1.2	3.7
	西部	102	57.8	44.1	34.3	27.5	14.7	14.7	9.8	11.8	22.5	1.0	2.9
	代田	89	61.8	38.2	31.5	33.7	12.4	15.7	10.1	13.5	16.9	2.2	3.4
	金屋	77	61.0	46.8	16.9	26.0	11.7	13.0	10.4	10.4	29.9	2.6	2.6
	一宮	87	54.0	41.4	28.7	34.5	13.8	12.6	11.5	6.9	18.4	1.1	4.6
	音羽	98	58.2	43.9	25.5	36.7	10.2	15.3	7.1	10.2	21.4	—	7.1
	御津	89	65.2	50.6	27.0	32.6	12.4	9.0	7.9	14.6	18.0	—	1.1
	小坂井	79	60.8	45.6	31.6	36.7	6.3	12.7	11.4	19.0	21.5	3.8	1.3

Ⅲ 自由意見

地域での支え合い、福祉のまちづくりに関して思うこと、これから「こうしたらいい」、「こうあったらいい」と思うことについての自由意見です。

多岐にわたるご意見をいただきました。特に、「地域交流・地域活動」や「交通・交通マナー」、「情報提供」に関わる意見が多くありました。

なお、原則、回答をそのまま掲載していますが、個人等が特定されるものや長文に関しては要旨のみの内容に編集しています。

(1) 福祉観

- ・様々な地域福祉のサポートを考えてくださり、ありがたく思います。校区会長の仕事を受けた時に感じた事は、子育てに忙しい時期は親も子どもも毎日の生活が忙しく、“地域の事に目を向ける時間は無い”という思いの人が増えてきているという事でした。また、年齢の上の方も、地域の事に興味が有る方とそうでない方との温度差があり、“みんなで声を掛け合って一つの事をやるのは、本当に難しい”と思いました。今は、家庭それぞれにいろいろな問題が有り、本来なら温かく隣の方と声を掛け理解し合う間柄だといいいのですが。まず家族、大人が、福祉、地域での支え合いについて関心を持つ様になると良いですね。お年寄り、障害者、ひきこもり等、各家庭に様々な事情がありそうです。なかなかデリケートな事柄なので、丁寧にケアしながら地域での支え合い、町づくりをしていけるといいです。やはり、挨拶の出来る子を育てる事も大切だと思う(大人も)。そこから隣の方とのつながりが持てる様になると思い、我が子には、挨拶については言っています。いろいろと考える(ふり返る)きっかけとなりました。ありがとうございました。(桜木地区・女性・50歳代)
- ・高齢者や障害者が、特別な存在ではなく、皆さんが色々な人がいてあたりまえというまちづくりができる事が理想です。(八南地区・女性・50歳代)
- ・地域での支え合いは、地域内ですすめなくてはならないので外にいる行政には、必要な助言、指導、支援をしてもらうことになるのだと思います。ただ、支え合いというからには高齢者が一方向に助けてほしい、あれこれやってほしい、ということではないので、若い世代ができること、高齢の世代ができることを双方が確認し、皆、自分に何ができるかということがスタートのように思います。そのためには、お互いが責任を持って任せられる信頼ができており、日頃の関係から生まれるものなので、接点がない日常から変えないといけないのではと思います。
(御油地区・男性・40歳代)
- ・定年をむかえて、世の中に興味のある方、自分に興味のある方は積極的に講演会やジムなどに進んで参加されます。しかし積極性のない方や何にも興味のない方はお誘いしても「俺はいい」「僕もいい」「女の人ばかりだから」とか、何かと理由をつけて家から出ようとしない。(男の方が多いように思われる。)このような方の対処法はあるのか。もっと魅力のある地域、町づくりが必要に思える。
(御油地区・女性・60歳代)
- ・昔のような個々の優しさが失われていく中で、お互い様という思いを取り戻せるような地域づくりが必要である。面倒な人間関係が地域での支え合いなのですが、それができなくなっている。何かあるとすぐ行政の福祉に頼ればいいのか、地域が地域の役割を果たしていない。地域で、役好きな人でない人格者を掘り起こし、リーダーとして地域を引っばって下さると少しでもあたたかな地域が生まれると思う。この町に住みたいと他の市町村から移り住んでくるような町づくりをしていただきたい。(三蔵子地区・男性・60歳代)

- ・まずは、1人1人が、自分のことについてしっかり考えること。そして、出来ることは、少しでも、出来ることをすること。(一宮西部地区・女性・50歳代)
- ・みんな仕事を持っており、大人が家にいなく、子供や老人が困る。働いていても、子供や老人が安心して暮らすことができる、いろいろな仕組みを作ってほしい。(長沢地区・女性・50歳代)
- ・将来的な事を考えると、幼少期からの福祉の大切さを教え考えさせるべき。保育園、幼稚園から小学校まで福祉の大切さ、あり方を教え、中学校では互いに支え合う事の重要性を認識し、実践できる人間にまで育てると良いと思う。大人になってからではなく、教育の中に取り入れるべき。(赤坂地区・女性・40歳代)
- ・支え合いについて、かなりむずかしい。支えを求めている方が見てすぐわかれば皆できると思うが言われなにかぎり助けることが出来ないのが現状。しかし、どうすれば改善されるかは今後の課題になるのだが私が出来ることを考えると、「困っている人がいる、本人から助けを求められる、助ける」が私の出来ることです。この求める行為が目に見えれば支え合いが出来るのではないかと思います。
福祉については、今後進めるべきことですが高齢者が増え利用が増えれば財源が心配になります。充実することは、すごくいいが若い世代に税金という名の財源の為に働いているような気分になりかねないので高齢者の方々も、施設等の利用が無料とかではなく例えば医療のような2割、3割負担等を考えていければと思う。もうすでに実行済みなら申し訳ないです。(地区不明・男性・30歳代)

(2) 近所付き合い

- ・小学生の下校時に交差点で見守っていてくれる方達がいてくれることに、日々感謝しています。しかし、家から少し離れた所には、人は全くおらず、少しこわさを感じています。この状況から、日頃近所づき合いをしておけば、見守る人、見守る目を増やしていけるのではないかと思います。(桜木地区・女性・40歳代)
- ・地域に関心をもたない方が多くなり、声をかけづらい様子になってきています。何か、事件等があると、他人とはあいさつをしてはいけないとか、個人情報とかが知られる事に敏感になり、他人とは関わらない生活が増えているようです。そんな中で地域での支え合いは、本当に大変な事だと思います。(豊地区・女性・60歳代)
- ・高齢化が進む中、近所との付き合いが少なく、あいさつをする程度で、顔さえ会わない人もいるのが現状です。お互いのプライバシーの問題から、話も中々出来ず、地域に長く住んでいても寂しい限りです。
福祉で一番大切な事は日ごろからのあいさつや声かけ等をして近所付き合いを良くすることに尽きると思います。それが災害時の助け合いにも通じるし、住み良い町づくりにもなると思いますが、現実には中々難しい問題です。
(平尾地区・女性・70歳以上)
- ・子育て、介護、仕事、全部がのしかかってきていて不安がいっぱいだけれど、安心して、老後をすごせる街だといいなと思います。
最近、母が散歩したら、誰とも顔をあわせず寂しいねと言っていました。以前は、あちこちで、話しかけられる人がいたのに。寂しくない老後でありたいですね。
(国府地区・女性・50歳代)
- ・私の住んでいる所は、古くからいる人たちでかたまっただよに見えるので、私は出会った時にはあいさつぐらいはしています。(代田地区・女性・70歳以上)
- ・今はつき合いがないので、ラジオ体操をやる様にしてほしい。三蔵子の公会堂で1日1回健康のためによいから。(三蔵子地区・男性・70歳以上)
- ・現在身近な町内に新しく転入して来た家族が3ヶ月で6家族有り、特に挨拶がある訳でもない。(一宮西部地区・男性・60歳代)
- ・近所付き合いが減っており個人主義の傾向が強まっています。プライバシーを守りながら人として解放する心の動きが必要です。
支え合い、協力することで住みやすい街になることを訴え続けたいと思いません。(赤坂地区・男性・50歳代)
- ・まず、地域の人達の顔をよく知ることが必要と思う。そして、気軽に声かけ等をして顔見知りになることが大事と思う。これを基本として、災害、変事等を想定しての訓練や話し合いをしたらどうだろうか。(赤坂地区・男性・70歳以上)

- ・数ヶ月前のある日、我が家のフェンスが車に当て逃げされました。その日私達はその事を知らずにいたのですが、ご近所の方がその一部始終を見ていて私達に知らせてくれました。フェンスの修理は主人と私それにご近所さんが手伝って下さり、目立たない程度に直りましたのでことさら事件を荒立てずに済み、不幸中の幸いでした。それにつけてもご近所の人達に支えていただけてうれしかったです。
(御津南部地区・女性・70歳以上)
- ・常日頃のご近所とのコミュニケーションが大事。特に集合住宅の人との付き合い方
(民間のアパート、マンションも含む)。(御津北部地区・男性・70歳以上)
- ・5年前からこちらに移住したが、市内全体の動向を把握する機会が少ないと何度も感じました。ご近所同士の付き合いもほとんどなく交流する機会が全然ないので5年経った今でも孤独感がけっこうあります。(小坂井西地区・女性・30歳代)
- ・今は夫婦で住んでいるが、これから1人になった時、台風などの時の雨戸をしめたり開けたり女ではなかなか。こんな時に手伝ってくれる人があるといいなと思う。私は民生委員のような役はしていませんが、近所でつれあいを亡くし落ちこんでいて心配な方があり、よく声かけに行き今は元気になりました。こんな時の助けあいが大切だと思います。今も喜んでくれて元気です。(小坂井西地区・女性・70歳以上)

(3) 町内会

- ・町内会に加入しない、脱退する人が増えている中で、地域での支え合いを組長の仕事に組み込むのは限界だと思う。
ボランティアを希望する人が、組織として地域行事・福祉サービスを行政と共に行い、町内会はその補佐程度の扱いにしないと今後さらに脱退する人が増えると思う。
町内会にて、1戸建ての家庭だけ組長をやって、アパートの人間は何もせず、町内会費だけ払っていることが不満。アパートへの配布物も量が多いし、差別的扱いではないのか。アパートの人間も町内会に入っているのだから入居何年以上は組長担当とかにしてきちんと平等にしてほしい。
若い世代は特にアパート派なので、町内会の若手不足が深刻ならば必要なことだと強く感じている。この件は早急に何とかしてほしい。
(豊川地区・女性・30歳代)
- ・町内会も先祖代々この地域に住んでいる住民もあれば、新たに引っ越してきた転入者もあり、新しい人たちは上手く馴染めないというのが実態だと思います。
豊川市に新たに転入してきた住民には、町内会について、豊川市が行っている支援制度(子供、高齢者)について、きちんと説明会を開いたら良いと思います。若い夫婦、老年の夫婦など求めているものは違うと思います。(豊川地区・男性・50歳代)
- ・新規町内移住者の町内会加入者が少ないのでゴミ等のルールが守られない。町内会加入者がいないと地域での支え合い、福祉のまちづくりも出来ないと思います。
(中部地区・男性・70歳以上)
- ・区費の削減。町内活動への参加。(牛久保地区・男性・50歳代)
- ・自分勝手なボスをつくらないこと。(牛久保地区・女性・70歳以上)
- ・町内会で出来る事等を考える時、町内会に加入されていない家庭が増加している様に思います。地域での支え合いが厳しいのではないのでしょうか。心と体とお金は切っても切られない関係にあると思います。税金から町内会費も一律に徴収できる様になれば、町内会ごとに金額が違い、加入も知らず、知らされなかったという事が無くなるのではと思います。(八南地区・女性・50歳代)
- ・住みやすい地域の定義が不明。町内会の必要性が見えない。(平尾地区・男性・40歳代)
- ・地域に代々住んでいる方々は町内会に加入して、活動、助け合いができていますが、新規に住宅を建て住んでくる方々は町内会に入会しなかったり、回覧板の必要性の認識が低く困っている。(国府地区・女性・60歳代)
- ・この地域に住んで、25年以上経ちますが、近所づきあいは近所の人のみです。組長、役員とやったことはありますが、町内活動はその時だけです。
何かを求められ、必要とされれば、やることもあると思います。心の中で、困っている人がいたら、助けてあげたいと思いますが、それが義務や強制となると長続きはしないと思います。(代田地区・女性・60歳代)

- ・個々の力は微力ですので、町内連携により行政体制を強化したらと思います。
(代田地区・女性・60歳代)
- ・私の住んでいる地域では、地域の活動や交流が少ないです。組長をする時には20軒程まわり、少しお話をする機会がありますが、それ以外は、全くと言っていい程関わりがなく、災害時など、助け合いをしたいと思っても、地区の防災対策等どのようになっているのかも分かりません。組長のみでの会合だけでなく、各家庭が集まる又は訪問等の機会があっても良いのでは。と思います。(桜町地区・女性・40歳代)
- ・町内会に入っていないからか、地域とのつきあいがほとんどありません。子供も近所や町内に同じ歳位の子供たちがいるが、遊ぶこともありません。つき合いができるようなきっかけなどをつくってくれるような手助けがあるといいと思う。
(金屋地区・男性・40歳代)
- ・町内会は形式化しているように思われます。町内の問題を気楽に提起したり、話し合ったりして、一つ一つ解決できる組織にすることが大切だと思います。
(金屋地区・男性・70歳以上)
- ・町内会の委員を選出によって決める現在のやり方が、一部の家庭に集中して、負担が過大になっている。市の方で個人と折衝して選ぶ様にしてほしい。
(三蔵子地区・男性・70歳以上)
- ・町内会が巨大化し、会費負担が重い割に「地域での支え合い」の点、実行力に乏しい。早急に分割すべき。(一宮西部地区・女性・60歳代)
- ・もし、子供がいなかったら町内会にも参加していないと思います。町内会や地域活動の集まりが多いし、寄付金を集めたりするので、共働きの家族にとっては、時間をつくるのも大変だし、参加は難しいと思います。(小坂井東地区・女性・30歳代)
- ・町内会で取り組む必要有り。そのためにも町内会の役員の福祉に対する理解が大変重要である。民生・児童委員、福祉会、老人クラブ等の豊川市として、連携が必要である。(小坂井西地区・女性・60歳代)
- ・若い人に町内(地域)での役員を買って出てほしい。この為、職場での理解と道徳心の教育をするとよい。
(小坂井西地区・女性・60歳代)

(4) 地域交流・地域活動

- ・今現在、生活にゆとりがある訳ではないため「人助け」までできていない気がします。町内会などで行事のようにできたら良いと思います。(東部地区・男性・40歳代)
- ・町内組織の中で組があります。その組の中で、ペアを組んで活動する、勉強ができる様になれば、心強いのではないかと思います。近くに1人(1軒)頼りになる人(家)がいることで、安心できると思うし、その小さな和が大きくなれば、町内全体も安全になって支え合いができていくのではないかと思います。(東部地区・女性・50歳代)
- ・町内でのお付き合いは、仕事などもある中で負担もあり、なかなか積極的に参加できず、苦しい状況です。地域として福祉のまちづくりを推進していくことは重要だと思いますが、自分に今できることを考えると安易に答えられない所があります。(豊地区・女性・40歳代)
- ・ひとり暮らしの人が食事をするのはさみしいと思う。各町内に寄り合い所の様なものが欲しい。サロンは月に1回だから、ここへ行けば誰かがいて、話ができて、食事もできれば、なおよい。
ボランティアの人たちだけでなく、安い賃金でよいからモーニング、ランチなどつくってお店の様にして寄り合いたいと思います。(中部地区・女性・60歳代)
- ・地域活動に強制ではなく、参加できるのが理想だと思います。市の地域にかかわる担当者が、各地域の末端まで顔を出し、活動に対して褒めることが市民のやる気につながることもあろうかと思います。市と住民がもっと密接の方がよいと思います。(御油地区・男性・40歳代)
- ・近所、地域の人が気楽に話し合える、活動できる様な交流の場所が家の近くに多くあったら良いと思う。地域福祉活動を活発にさせるためには、近所、地域の人同士の日常の付き合い、コミュニケーションができていく風土づくりが第一優先と考える。先ずは、町内会合への出席、呼びかけを積極的に行うことから始めるべきかと考える。(御油地区・男性・60歳代)
- ・気楽にお手伝いができたらいいなと思うけれど、一度顔を出すと次からはあたりまえの様にやってもらえるものだという前提でメンバーに入れられてしまうと、家庭の事情でできない時が多かったりすると、最初から顔を出したり、手伝わなければ良かったと後悔してしまいます。(国府地区・女性・50歳代)
- ・地域の行事にもっと参加して行きたいです。他の人達もそう思っているといいなと思います。(三蔵子地区・女性・40歳代)
- ・若い時は社会全体の枠組みや、ルールを理解し、把握することは無理だと思うが、ある程度の年に達すると地区の子供会、PTA、お寺、お宮の役、区や町の役、体育委員等、自分個人の勝手な考えでは世の中はまるく治まらないことを相互援助等必然的

に理解するようになってくると思う。自分がこの世に生きている（生かされている）という意義を考えた時初めて、世のために何か貢献すべきだと考えるようになると思う。（一宮東部地区・男性・70歳以上）

- ・地域活動（消防、祭り、コミュニティ等）に参加している息子を見ていて独身ですが、身近な人の協力無しでは成しえない事と感じています。参加する若者が少ない中、育成も含め地域の理解と協力が必要と感じています。老人社会になって行くこの先、医療、介護福祉に係る共働きの親に対し早朝夜勤変則勤務等（8～17時以外）に対して保育就学等の理解など。又、祖父母等の支援協力の必要を大きく感じています。誰かが見守る事（子育て、介護、育児等）の社会が一番薄れている事と感じます。全てが数値やデータだけで判断される事だけでは無く、例外的判断が必要な事項がたくさんあると思います。（一宮西部地区・女性・60歳代）
- ・地域活動の回覧での案内、募集があってもなかなか最初の一步がふみ出しにくい。既参加者からの声なども載せてもらえると判りやすいと思います。ある地域で高齢者のサロン、つどいの場があると聞いた事がある。高齢者だけでなく、誰でも参加できる（スポーツでなくても）近所のつどいの場（喫茶、簡単なゲームなど）が定期的にあってもいいのかなと思います。親子クッキングに参加してみようかと思ったら、既に人数が集まっていて参加できませんでした。人気の活動の機会をもっと増やしてもらえたらと思います。（一宮西部地区・女性・40歳代）
- ・家にとじこもらないで、自由に集まり団らんができる場ができたらいと思う。公民館等を活かすことがいいかな。児童館等もいいが高齢者が近くでコミュニケーションがとれるとよいと思うが。（赤坂地区・女性・60歳代）
- ・昔は地域での交流会（寄り合い）が定期的にあったが今は少なくなった。寂しく感じる。地域の話し合いの場を企画するチャンスもない。（御津北部地区・男性・60歳代）
- ・最近、行われている資源回収（中学生による）は、人と人との関わりができるので、子どもたちにも、地域の人にも良いことだと感じています。大変な活動だと思いますが、今後行ってほしいです。（御津北部地区・女性・20歳代）
- ・同年代の人、異年代の人、また両年代の交流で目的を持ってお互いの経験を生かし、教えたり教えていただいたり、気軽に参加出来る楽しい場があったらいいですね。（御津南部地区・女性・60歳代）
- ・町内会の役員は1人の人が長期にやらず多くの人にやってもらおう。わからないことはOBの人が手助けする。これにより地域活動が活発になるのでは。（小坂井東地区・男性・70歳以上）
- ・先ず、普段から、年齢層に応じた、気楽に交流できる組織、グループを作ることが大切ではないでしょうか。（小坂井東地区・女性・50歳代）

- ・最近、ご近所さんとトラブルがあつたりするので、あまりかかわりたくないというのが現状だと思います。私達家族も子供がいるので仕方なく地域活動に参加しています。
(小坂井東地区・女性・30歳代)
- ・生活面で補助がもっと増え、生活にゆとりが出来ると交流や地域活動へ参加される方が増加し町がもっと良くなっていくのではと感じます。
(小坂井西地区・男性・30歳代)
- ・地域で支え合って人生を明るく過ごしたいと思います。(地区不明・女性・70歳以上)
- ・豊川稲荷というシンボルがありながら、そのアピールが不十分で人々が集まる、楽しむという地域の仲間意識の強化や町おこしがうまくできていないように思う。アート、ギャラリー、ワークショップなど、体験型、フォトジェニックな風情を活かしたかたちで提案できるとよい。(地区不明・女性・30歳代)
- ・地域の行事を増やしてほしい。町内の催しをたくさんやってほしいです。
(地区不明・女性・40歳代)

(5) ボランティア

- ・私の娘は軽い障害があり、幼い頃から福祉サービスを利用し、今は元気に地域の小学校の支援級に通っています。今までたくさんの人に支えてもらい、福祉サービスという名の税金も娘のためにたくさん使わせていただいたので、落ち着いた今、何か恩返しができたらなあと思っていますが、この地域で何ができるのか。それ以前に、この地域で支援を必要としている方がいるのか。それらを把握する方法が分からず、行動をおこせずにいます。仕事をしているのでボランティアだけに時間を費やす訳にはいきませんが、1日のうち空いた時間で自分にできること（高齢者の方の声かけやお子さんの保育園の送迎など）とニーズがあれば、ぜひやりたいなと思っています。私みたいに、ちょっとあいた時間でできることを探している方が他にもいらっしゃるのではないかなと思います。町内会や子ども会などの組織をうまく使って、今よりも住みやすい地域になるといいと思います。（牛久保地区・女性・40歳代）
- ・現在地域でボランティア活動して20年余、60代後半です。このグループに若い方は入って来ません。若い方のグループを育成するのが急務です。私達は婦人会から始まり婦人会がなくなりボランティアグループへと移行していきました。いつもワイワイガヤガヤ交流の場として自分達も楽しんでます。内容として市民館まつりのダンゴ売り、寺の祭りで歌の奉納、学校への家庭科のお手伝い、読みきかせ、子供教室、もちつき、敬老会、ゆうあいの里まつり、老人ホームの夏祭りなど。若い方にもまずは遊びから参加して地域活動として何か見つけて欲しいです。
（平尾地区・女性・60歳代）
- ・地域のボランティアは重要であると考えていますが、中途からは参加しにくいので、市（行政）のボランティア講習などを受けて、自分の地区で貢献できるシステムもあると良いと思います。地域活動の参加は勇気がいりますが、困っている方がいるのであれば助けたいと思います。（国府地区・女性・50歳代）
- ・地域での支え合いについてですが、若い世代などは、仕事と育児や子育て、家事などで忙しいです。近所の助け合いも必要かもしれませんが、買い物や、よその子の保育園の送迎などは防犯上あまり良いとは思えません。事故でも起こしたときにより大きい問題になりそうだと思います。したがって、専門のボランティアでも作れば良いと思います。今は昔ほど平和ではないので。（桜町地区・女性・30歳代）
- ・機会があればボランティアのようなこともやってみたいと思うこともありますが、どういったボランティアがあるのかもわかりません。（代田地区・女性・60歳代）

- ・例えば高齢者や子供、障害者など、困っている人がいたとして、自分から私は困っていると外へ発信できない人も多いと思うので、その人達を把握でき、接する機会が多くあるといいと思う。市役所や社協の人が、一般人から身近な存在ではないので、もう少し親しみやすく気軽に相談など出来れば良い。福祉の充実は、もちろん必要だが、全て行政にまかせてしまうと税金がかかるため、地域でやれることはそれぞれが行い、ボランティア活動などで、補うことができたらいと思う。

(一宮西部地区・男性・50歳代)
- ・障害のある方への偏見の眼差しが少なくなるよう、交流の機会や、学習会などがあると良いと思います。小学生が登下校の時に、見守りボランティアの方(主に高齢の方々)と一緒に歩いているのを見ると安心します。子どもたちの安全だけでなく、ご高齢のボランティアの方と会話ができることは、双方にとって良いことだと思います。

(一宮南部地区・女性・20歳代)
- ・町の人なら誰でも立ち寄れる、オープンスペース。ボランティアさんがいて、色々な情報を得ることができる。 (赤坂地区・女性・50歳代)
- ・私は中学生の頃、ボランティア委員に入っていました。老人ホームや保育園、デイサービスなど、いろいろな所に行って様々な体験をしました。その中で、やはりボランティアでも全てが笑顔で行えるものではありませんでした。しかし、行って、「ありがとうね」と声をかけられる喜びや、「助かりました」という一言がとても嬉しかったことを覚えています。その経験は今でも、もちろん役に立っており、ボランティアをしていてよかったと思います。なので、委員会とかだけではなく、子供のうちから人との助け合いの大切さや、支え合うことの大切さを学ぶ機会を増やした方が良いのかと思います。(今の学校の教育がどのようになっているのか分かりませんが)

(赤坂地区・女性・20歳代)

(6) 民生委員

- ・ 独居老人にどうやって関わっていいのかわからないので、民生委員さんや福祉関係の人が何をどうやっているのか情報をオープンにして教えてほしい。福祉サービスや活動を、興味のない人の目にも届くぐらいアピールしてほしいと思う。こういうことがあるの知らない人が多いのではないかと思う。(東部地区・女性・40歳代)
- ・ 福祉委員、民生委員の方がとてもよく活動して下さって、とても感謝しています。(中部地区・女性・70歳以上)
- ・ 民生委員の方の役割とは何をなされているのか、今一つわかりません。(代田地区・女性・60歳代)
- ・ 近所はみな勤め人で休みぐらいしか顔を中々あわせませんが、会えば親しく話合いもできます。高齢者なので何かの時にはお世話になっておりますので、これからも仲良くして頂きたいと心掛けて過ごしております。近所の方々は皆良い方です。民生委員にもお世話になると思います。高い望みはありません。(三蔵子地区・女性・70歳以上)
- ・ 週1回民生委員の方、福祉会の方がみえて色々話して下さいます。うれしく思います。(菘地区・女性・70歳以上)

(7) 高齢者ニーズ

- ・高齢者が孤立しない様に地域（町内ごとや近い所）に集まっておしゃべりをしたり、趣味的なものが出来る様な集会所とかサロンのような気軽に出掛けられる場所があれば良いと思う。デイサービスなどの介護を受けていない年寄りには、行く所がないので、結局家でじっとテレビの前に1日いるので運動不足、一日のリズムが作れない。刺激もないので思考も止まるような生活をしている気がするから。
(豊川地区・女性・50歳代)
- ・独居老人の家庭での引きこもり等が認知症への引き金になりそうです。気軽に寄り合って茶飲み話でも出来る場が少ないと思います。特に農村部では、農業をしている方は多忙であるが、無職無趣味の老人の寄る場がない。市民館とかは大げさで寄らない。むずかしい事ですが、対策が出来れば、老人も楽しく生活できると思います。一日中家でテレビを見ているような人が少なくなるとういと思います。
(東部地区・女性・70歳以上)
- ・私も祖父より向こう三軒両隣と親しくお付き合いする様にと教えられた記憶があります。実際は、挨拶程度です。お互いに子供を交えて会話をする事は時々あります。ご高齢で1人暮らしの方が近所に見えますが、毎日散歩をしています。私は挨拶をしたり、子供を交えて会話をしています。私は「デイサービスを利用したら1人さみしく過ごす事はないのでは」と見ていると思いますが、ご家庭の事があるので伝えられません。近所の市民館でのカルチャーに参加されている1人暮らしの方も他にいますので、地域活動に参加する事で周りの方にも知ってもらい支え合えるのかなと思います。有料であると難しい方もいるのかもしれませんが。(豊地区・女性・40歳代)
- ・費用の安い老人ホーム(特別養護老人ホーム)。充実した総合病院(市民病院の外に)。
(中部地区・男性・70歳以上)
- ・一人暮らしの高齢者がおられるが、ご自身が全く周囲の人に接しようとせず、扉を閉ざしている状態。心配はしているが、相手が周囲の声かけに迷惑という感じだ。様子がおかしいと感じた時に、民生委員に連絡してさしあげたことがある。地域での支え合いとなると、おたがいの交流の有無、つきあいの密度などから、難しい面があると痛感している。身内、親族の方々のサポートが先決するのではないかと思う。身体の不自由な人、高齢者が暮らしやすい町づくり、人間関係づくりは大切だと思うので、市での対策・サポートはこれからもお願いしたい。(国府地区・女性・60歳代)
- ・近所には、高齢者のひとり暮らしが多いので、孤独死などがないように、日頃から近所で気にかけて、それでも目が届かない場合は、行政の協力も必要だと思う。(定期的な訪問など)(代田地区・女性・40歳代)
- ・介護予防を図る為には、高齢者向けの健康づくりのサークルを企画し、積極的に広報活動をし、参加者の増加を図る。(桜町地区・男性・60歳代)

- ・父は介護予防のために「健康体操」や「たまり場」など利用している。今後も参加できるようにこうしたプランは続けてほしい。要介護、要支援にならないようにするためにいろいろ考えているようですが、あまり知られてない気がします。

(一宮西部地区・女性・50歳代)

- ・デイサービスだけでなく、高齢者の方が歩いて集まる場所があれば良いと思う。集まった人がテレビを見たりお話をしたり、体操をしたり、何かを作ったりするところ。楽しみにしながら、おでかけしたくなるような場所があったら、良いと思う。

(御津南部地区・女性・60歳代)

- ・公共の老人ホームを建ててほしい。(御津南部地区・男性・50歳代)

- ・認知症について。若い人や子供達には理解が広がってきていますが、高齢者(65歳以上)への理解が今一つと思われま

す。老人クラブや〇〇サロンで趣味を楽しむのもけっこうですが、認知症について学んでほしいと思います。

特に軽度認知症は正常と誤解されて、近所トラブルを引き起こし、家族は重度認知症より大変な思いをしている事を理解していただきたい。家族がどんなに説明しても重度認知症のイメージ(TVなどで目にする妻や子どもの名前も忘れ、車イスにボーっと座っている姿)を認知症ととられている方が多いです。そのため、不要なトラブルになり近所付き合いが(それまで良好だったにもかかわらず)悪化し、本来なら安否確認をお願いし合えるはずが、交流断絶となるケースをよく耳にします。

是非、高齢者向けの認知症講座(特に軽度認知症の特徴)を開催し理解を広めていただきたいと考えます。軽度認知症は在宅介護がほぼ100%だと思いますのでより深刻なのです。家族は認知症の介護(始まったばかりで不安だらけ)に加え、近所付き合いのストレスが加わり、早く施設へ入れたいと思うのです。心身ともに疲れている状態を広く理解してもらいたいと考えます。理解があれば在宅で頑張ろうと思うと考えます。(小坂井東地区・女性・70歳以上)

- ・65才以上の方は老人クラブに入会、参加してほしいです。(小坂井東地区・女性・70歳以上)

(8) 子育てニーズ

- ・学校と地域へ、見た目が健常児（者）でもつまずきのある子（人）への細かい支援と周囲への差別がなく支え合って伸ばしてもらいたいです。学力、運動、芸術で発揮できる場所でアピールさせてあげたいです。（豊地区・女性・40歳代）
- ・ひとり親の子供さんの食事が満足にできていない事をよく耳にします。まわりの人がすこしずつでも自分たちが持ち寄ったり、食事に迎え入れたりしていけばいいと思う。（豊地区・女性・50歳代）
- ・今、女性が働きやすい環境をと言うことで、0才児からでも保育所に預けられるように等の風潮になっていますが、3才児まで母親が育てる事の意義を唱え、長い目で見た豊かな人材の育成のために、預けるばかりでなく、母親が自分で育てたくなるような環境をもっと整えていただきたいと思います。出生率が上がっても、すぐに母親と離れてしまう赤ちゃんばかりだったらどうでしょう。保育者や、子育てを頑張るお母さん方の話をもっとゆっくり聞いていただきたいと思っています。（桜町地区・女性・40歳代）
- ・子育て支援の充実には、まず市内に産科医院が非常に少ないため、豊川市で開業する時に市税を安くする等の検討をし、医院の増加を図ったらと思います。（桜町地区・男性・60歳代）
- ・未満児を預ける施設が少ない、年度途中は入りにくく、ポイントの高い人から入れるという条件が正社員にとって仕事するのは同じなので。働かなければならない人をもっと面談して、時間帯など関係なく決定してほしい。働かないといけない人にとって、もっと子育てしやすい環境を作ってほしい。市役所の対応がいつも悪いので、相談しにくいのもある。年度途中、保育園入園の決定の連絡は、決まらなかった人にも通知や連絡がほしい。（金屋地区・女性・30歳代）
- ・私を始め、母子家庭の親もいると思います（父子家庭の親も）。そんな1人親だけが集まってお話ができる場があるといいなと思います。出来れば離婚ではなく、病気などで死別された方の集まりがあれば同じ話など悩み相談が出来て少しでもストレス発散の場が出来ればありがたいです。（赤坂地区・女性・40歳代）
- ・初めての子育てで、不安や心配を抱えている人が多いと思うので、身近に気軽に相談できる場所があったらいいなと思いました。中には、こんな事聞いていいのかと思って相談しにくい人もいます。（御津北部地区・女性・20歳代）
- ・子育て中なので、同じ月齢の子が集まるサークルがあると良い。サークル活動の一覧ももらったが、途中から連絡し、入るのは入りづらい。途中から引越してきた人でも入りやすいグループがあると良い。（児童館、支援センターでの活動は参加している。）（御津南部地区・男性・30歳代）

(9) 障害者サービス

- ・ 障害者に対してもっとやさしい目で、みんなで見守ってほしい。障害者という言葉は適切なのだろうか。福祉の目から見た、障害者というのは。
(御油地区・女性・60歳代)
- ・ 私の娘は療育手帳を持っている子供で、現在、病院に通っています。言語訓練、作業訓練に行っているのですが、月に1回しか予約が出来ません。もう少し、ST（言語聴覚士）やOT（作業療法士）のいる病院や児童福祉相談を増やしてもらえると助かります。
(御油地区・女性・40歳代)
- ・ いつも市の対応に感謝しています。重度障害で色々大変ですが・・・訪問入浴、看護、リハビリなどの助けがあり、何とか暮らせております。ありがとうございます。
(三蔵子地区・女性・40歳代)
- ・ 豊川市は福祉サービスが少ないので、利用したくても出来ずに困っている人がたくさんいます。（特に子供の日中、放課後デイなど）知的の子供さんはあるようですが、肢体の子供さんはありません。もっと力を入れて下さい。
(長沢地区・女性・30歳代)

(10) 交通・交通マナー

- ・コミュニティバスは高齢者向けに走っていて、いいと思うけど、私の地区（三上町）は通りません。バス停まで10分以上はかかります。住む地区によって差があるのがおかしいと思う。近所の高齢者の方は、今まだ自転車で移動しています。同じ税金を納めているのに差があっていいのでしょうか。
横断歩道で立っている人をもっと増やして下さい。警察もたまに立って下さい。車のとりしまりばかりやらないで。子供の自転車マナーが悪すぎる。2列3列あたりまえ。中学校でマナーを教えてください。警察も中に入れて子供たちに教えるべき。
(東部地区・女性・30歳代)
- ・高齢者の交通事故の多い中、免許証返納について市内巡回バスはありますが、やはり時間的な事を考えてしまいます。人はそれぞれの用事で動きます。友人達の間でいろいろ意見がありますが、免許証返納で月に1～2回でもタクシーの半額サービス等があればどうかと思います。免許証返納で外出等が減り、引き籠もる事のリスクを考えます。外出して友人達との交流は情報集めの場でもあり、外出する事により購買力もあがると思います。まず、やはり外出のチャンスがほしいです。
(東部地区・女性・60歳代)
- ・高齢者が、お買物、病院など、移動しやすい町。バス停間の距離が短い、とか、いろんなルートがある。高齢者が、無理して自動車を運転しなくても、移動できるよう。
(豊地区・女性・50歳代)
- ・地域に医療施設、スーパーやコンビニ等がない為、離れた所まで行かなくてはならない。公共交通機関の充実。(高齢者ドライバーが多く、不安)
(千両地区・男性・20歳代)
- ・免許証の返納者への優遇又は80才以上の公共交通料金の補助。
(八南地区・男性・60歳代)
- ・最近高齢者の自動車事故がとても気になります。背景には認知症のお年寄りが車を運転していることがあると思うのです。マナーの悪い運転、一方通行の逆走など若者が犠牲になる前に対策をしてほしいです。例えば、30代、40代で親が認知症になったらこんな症状が出ますといった学びの場がほしい。60代、70代になったら認知症の検査のようなことを全員にしてほしい(住民健診に加えるなど)。認知症の早期発見の場を、つくってほしいです。(御油地区・女性・40歳代)
- ・遊歩道の設置をお願いしたいです。又、ぎよぎよランドへの歩道が狭く危ない。
(代田地区・女性・60歳代)
- ・私は障害者、要介護です。要介護者ですのでバスに多く来てもらいたいです。
(桜町地区・男性・70歳以上)

- ・市内循環バスをもっと充実してもらえたら嬉しいです。バスの運行本数やバス停の位置がもっと便利になると助かります。妊娠、出産、育児に関しての支え合い、助け合いがあると、一人でおいこまれてしまうお母さんが減ると思います。ただ、そのために何をどうしたら良いか、はわかりませんが、とにかく支援、助けがほしいです。
(桜町地区・女性・30歳代)
- ・私どもの地域にはコンビニやスーパー等ありません。今は免許も持ち買物にも不自由していませんが、近い将来、免許を返納することを考えると不安はあります。ファミリーサポートが子どもや高齢者の支援に広がることを望みます。どこかの市町村がポイントを配布して助けたり助けられたりする優しい制度があったように覚えております。お互い様という今の時代に少なくなった、お節介が当り前の昔に少しもどった考え方が懐かしいこの頃です。
(桜町地区・女性・60歳代)
- ・この地区は通学路の整備が進んでいないため、中学生が暗い中山林に囲まれた中を自転車で通学している。中学校の近くも道路が木々におおわれて、日中でもうす暗い状況の中を通学している。山林の地主に協力してもらい、せめて通学路付近は明るい見通しの良い状況になるように、道路におおいかぶさっている大木は整理していただきたい。台風の時に倒れたり、災害の大きな原因となったりするのはと不安である。又、犯罪の要因になるのではと、この道路を通るたびに不安である。市役所はもっと犯罪や災害の予防のために住民に言いにくいこともしっかり言って、協力してもらう活動をすべきである。特に土地を持っている方は、自分の所有する木々にも責任があることを知らせていくべきだと思います。知らない人がいるのではないかと思います。
(一宮東部地区・男性・60歳代)
- ・高齢者は何かと足がなく、出掛けるのも一苦労だと思います。障害者や高齢者に都合良く出掛けられるような交通手段を色々として頂けると良いと思います。あと、近所での支え合いもできるといいなあとと思っています。何かの時にはお互い助け合えるような、関係を作れたらいいですね。
(一宮東部地区・女性・40歳代)
- ・豊川市民病院近くの大型商業施設建設計画について、大型商業施設が出来た時に豊川市民病院へ向かう緊急車両の渋滞による到着遅れ。対策として市内に緊急車両専用道路の設置。市内バスの停車場所を小学校の通学路に設置し学校まで送れる時は送る（距離のある校区）。
(一宮南部地区・男性・20歳代)
- ・高齢になり車の運転が出来なくなった時、介護タクシーなど気楽に利用できるというなあとと思います。
(一宮西部地区・女性・60歳代)
- ・車に乗れなくなった時、公共のバスなどがないと、病院や買物に行けなくなることがおこる。
(一宮西部地区・女性・50歳代)
- ・最近のニュースで、高齢者の車の事故（ブレーキ、アクセルの踏みまちがえや、運転中に病死など）が多いように感じています。高齢の方がなるべく運転しなくてもすむように福祉タクシーや、買い物の手段を考えてほしい。免許返納の特典など。はぐみんカードは今までに1回しか使ったことがないので、廃止でもいいと思いますが。代

わりに、他の福祉に役立つように使って頂けたらと思います。生涯学習の一環として、例えばウィンディアホールのピアノを一時間安く弾かせてもらえたりするとうれしいです（他の自治体でやっているそうです）。（赤坂地区・女性・40歳代）

- ・公共交通機関やコミュニティバス等の充実を図って欲しい。（長沢地区・男性・50歳代）
- ・今は困っている事はあまり無いが、これから先この地区で年をとって暮らしていくのには不便な事が多すぎる。お店が無いので買い物にも不自由する。病院に行くにも都合の良い時にバスが無い。税金ばかり取られて、高齢者には都合のよくない町です。（長沢地区・男性・70歳以上）
- ・長沢地区は高齢者が多い。買い物へ行くにも車が必要となり高齢者でも乗らざるをえない。買い物をできる環境が必要である。（長沢地区・男性・40歳代）
- ・コミュニティバスが通っているが本数が少なく利用者も年寄りの病院通い位でまいちと思う。高校、中学生が通学に利用出来るダイヤで防犯を無くす。だれでもが一人でも多くの方が利用出来るコミュニティバス利用者のUP。（萩地区・男性・60歳代）
- ・最近、高齢者の交通事故が目立つこのごろ、私の両親も80代となり、車にはやむをえなく乗って運転をしています。心の中では、運転しないでほしいと思いながら、両親の外出に、都合良く私も車に乗せて動いてあげられず目をつぶる時ばかりです。山奥に住んでいる人たちの交通手段としては、車になってしまうので、高齢者が運転をしなくてもよくなる何かが出来たら良いと思いながら、願っています。（萩地区・女性・40歳代）
- ・高齢者家族が増えており、町内に商店がなく、生活するのに足が必要だが、コミュニティバスは便数が少なく利用しづらい。どうしても車が必要で、超高齢者も車の利用を余儀なくされる。危険がつきまとう。病院もなく通院もままならない。コミュニティバスの、始発がもう1時間早く、終バスがもう1時間遅く、中間にもう2～3便増やす。利用者も増加し、高齢者も、病院、買い物と活動範囲が広がり、健康を維持できると思われる。（萩地区・男性・70歳以上）
- ・お世話になっております。ありがとうございます。福祉バスは毎週お世話になっていきます。バスのおかげで6キロはなれた町も隣のように思います。福祉バスは私の宝でございます。今後共よろしくお願い申し上げます。（御津北部地区・女性・70歳以上）
- ・御津町は道が細く街灯が少ない。通学路があぶない。道が細いのに車は多くスピードがあるので注意の標識が欲しい。街灯も欲しい。子供の健診の待ち時間が長い。終了時間が上の子の学校の下校と重なるので、子供を待たせないといけないので困る。（御津南部地区・女性・30歳代）
- ・道路が幅4mとせまい。車での支援が難しい。（小坂井西地区・女性・60歳代）

- ・将来、足腰が弱った時、買い物に移動販売車などまわってくれたらいいな。
(小坂井西地区・女性・70歳以上)

(11) 情報提供

- ・私は豊川市に8年程前に引っ越して来ました。ここで家庭を持ち、子供も生まれました。隣近所との交流も無く、また行政が行っている豊川市の子育てサポート・支援制度などについても、殆ど何も知らない状態でした。
町内会には子供が小学生に上がる時までは入らなくても良いと先住者に言われました。子供を一時的に預かって貰うときは、よその市に住む妻の母親からサポートセンターの存在を教えて貰いました。開拓地域に新たに引っ越してきた住民も全く同様の状態だと思います。(豊川地区・男性・50歳代)
- ・福祉のことはこちらが知ろうと思わない限り、いくら行政が回覧や、インターネットで宣伝しても目に留まらない。どの様に周知させていくかが課題だと思う。続けることが一番大事だと思う。防犯は「声かけ」がとても大切だと思う。近所に住んでいる人の顔や、家族構成くらいは知っておくべきだと思う。(東部地区・男性・40歳代)
- ・忙しいと広報に目を通さないこともよくあります。地域でお手伝いできることについて、何らかの方法で直接耳に入るような呼び掛けがあると動く人もいるのではないかと思います。(東部地区・女性・50歳代)
- ・プライバシー保護の観点から、情報の流出に過敏な役員が多いと思う。本当に支援が必要だと感じるなら、それを乗り越えようとする気持ちが大事。自分が責められるかも知れないと思うと消極的になってしまう気持ちも分かる。板ばさみになって悩んでいる役員も多いだろう。役員の任期は1年なので、波風立てない方が、地域に安住できると考えても無理はないとも思う。これは方策ではなく、現状についての感想です。(豊地区・男性・70歳以上)
- ・子育て中は、予防接種のお知らせなど定期的に連絡してもらえる仕組みがあるといいなあと思っていましたが、20年位経った今は改善されているのでしょうか。その時々で立場で支援してほしいことは変化してきます。例えば介護の方に目を向けると近所の人には内緒にしておきたいという感情もあり、してほしい事がそのまましてもらえ事につながりにくいケースもあつたりします。(豊地区・女性・40歳代)
- ・行政の援助を市役所の窓口に行き相談した時に、はじめてこんな援助サービスがあるんだ。とわかることが多く、住民全員がそれぞれの援助を把握し、それを必要としている人に教えてあげて、気軽に役所に相談していけるようにできることも、とても必要である。税金もそれぞれに払っているわけだから知らない方がおかしい事。公に全ての支援サービスを市民全員が知り得ることができるようにしてほしいです。(豊地区・女性・50歳代)
- ・身体が不自由になってから町内への行事に参加出来ないことにより町内会を脱会しました。広報が届かなくなってから福祉のみならず豊川市が発信する情報が新聞記載以外把握できなくなりました。こうした中で歳を重ねていくと、いざ困った時に何処に相談できるのかわからず不安です(いつかスマホも止めてしまうと思うから)。災

害時は特に置き去りにされる可能性が高いと不安です。それと同時にペットと避難できる場所がわかりません。地域ごとにあるのでしょうか、調べてみましたがわかりませんでした。60歳以上の中年期～高齢期の方々は福祉サービスが充実されていると思います。50歳代以下の年代も現状と同じようにサービスを受けられるように対策をしていってほしいと思います。(中部地区・女性・50歳代)

- ・高齢者、障害者が受けられるサービス、支援、事業所など、だれでもわかりやすい資料、パンフレットなど各家庭に送ってほしい。知らないで困っている人が多く、追い込まれて自殺、家庭崩壊につながる。まずは情報をわかりやすく提供していけるといいと思います。若い人でも高齢化に向けて、早い時期から知っておくべきで、自分の人生設計を考えておくことがこれから必要。行政や人まかせではどうにもならないと思います。(天王地区・女性・40歳代)
- ・目前に迫っている感染症が起きた時、すぐに対応できるシステムを作っておくこと。そしてそれを全住民に知らしめる広報を万全に。(例、SERS、MERS、鳥インフルエンザ、ジカ熱、その他、極圏の永久凍土から融け出したウイルスその他)感染者が出た場合、いち早く隔離し感染が広がらないよう、受け入れ態勢が常時できていること。県、国との連携がしっかり出来ていること。福祉と医療が密接につながり、機能すること。が何より大切だと思います。福祉だけの単独はないと思います。(八南地区・女性・70歳以上)
- ・これはどこに相談したり、進言したりすればいいのだろうかって思うこと、やっぱり度々あります。私も何か気軽に手伝う事ができたらとか生活の中で当たり前にとけこんでみんな支え合っていけたらいいと思います。
同じ組の人はわかるけど、他の人はあまり知りません。ごみ出しひとつでも困っている人がいるとか情報を共有できて持ちまわりでも助けあえたら、自分の時も気軽に頼めます。公園の草とりでも何でも「市役所に頼めばいい」とかいう時代、もう終わりにして、昔のようにみんなでやったらみんなの町になるのになって思います。
町内の役員さんばかりがたいへんで、もっと下々に仕事をまわせればいいのに。と思います。(本当は仕事じゃないのに。)私1人じゃ何もできないし、わからないけど、少し年長の方に聞くと、「なるほど」って思うこといっぱいあります。その為、お知り合いになれた人とは明るくあいさつを交わせるように、心がけていきたいです。ごくろうさまです。
(八南地区・女性・50歳代)
- ・福祉、災害時等、何事においても情報提供伝達が一番重要だと思う。
(八南地区・女性・70歳以上)
- ・新しい家が多い地域に住んでいますので、若い人たちが多く、我が家も含めて近所付き合いは少なく、災害があった時などに不安を感じます。まだ子供も小さいので(3才、1才)、何かあった時どこでどうしていくのか、避難所はどこにあるのか、町内会に加入していて、回覧板などもみっていますが、情報が少ない様に感じます。情報が欲しいです。(平尾地区・女性・30歳代)

- ・福祉関係の活動をわかりやすく広報すること。(国府地区・女性・60歳代)
- ・広報について、現在豊川市では、自治会の加入者のみの配布と聞きましたが、アパートなどの住人が、ゴミ出しなどのルールやいろいろな活動などの情報がわからずじまい、みたいな所があるのではないかと思います。できることなら配布して、情報提供してあげれば少しでも関心を持ってもらえるのではないかと、と思います。
(代田地区・女性・60歳代)
- ・仕事の関係で夫婦共に他市町村(県外)から来て、地域や近所との接点がなく、参加したい行事などが、どこでやっているのかわからないことや、土日に勤務でなかなか協力しにくく、引け目を感じてしまう。もう少し町内の活動などの情報があると助かる。
(金屋地区・女性・30歳代)
- ・障害のある人もお年寄りも子どもも、結局のところ当事者やその家族しか情報を入手することができない(実際、調べてみればきちんと情報は得られるけれど、当事者が居ないと敷居が高いので。)という事が「助け合い」をやり難くしているのかと感じる。就学前の子を持つ親ですが、地域の小学校の事も全然知りません。仕事を持っているので、地域での活動に参加する機会もなく同世代の子を持つ親御さんから情報を得る事もできません。個人情報など配慮すべき点はありますが、学校の様子を知る事ができるホームページとか、あれば良いな、と思います。
高齢者、障害者に関しても、事業者側が広く一般向けに広報活動した方が良いのかなとも。(やっているけど。)(金屋地区・女性・30歳代)
- ・地域の方々で助け合ってやっていく事が理想だと思いますが、近所に知られたくない情報を地域の方に知られ、うわさ話などをされ、プライバシーがなくなってしまうのが怖いです。良心的に考えている方もいるとは思いますが、そういう方ばかりではないのはまちがいありません。実際に保育士、病院、役所の方から情報がもれているのも、よく聞く話です。豊川市は、小さな市なので、知人の知人という事がよくあります。「親しい仲にも礼儀あり」です。昔からのやり方よりも、新しい事を取り入れ、悪い体質をかえていく事が大事だと思います。そうしないと、町内会加入者が減り、まちづくりどころではありません。(金屋地区・女性・30歳代)
- ・町内会長に就任の際、下記2件の取扱いを検討しました。
 - ①経済的に苦しい住民(具体的に生活保護家庭)の町内会費の減免。
 - ②独居老人の見守り(緊急時及び通学時)。市役所に情報の提供を申請致しましたが「個人情報の保護」により拒否されました。町内会長は「行政の末端を担う」と思っています。「一定限度の情報は開示しても良いではないか」と思います。ご検討下さい(守秘義務は当然負います)。上記2件は会長の職にあった期間に下記対処しました。
 - ①会費減免は中止(現行通り徴収)。
 - ②見守りは調査し、リスト作成の上担当者(正=1名、副=2名)を選任しました。リストの取扱いは要守秘とし会長、代理者の2名のみが閲覧可の体制を整えています。(一宮西部地区・男性・70歳以上)

- ・一宮南部小から流れる広報とよかわの声がうまく聞きとれない時がある。
(一宮南部地区・男性・20歳代)
- ・主人が亡くなる前、家で世話しておりましたが、動けなくなって受入れていただく所がなくて困りました。入所したいと思った施設に入るにはどのような手続きをとればよいのか教えてほしいと思います。(萩地区・女性・70歳以上)
- ・形式的会議が例年行われているが、その内容を住民が知ることはない。その程度の会議である。他市や他県での良い施策はこうした会議で紹介されることはない。残念な公金の無駄づかいと思われる。市の健康に係る「新聞」は良い広報資料である。
(長沢地区・男性・70歳以上)
- ・支え合い、まちづくりは以前より取り組まれ活動されて来たことと思いますが、難しい問題ですね。活動した内容と問題点を洗い出し提示していただければ、住民、行政ともに考える機会を与えられると思います。区民館では出入が住民まかせです。市役所へ問い合わせても個人情報関係もあり教えてくれません。わかりはしますが教えない。地域での支え合いと言われても空しい限りです。メイン行事を一宮。音羽、御津、小坂井地区で実施して下さい。(同等の納税者、平等に)
(御津北部地区・男性・70歳以上)
- ・昔と比べ皆が仕事や介護等に忙しい生活を送っていることが多く、近所の人の方がよくわからないということが増えたように思います。プライバシーも大切だと感じています。その分、人間関係は希薄になっているので、近所の人との支え合いは大事だと思います。常日頃のあいさつや会話は基本だけど、最も大切だと思います。こんな事で困ったら、このような所へ相談したらいいという情報をもっとわかりやすく広告(アピール)してほしい。意外と介護などでわからなくて悩んで不安に思っている人は多いです。(小坂井西地区・女性・50歳代)
- ・若い世代へ向けての情報発信を含めたサービスの充実はインターネットを活用すると思います。回覧板や掲示だけでは、せっかくのサービスも目にとまらず終わってしまいます。地域への奉仕活動を含め意欲があっても参加する方法や一歩目の勇気がないケースが多いと思います。誰もが参加しやすいコミュニティづくりが必要だと思いました。(小坂井西地区・男性・30歳代)
- ・私は豊川に引っ越してまだ1年未満ですが、福祉に関する情報は必要としないからか目にする事もなく、必要な時に役所へ出向いたりインターネットを見たりして情報収集してきました。(父母もいるので、この市で今後どのような福祉援助支援が受けられるのかを調べていました)。対して地域活動については、住民登録時から自治体入会の紹介があったりして、ずいぶん丁寧に教えていただいたように思います。若い人も多いですが、高齢者も多いので、住民全体が福祉に関する情報に目を向けられるよう、小冊子でも良いので配られると良いな、と思います。仕事柄(医療関係です)、必要な時になり初めて要介護申請をされる方も多く、潜んでいる「困っている人」をみつけるにはまず情報が必要だと思います。広報は各自宅に配られるようなので、「困

りごと」に対して具体例を挙げ、市として何ができるかをリストにしてみたらどうか
と思います。(たとえば買い物に行きたいが足がない、病院に行きたいが足がない、
突然の不幸で介護が必要な人を預かってくれるところがない、給食サービスをうけた
い、など) 困ってからではなく、困る前に。(地区不明・女性・40歳代)

(12) 生活安全（防犯・防災）

- ・防犯対策として地域の草むらなどをなくした方がいいと思う。子供と同じ背丈の草むらが私の住む地区にはあるので危ないと思うし、車で走ると見通しが悪い。かんたんにできることを年に1回とかではなく、2、3回と、やっていった方がいいと思う。
(年末の工事はいりません。)
全体的に市民の危機管理能力が低い。台風の時に出歩いたり、雪の時出歩いたり、災害に遭っていない地域なので甘く見ていると思うので、講習などを増やした方がいいと思う。サービス業の方もいるので平日も行ってほしいです。子供にも学校で教えるべきだと思う。暴風警報がでているとき、出歩いている子供が目立ちます。
(東部地区・女性・30歳代)
- ・外灯を増やし、町を明るく。公園の外灯が照明を阻害している。歩道を広くする。段差をなくす。(豊地区・男性・70歳以上)
- ・街路灯を増してほしいです(夜道が暗いので)。(中部地区・女性・60歳代)
- ・災害時、1人暮らしで要支援の場合の地域の取り組み方を具体的に示して欲しい。(国府地区・女性・70歳以上)
- ・子ども会等の集会などで、防犯のことも少し学ぶ機会があればいいかなと思う。
(国府地区・女性・30歳代)
- ・この地方は本当に住み易い良い所だと感謝しています。役所の方々、地域の方々本当に温和で心遣いが温かこの地に生活の根を下ろした事にいつも感謝しています。高齢になり現在は自分が自立、健康を考えています。今後、目下心配なのは東海沖地震です。特に日頃の防災意識の向上が大切だと思います。自分の身は自分で守り、他者にもやさしい思いやりを大切にしたいと思います。(代田地区・男性・70歳以上)
- ・住民だけでなく、商店街や事業所も防災訓練を一斉に行うというのはどうでしょうか。
(代田地区・女性・30歳代)
- ・代田校区の避難所が送電線鉄塔のある所になっていますが、地震がおきた場合は倒れることが想定されます。又、諏訪川の横でもあり、このままではあぶないと思い避難場所として不適切ではないかと思われます。(代田地区・女性・60歳代)
- ・災害に遭った時、私達は避難所には行けません。家で過ごすか車で過ごすか病院に行くかです。近所の人にも迷惑をかけたくないという思いもあります。障害のある息子を近くの老人施設などで一時的でもいいのでおいてくれるなどの対処があるといいと思います(医療行為があり呼吸器、吸引器等の電気がいる物もある為)。災害時にその様な取り決めがなされていたら安全安心なのだと思います。
(三蔵子地区・女性・40歳代)

- ・ここ東海地方にも大地震が起こると予想されている中、地域での支え合いは必要だと思います。大地震が起きてからでは遅いので、今からでも地域での避難の仕方や避難場所の確認をしたりと再確認の意味でも、定期的に話し合いの場を設けたらどうかと思います。(一宮西部地区・男性・30歳代)
- ・萩町地域は山林が80%以上で今後大幅に人口が増える見込みがないなか、一番奥の方の岡崎市に近い町内では中学校への通学は片道5～6kmにもなる。又名電赤坂駅までも4～5km位あり、通学等に防犯体制が必要と考えられる。
(萩地区・男性・60歳代)
- ・私の住んでいる町には街灯がとても少ないです。夜になるとほぼ見えない状態です。パトロールカーも回ってくれてはいますが、まだまだ未遂ではあります。空き巣の情報もあります。夜でも明るく見えるような街灯を立てて頂くことは出来ないのでしょうか。町のスーパーの掲示板などを利用して、助けを必要としている人の声を生で届けるのはどうでしょうか。若いとあまり、市役所や支所などは行かないのでそういう所での掲示だとあまり意味がないような気がします。(赤坂地区・女性・20歳代)
- ・御津なので災害時、特に津波に関しての不安がある。もう少し災害の時の対応など地域で何か「それを知るイベント」などあればうれしい。
(御津南部地区・女性・30歳代)
- ・防災道具を自治体が安価で購入できるようにしたらいい。補助金制度でもいいと思う。
(小坂井東地区・男性・40歳代)
- ・自分達の時代と変わり現在はとても物騒な時代だと思います。そこで子供達をもっと安心して外遊びが出来る様、防犯に力をもっと入れていただきたい。期待しております。
(小坂井西地区・男性・30歳代)

(13) 公共施設

- ・町内の公園の手入れが行き届いていないので子供を遊ばせるのが不安。点検とかしているのかと思う。(ブランコなど錆だらけ)(東部地区・女性・30歳代)
- ・高齢者の福祉施設、サービスの受け方がいまひとつわかりづらい。結局、お金がかかると、老人は遠慮してしまう。公園のまわりを明るくしてほしい。よりウォーキングなどがしやすいように。図書館の開放時間を長く。そして、その周辺を明るく(夕方～夜、危険)。(豊地区・女性・50歳代)
- ・東部小校区のことですが、校区内に児童館がない。公民館がなく、市民館は常にかぎがかかっている。公園に遊具がない、もしくは少ないので、子供が集まって遊ぶ場所が限定的である、児童館があればいいのにとずっと思っていた。
(中部地区・女性・70歳以上)
- ・65才以上の方が多くなってくるため(2025年問題)、健康で長生き出来る町づくりが必要だ。つまり、公園などでイベントなど、子供から老人まで集まって出来るもの(将棋など。保育園のとなりにデイサービスをつくる、など。)何でも自分で出来る健康なお年寄りを増やせるまちづくりを期待します。
巡回バスもひんぱんに走らせ、年寄りの方が自分で買い物など行ける様に出来たらいいと思います。薬づけにならない年寄りを増やしたい。(牛久保地区・女性・60歳代)
- ・ふれあいセンター等(市の施設)閉館時間が早すぎる。冬18:00、夏19:00希望です。体育館の利用を70才以上又は75才以上の割引、80才以上は私の知る限りは1人しかいません。無料とは言いませんが¥100を希望。ふれあいセンターの利用は無料です。
(八南地区・男性・60歳代)
- ・〇〇の跡地に文化施設を計画しているようですが、文化会館と旧宝飯郡の御津町、小坂井町、音羽町に素晴らしい文化施設がある。それぞれ特徴を生かして活用すればいいのではないですか。勤労福祉会館はかなり古いし収容人員数や活用方法が無いから取り壊し。そこで、提案です。△△跡地に要介護老人や障害者等の幅広い受入れ施設として福祉村と児童福祉施設と併設してはどうでしょう。〇〇の跡地には、上記の福祉関連施設として介護士や保母さん、ボランティア等の育成施設としてはどうでしょう。市民病院と連携してサービス面も施設規模も他市町村の見本となるような福祉村とするよう提案したい。(御油地区・女性・60歳代)
- ・子どもがのびのびと遊べる環境や、公園などにもう少し小さい子向けの遊具等を設置すると小さな子(3歳未満)を連れた保護者も遊びに行きやすく、子どもを通して保護者同士の関わりも増えていくと思います。
また、高齢者の方もいきがいが持てる様な取り組み(物を作るイベント等)を通して色々な方と話せる場面があると良いと思います。(代田地区・女性・20歳代)

- ・コンパクトな街づくり。交通機関を利用しなくても住宅地より歩いて数分の場所に e x 公共施設、病院、商業施設（衣、食）等が整った街づくりを目指して下さい。
(代田地区・男性・60 歳代)
- ・福祉のまちづくりに関しては、これから高齢者が多くなり、障害者の方も含め建物を建てる際はバリアフリー化を取り入れていってほしいと思います。
(一宮西部地区・男性・30 歳代)
- ・新町通には公園が近くにないので早く公園をつくってほしい。ちいさい子供の遊ぶ所がなさすぎます。ゴミステーションの近くに住んでいるのですが、ゴミが多く飛んできます。どうにかなりませんか。近所の方々も言っています。
(一宮西部地区・女性・20 歳代)
- ・音羽図書館の広場の遊具が昔はいろいろあったのに、今は少なくなってしまい、淋しく感じます。1 つでもいいので大きな遊具が出来ると保育園帰りなど、もっと子供が楽しめて、外で遊ぶこどもが増えると思います。ぜひ、遊具の検討をお願いします。
(赤坂地区・女性・40 歳代)
- ・私は現在老老介護中（6 年前に家内がくも膜下出血にて半身マヒ）で、火、木、土と週 3 回施設を利用しておりますが、自分の体調維持のため、幸田町の市民プール運動施設を週 2 回活用しております。65 才以上は 200 円で町外住民も受け入れており、大変助かっていますが、市町村合併後大変りっぱな公共施設が、むだになってはいないでしょうか。出来れば豊川市にも学校区単位で開設すれば、医療費の削減にもなると思いますので、ぜひ検討していただきたい。（赤坂地区・男性・70 歳以上）

(14) 行政ニーズ

- ・町内会任せにしないでほしい。すでに町内会への参加者が減少する状況において、これらの活動を地域の町内会に対して行政が依頼した場合、町内会に参加している人、さらに役員の方に負担がかかり、ますます町内会への参加者が減ることになる。住み易い町は、本来その地域に住む全員が恩恵を受けるはずなのに、その負担を町内会に参加する者だけが負うのは不公平である。住民税を上げて行政サービスを向上させるのも一つの方法ではないか。
また、地区の大きな行事に町内会から人を出すやり方を見直さなければ、ますます町内会への参加が減ると思う。連区学区の活動に行政の職員が実際に参加すべき。会合にも参加して意見を聞いて直接話をするべき。ただ単に「お願い事項」だとか、「要請事項」と連区の長を通じて指示だけするやり方を、まずは改めるべきではないですか。(豊地区・男性・40歳代)
- ・外国人のマナーが悪すぎる。そこを行政で何とかしなければ、今後ますますトラブルが増えていく。そんな事も把握出来ていないのに、こんなアンケートは、無意味の何ものでもない。無駄な事をせずに地域住民のためにつとめてほしい。
(平尾地区・男性・40歳代)
- ・行政は地域の補助支援をしてくれれば良い。行政は裏仕事に徹するべき。
(平尾地区・男性・70歳以上)
- ・各地域への金銭的な支援をすればいい。(千両地区・男性・30歳代)
- ・種々思うことはありますが、高齢のため一言。他市に比べて高齢者に市の対応について優遇措置が不足していると思う。例えば交通機関の乗車補助 or 催し物事業等、その他色々の配慮等。(八南地区・男性・70歳以上)
- ・福祉のまちづくりを推進していくために、行政と地域の連携が必要だと感じる。行政は、地域の住民が参加したいと思えるようなイベントを通して、制度の説明をすべきではないか。(御油地区・男性・30歳代)
- ・行政は「何に取り組んできた」かのアリバイ作りではなく実体として「このように変わった」「このような成果が得られた」等の結果を求める施策を推進して欲しい。
(代田地区・男性・70歳以上)
- ・ひとり親家庭の人は生活が難しくて親や兄弟と住んでいる人もいるので、手当をなくすのではなく、少しでももらえるようにすると助かると思う。介護のため、仕事につけない家庭はもう少しなんとかしてあげるべきだと思う。老人ホームの利用料を下げるなど。市役所などの施設での対応者の態度や説明の仕方がこわかったり、早口だったり、難しかったりするので相談しにくい。声をかけたりもう少し分かりやすく話してくれるといいと思う。(代田地区・女性・30歳代)
- ・高齢者向けのサービスが充実していると感じられる。しかし、若者(学生や20代中心)へのサービスが少ないと感じる。そのため若者のための福祉サービスがあると良

い。福祉サービスとして、親や地域住民が子どもに対して過保護ぎみである。そのため、行政はすぐ意見を取り入れ、問題を解決するのではなく、教育上の問題として住民に説明し、共に解決すべきと考える。高齢者施設がぞくぞくと建設されているが、そこへ入所するための費用や介護士の人たちなどの賃金が低いことが目立つ。そのため行政は福祉サービスとして、更に支援すべきである。何事にも禁止事項が多いため、些細なことは身を持って学習すべきである。そのため、若者と年配者の間に概念の違いが生まれ、地域付き合いの妨げとなっていると考える。

(一宮東部地区・男性・20歳代)

- ・父が地域のイベントや行事に参加しています。知ってはいますが、私たちのように若い20代はどうしても仕事だったり予定だったりなかなかむずかしいのが現状です。若い人たちがブースを作り、地域の若者同志で集まれるようなイベント（雑貨やおかし販売、音楽など）やおしゃれなマルシェなど企画する人が集まり、募集をしたり、毎月マルシェを開催する市もあります。大変かと思いますが。若者はSNSが大好きなのでおしゃれイベントをする人を集める。地域の防災や避難訓練などはどうなっているか知らない。危険な道をチェックするとか市民や職員の人たちが一緒にやり、もっと行政から働きかけてください。大変だと思いますが若者として期待しています。街コンとかも企画してください。(一宮南部地区・女性・20歳代)

- ・直接福祉には関係ない事ですが、講演会等でいろんな人を呼び、大勢の人に話を聞く機会を与えてくれる事は良い事だと思いますが、今回このようなアンケートをするなら、講演会や、福祉、人助け等とか災害に役だつ話、長年介護・福祉に関わっていた話等で人々の勉強になる話とか、北朝鮮における拉致された遺族の方々の話（話を聞いていろんな人に拉致による被害その悪を広める事）、災害を体験された方によるその時の対処法等を聞く、参考になる講演会にして欲しいと思う。

テレビ、マスコミで騒がれた方は名が知っているとは思いますがその話を聞いて参考にしようとは思わないと思うし、感銘をうける事はないと思います。費用を使って人を呼び、人を集めるのなら、もっと有意義な、お金を出している人々にぜひ参考にしたいと思う、話のできる方を呼んで欲しいです。目立たないが全国にもっと意義のある生き方をしている人がたくさんいると思うのですが。

(萩地区・女性・60歳代)

- ・行政として何をしているか。行政が行えないから、地域への対応と変わっているのでは。行政の活動が不十分で芯の通った腐心ができていない。表面的な対応ですんでいるのではないか。(長沢地区・男性・70歳以上)

- ・行政の支援をもっと充実させるべきである。(赤坂地区・男性・50歳代)

(15) その他

- ・いつもお世話になります。ありがとうございます。助けられています。ありがとうございます。(豊川地区・男性・50歳代)
- ・とにかく老、若、男、女、子が常に笑顔で気持ち良くあいさつが出来るような社会が希望です。(桜木地区・女性・70歳以上)
- ・皆様よろしくお願ひ申し上げます。私は1人1人が自身を大事に愛し、又家族も愛し助け合って日々を送れば、楽しい良い町になると思います。今は不自由な身体ですので子供が電話すれば夜中でも直ぐに助けに来てくれて、安心と感謝の日々を送っております。(中部地区・女性・70歳以上)
- ・高齢者の支援の強化、失業保険の強化、市民税の強化、若者の将来のため支援、入院保険、被害者の助け合い、障害者の助け合い、入社祝い金、飲酒の検問、事故減少の徹底、ひとり親家庭の助け合い、シングルマザー手当等があれば良いと思います。(牛久保地区・男性・20歳代)
- ・協力したい気持ちはありますが仕事をしている以上、なかなかできないのが現実です。(天王地区・女性・60歳代)
- ・ゆうあいの里へ歩いて行く時に通る、東名高速道路の下のトンネル内が汚い。虫の死がいや電灯まわりのくもの巣が多く、ベビーカーを押して歩く時とても嫌だと感じる。もう少し歩道をきれいにしてほしい。もしくは自主的に歩道のゴミを集めてきた人に、ゆうあいの里から活動証明を出すなど、地域の人々のやる気を出させるようなしくみがゆうあいの里から発信されるとよいと思う。(平尾地区・男性・70歳以上)
- ・役所の受付にプロ意識のない方が一部いるので、教育すべき。(御油地区・女性・70歳以上)
- ・施策推進の効果を数値で表すことができると良いですね。(国府地区・男性・60歳代)
- ・今後、日本はますます高齢化社会になっていきますが、老夫婦や高齢者の一人暮らしでも安心して暮らしていけるようにしていくことが大切だと思います。そうすれば、介護疲れの事件などなくなっていくと思います。また、介護を必要としない、自分のことは自分でできるように高齢者になる前から、自分の健康にも気をつけて、過ごすことが大切だと思います。(代田地区・男性・20歳代)
- ・現在、会社勤務のため、時間と日々の生活に追われ、福祉などの事を考えるゆとりがありません。近い将来、自分達もお世話になる福祉の問題は考えなければなりません。特に、老人介護問題での福祉については考えてみたい。又考えてほしいと思います。老人介護問題は、これから先の自分達にも十分考えなくてはならない問題だと思います。(介護認定がおりるまでには、いくつかの事をクリアしなければならない) お役所の手続きが多すぎるのも問題があると思います。(金屋地区・女性・60歳代)

- ・地域の人と過ごす時間があまりない私にとって、地域やまちづくりについて何が良いまち・地域で何が悪いまち・地域なのか考えることは難しいです。
(三蔵子地区・女性・20歳代)
- ・特に思い付きません。自分の本当の思いに従い、それを表現することができればと考えます。(赤坂地区・男性・60歳代)
- ・学生なので就職したら考えたい。今は自分のことで精一杯なので。
(萩地区・男性・20歳代)
- ・あらゆる機関や人々は、福祉について常に改善と革新を考える必要があり、税金をそのために投資していくことは必要であり、福祉のまちづくりが充実されることは、まちをどんな未来にしたいのかということにつながると思う。
(地区不明・男性・50歳代)
- ・仕事、家の事で、生活がっぱいっぱいなので、ゆっくり考える時ありません。よく考えるのは、仕事もなくなって老後の生活がいちばん不安に思います。考えると不安しかないので、あまり深く考えない様に今を一生懸命に生きるだけです。
(地区不明・性別不明・年代不明)

参考資料 アンケート調査票

豊川市

地域福祉に関する市民アンケート

市民の皆様には、日頃から豊川市の福祉行政の推進に、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

現在、豊川市では、地域の実情に即した地域の福祉の推進をめざし、第3回目となる「地域福祉計画」の策定を予定しています。

この計画に市民の皆さんのご意見や実情を反映させるため、20歳以上の方から無作為に選んだ2,000人を対象にアンケート調査を実施させていただくことといたしました。

ご多用中とは存じますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、このアンケートはすべて統計的に処理しますので、回答された方が特定されることはございません。

平成29年1月

豊川市長 山脇 実

ご記入にあたってのお願い

- 1 このアンケートは、あて名に記載されているご本人がご回答ください。ご本人がご記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の意思を確認の上、ご記入ください。
- 2 設問には、平成29年1月1日現在の内容でご回答ください。
- 3 ご回答は、設問の案内にしたがって、該当する番号に○を付けてください。
- 4 調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**1月31日(火)**までにご投函ください。(切手不要)

※このアンケート調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

豊川市役所 福祉部 福祉課

TEL: (0533)89-2131

FAX: (0533)89-2137

1 あなたご自身のことについておたずねします

問1 性別を記入してください。(どちらかに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 年齢はおいくつですか。平成29年1月1日現在でお答えください。

満()歳

問3 家族構成を教えてください。(○は1つ)

[世帯の人数は()人]

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦のみ |
| 3. 親とあなたの二世帯 | 4. あなたと子の二世帯 |
| 5. 三世帯世帯(親と子と孫) | 6. その他(具体的に) |

問4 ご職業を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 自営業(農林漁業、商工業自営など) | 2. 会社員 |
| 3. 公務員・教員・団体職員 | 4. 派遣社員 |
| 5. パート・アルバイト・内職 | 6. 学生 |
| 7. 専業主婦(主夫)・家事手伝い | 8. 無職(年金生活含む) |
| 9. その他(具体的に) | |

問5-1 住んでいる地域(小学校区)はどちらですか。わからない場合は、町名をお書きください。
(○は1つ)

- | | | | | |
|----------|--------------------|----------|----------|----------|
| 1. 豊川 | 2. 桜木 | 3. 豊 | 4. 東部 | 5. 牛久保 |
| 6. 中部 | 7. 天王 | 8. 八南 | 9. 平尾 | 10. 千両 |
| 11. 国府 | 12. 御油 | 13. 代田 | 14. 桜町 | 15. 金屋 |
| 16. 三蔵子 | 17. 一宮東部 | 18. 一宮西部 | 19. 一宮南部 | 20. 赤坂 |
| 21. 長沢 | 22. 萩 | 23. 御津北部 | 24. 御津南部 | 25. 小坂井東 |
| 26. 小坂井西 | 27. わからない(町名を記入:) | | | |

問5-2 町内会に加入していますか。(どちらかに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 加入している | 2. 加入していない |
|-----------|------------|

問6 現在の場所に何年ぐらいお住まいですか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|-----------|------------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～5年未満 | 3. 5～10年未満 |
| 4. 10～20年未満 | 5. 20年以上 | 6. わからない |

問7 お宅の(経済的な)暮らし向きをどう感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. かなりゆとりがある | 2. ややゆとりがある |
| 3. ゆとりはないが苦しくはない | 4. やや苦しい |
| 5. かなり苦しい | 6. わからない、何とも言えない |

2 地域との関わりや地域に対する意識についておたずねします

問8 お住まいの地域は、あなたにとって住みやすいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 住みやすい | 2. どちらかといえば住みやすい |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 5. 住みにくい | |

問9 近所の方と、どの程度のお付き合いをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. 家を行き来するなど親しく付き合っている | 2. 顔が合えば立ち話をする程度 |
| 3. あいさつをする程度 | 4. ほとんど付き合いはない |

問10 近所の人と相談し合う、助け合うことについて、どのように思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 必要である | 2. ある程度必要である |
| 3. あまり必要でない | 4. 全く必要でない |
| 5. わからない | |

問 11-1 ここ5年間に地域の行事（祭や盆踊り等）や活動（清掃等）にどの程度参加しましたか。
（○は1つ）

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. ひんぱんに参加している | 2. ときどき参加している |
| 3. あまり参加していない | 4. 参加したことがない |

問 11-1 で「3. あまり参加していない」「4. 参加したことがない」と答えた方にお聞きます

問 11-2 地域の行事や活動に（あまり）参加したことがない理由を教えてください。
（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 自分以外の家族が参加しているから | 2. 気の合う人や話の合う人がいないから |
| 3. 引っ越して間もないから | 4. 情報が入ってこないから |
| 5. 参加するきっかけがないから | 6. 仕事や家事・育児・介護で忙しいから |
| 7. 自分の時間を大事にしたいから | 8. 活動内容に興味・関心がないから |
| 9. 身体の具合が悪いから | 10. その他() |

3 地域での支え合いや福祉への関心についておたずねします

問 12 地域での支え合い活動のうち、どれに関心がありますか。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 子育てへの支援 | 2. 高齢者への支援 |
| 3. 障害者への支援 | 4. ひとり親家庭への支援 |
| 5. 引きこもりへの支援 | 6. 健康づくりへの支援 |
| 7. 災害時の助け合い | 8. 特にない |
| 9. その他() | |

問 13 近所にひとり暮らしの高齢者や障害者、ひとり親家庭など、何らかの支援を必要としている人がいた場合、どのように手伝いたいと思いますか。（○は1つ）

- | |
|---------------------------------|
| 1. できる限りの手伝いをしたい |
| 2. 頼まれたことは手伝いたい |
| 3. 簡単なことなら手伝いたい |
| 4. グループ活動の一員として手伝いたい |
| 5. 手伝いたい、ためらう |
| 6. 誰かが手伝うはずなので、自分が手伝う必要はない |
| 7. 福祉サービスを利用すればよいので、自分が手伝う必要はない |
| 8. その他() |

問 14 近所で困っている人がいた場合、「手助けできること」はどれですか。

また、実際に自分が困った場合、近所の人に「手助けしてほしいこと」はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

項目	手助けできること	手助けしてほしいこと
①安否確認の声かけ		
②話し相手		
③悩み事、心配ごとの相談		
④ちょっとした買い物		
⑤ちょっとした家事(電球交換など)		
⑥ごみ出し		
⑦短時間の子供の預かり		
⑧子育ての相談		
⑨保育園・幼稚園への送迎		
⑩外出先(買い物や通院など)への送迎		
⑪その他(具体的にご記入ください)		
⑫特になし		

問 15 住みやすい地域を実現していく上で、問題となることは何だと思えますか。

(○は3つまで)

1. 近所付き合いが減っていること 2. 地域で交流する機会が少ないこと 3. 日中、出かけている人が多いこと 4. 地域活動への若い人の参加が少ないこと 5. 校区・町内会等の活動などへ参加しにくいこと 6. 住みよい地域社会を実現する仕組みがないこと 7. プライバシーが守られないこと 8. 困っている人への理解が低いこと 9. 助け合い、支え合いは必要ないと思う人が多いこと 10. 地域に関心のない人が多いこと 11. その他 ()
--

問 16 誰もが安心して暮らしていくために、特に必要だと思うことは何ですか。(○は3つまで)

1. 見守りや安否確認
2. ボランティア活動の充実
3. 福祉教育の充実
4. 福祉サービスの情報提供の充実
5. 子育て支援の充実
6. 高齢者支援の充実
7. 障害者支援の充実
8. 医療の充実
9. 健康づくりや介護予防の充実
10. 生きがいづくり・社会参加の促進
11. 生涯学習や生涯スポーツの充実
12. 防災・防犯体制の充実
13. 道路や施設のバリアフリー化の推進
14. 相談体制の充実
15. 災害時の避難誘導・助け合い
16. 地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成
17. 福祉サービス利用者の苦情解決の仕組
18. 福祉サービスの質を評価するための仕組
19. 判断能力に支障がある人への日常生活支援の充実
20. 福祉施設の整備
21. その他 ()

問 17 社会福祉協議会をご存じですか。(○は1つ)

1. 名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている
2. 名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
3. 名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない
4. 名前も活動内容も知らない

問 18 民生委員・児童委員をご存じですか。(○は1つ)

1. 名前を知っているし、どのような活動をしているかも知っている
2. 名前を知っているし、どのような活動をしているかは少し知っている
3. 名前は知っているが、どのような活動をしているかは知らない
4. 名前も活動内容も知らない



4 ボランティア・地域活動についておたずねします

問 19-1 これまでに「参加したことがある」ボランティア・地域活動はどれですか。

また、参加経験の有無にかかわらず「今後(も)参加してみたい」ボランティア・地域活動はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

項目	参加したことがある	今後(も)参加してみたい
①子育てや子どもへの支援		
②高齢者への支援		
③障害者への支援		
④自然環境の保護(里山保全等)		
⑤清掃・美化・花壇づくり・リサイクル活動		
⑥祭りやイベント		
⑦募金活動		
⑧災害ボランティア		
⑨文化、芸術、スポーツの振興		
⑩外国人への支援		
⑪健康づくり		
⑫地域防犯・交通安全		
⑬その他(具体的にご記入ください)		
⑭参加したことがない(特になし)		



問 19-1 で「⑭参加したことがない」と答えた方にお聞きします

問 19-2 ボランティア・地域活動に参加したことがない理由を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 仕事や家事で忙しいから | 2. 体が弱い、病気がちであるから |
| 3. 高齢者・障害者や病気の家族の世話をしているから | 4. 子育てなどで忙しいから |
| 5. 活動の内容や参加の方法がわからないから | 6. 相談するところがない・わからないから |
| 7. 経済的にゆとりがないから | 8. 興味や関心がないから |
| 9. その他() | |

問 20 ボランティア・地域活動が活発になるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 地域の人同士の付き合いがあること | 2. 活動に気楽に参加できる雰囲気があること |
| 3. 活動の内容がよく知られていること | 4. 活動の意義がよく理解されていること |
| 5. 家族や職場の理解があること | 6. 共に活動する仲間や友人が多いこと |
| 7. 活動したい人に活動の場が紹介されること | |
| 8. 活動の内容を学んだり体験したりする機会があること | |
| 9. 活動経費の援助があること | 10. 活動拠点などの便宜が図られること |
| 11. 表彰制度があること | 12. 相談できる窓口があること |
| 13. 活動のリーダーが育成されること | 14. 特にない |
| 15. わからない | 16. その他 () |

5 暮らしの中での不安やその相談相手などについておたずねします

問 21 あなたは暮らしの中で、どのような悩みや不安をお持ちですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 健康に関すること | 2. 子どもに関すること |
| 3. 家族・親類に関すること | 4. 介護に関すること |
| 5. 将来のこと | 6. 近所付き合いに関すること |
| 7. 仕事に関すること | 8. 住まいに関すること |
| 9. 収入や家計に関すること | 10. 防犯に関すること |
| 11. 災害に関すること | 12. 暮らしの環境に関すること |
| 13. 外出時の移動手段に関すること | 14. 特にない |
| 15. その他 () | |

問 22 悩みや不安について、あなたは誰(どこ)に相談していますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 家族・親類 | 2. 近所の人・友人 |
| 3. 職場の人 | 4. 民生委員・児童委員 |
| 5. 市役所・支所 | 6. 社会福祉協議会 |
| 7. 保健所・保健センター | 8. 地域包括支援センター |
| 9. 保育園・幼稚園・学校 | 10. 病院の医師・看護師 |
| 11. 福祉サービス事業所 | 12. 相談相手がいない |
| 13. 特に相談することはない | |
| 14. その他 () | |

6 これからの地域福祉についておたずねします

問 25 地域福祉を推進させていく上で、行政と地域住民の関係について、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. まず家庭や地域住民の中で助け合い、解決できないことは行政が支援すべきである
2. 行政と住民が協力し合い、ともに取り組むべきである
3. 行政だけでは解決できない問題についてのみ、住民は協力すればよい
4. 地域福祉を推進する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
5. その他 ()
6. わからない

問 26 あなたの住む地域における防犯に関する取り組みとして、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 目ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い
2. 危険箇所の把握
3. 地域の要支援者（ひとり暮らしの高齢者等）の把握
4. 地域活動（防犯パトロール等）への参加・支援
5. 地域と学校、保護者の連携強化
6. 犯罪に関する学習会
7. 回覧板などによる犯罪に関する情報提供
8. その他 ()

問 27 あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 目ごろからのあいさつ、声かけや近所付き合い
2. 危険箇所の把握
3. 地域での避難訓練
4. 地域における支援体制の構築
5. 防災の学習会
6. 地域の要支援者の把握
7. 要支援者に対する情報伝達体制の構築
8. 災害ボランティアの育成
9. 要支援者向けの避難施設（車椅子対応トイレや乳幼児対応設備があるなど）の確保
10. その他 ()

豊川市
地域福祉に関する市民アンケート
調査結果報告書

平成 29 年 3 月

発行 豊川市 福祉部 福祉課

〒442-8601 愛知県豊川市諏訪 1 丁目 1 番地
T E L 0533-89-2131
F A X 0533-89-2137